

石川県民意識調査 報告書

平成 27 年 3 月

石川県

はじめに

本調査は新たな長期構想の策定に際し、県政の主要課題に対する県民の意向等を幅広く把握し、策定の基礎資料とすることを目的として実施したものである。こうした調査は、前回新長期構想が改定された際にも実施しているが、今回調査に当たっては、住みやすさなどの質問項目は前回調査から継続し、県民の意識がどう変化したかを確認するとともに、社会経済情勢の変化を踏まえ、人口減少対策に関する設問を追加するなど質問項目を大幅に見直した。調査対象は住民基本台帳から無作為抽出した20歳以上の県民5,000人、有効回収数は2,732通、回収率は54.6%、回収数の内訳は男性1,170通(42.8%)、女性1,403通(51.4%)、無回答159通(5.8%)であった。

調査の概要

- 1.調査の目的 石川県民の意識や現状を把握し、新たな長期構想策定のための基礎資料を得る。
- 2.調査期間 平成26年9月16日～10月3日
- 3.調査地域 石川県全域（19市町）
- 4.調査対象 20歳以上の男女
- 5.標本抽出法 住民基本台帳を抽出台帳とする無作為抽出
- 6.調査方法 郵送法
- 7.標本数 5,000件
- 8.有効回答数 2,732件(54.6%)
- 9.地域別の回収状況

地域区分	市町名	標本数		回収数		回収率	
		市町単位	地区単位	市町単位	地区単位	市町単位	地区単位
①奥能登	輪島市	119	298	73	172	61.3%	57.7%
	珠洲市	64		36		56.3%	
	穴水町	38		16		42.1%	
	能登町	77		47		61.0%	
②中能登	七尾市	237	557	114	301	48.1%	54.0%
	羽咋市	95		54		56.8%	
	志賀町	90		51		56.7%	
	宝達志水町	58		32		55.2%	
	中能登町	77		50		64.9%	
③石川中央	金沢市	2,010	3,148	1,019	1,625	50.7%	51.6%
	かほく市	148		72		48.6%	
	白山市	472		252		53.4%	
	野々市市	241		130		53.9%	
	津幡町	160		92		57.5%	
	内灘町	117		60		51.3%	
④加賀南部	小松市	462	997	267	561	57.8%	56.3%
	加賀市	296		160		54.1%	
	能美市	212		112		52.8%	
	川北町	27		22		81.5%	
無効・無回答				73			
計		5,000		2,732		54.6%	

10.回答者の年齢・性別

	N	男性									女性								無効・無回答
		小計	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無効・無回答	小計	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無効・無回答		
総数	2,732 100.0%	1,170 42.8%	79 2.9%	118 4.3%	199 7.3%	182 6.7%	325 11.9%	265 9.7%	2 0.1%	1,403 51.4%	108 4.0%	189 6.9%	245 9.0%	238 8.7%	338 12.4%	283 10.4%	2 0.1%	159 5.8%	
男性	1,170 100.0%	79 6.8%	118 10.1%	199 17.0%	182 15.6%	325 27.8%	265 22.6%	2 0.2%		女性	1,403 100.0%	108 7.7%	189 13.5%	245 17.5%	238 17.0%	338 24.1%	283 20.2%	2 0.1%	

11.回答者の職業

	N	会社員		管理職	自営業		自由業 (開業医・ 弁護士等)	専業主婦 (主夫)	学生 (予備校・ 専門学校 含む)	無職	その他	無効・無回答
		事務系・ 技術系	労務・ 販売・ サービス系		商・工・ サービス業	農・林・漁業						
総数	2,732 100.0%	557 20.4%	301 11.0%	146 5.3%	148 5.4%	77 2.8%	80 2.9%	352 12.9%	29 1.1%	578 21.2%	275 10.1%	189 6.9%

12.調査受託 一般財団法人北國総合研究所(金沢市南町 2-1)

本調査における注意点：

- ① 各回答の構成比は回答者総数を基数として算出し、小数第2位を四捨五入したため、構成比合計が100.0%にならない場合がある。
- ② 1人の回答者に複数回答を認めた場合は、回答者総数を基数とするため、構成比合計は100.0%を超える。
- ③ 本報告書におけるNは有効回答数、(SA)は単回答、(MA)は複数回答、(2A)・(3A)は各々、2つの回答、3つの回答まで可能な設問であることを示している。なお、2回答、3回答が可能な設問については構成比合計を、それぞれ200%、300%としている。

目 次

調査結果の概要	1
1. 住みやすさ	
(1) 地域の住み心地	7
(2) 今後の定住意向	8
(3) 移住希望者に対する希望移住地域	9
(4) 分野別の地域の満足度（交通の便利さ、医療施設など）	9
(5) 「住みやすさ」と「満足度」からみた定住意向（クロス集計）	16
2. 北陸新幹線	
(1) 現在の3大都市圏への旅行回数と交通手段	17
(2) 東京圏への北陸新幹線開業後の旅行回数	23
(3) 東京圏への県内全線開業後の旅行回数	26
(4) 東京圏への北陸新幹線開業後の交通手段	28
(5) 東京圏への北陸新幹線開業後の交通手段を選ぶ理由	29
(6) 東京圏への県内全線開業後の交通手段	30
(7) 東京圏への県内全線開業後の交通手段を選ぶ理由	31
3. 基盤整備	
(1) 重点を置くべき基盤整備	32
4. 文化・スポーツ活動	
(1) 文化的活動の状況	33
(2) 文化活動のすそ野の拡大を図るために必要なこと	35
(3) スポーツを振興させるために必要な施策	36
5. 国際交流活動	
(1) 過去の国際交流等の経験内容と今後の活動意向	37
(2) 在住外国人と相互理解を深めるための施策	38
6. 雇用や産業	
(1) 仕事の継続意向	39
(2) 仕事を選ぶ際に重視する条件(60代以降に仕事を持った場合)	40
(3) 産業の担い手確保・育成に必要な施策	41
(4) 中心市街地の有する機能を維持するために必要な施策	42
(5) 農林水産業を活性化に必要な施策	44
7. 循環型社会の形成・自然との共生	
(1) 農地や森林の荒廃を防ぐための施策	46
(2) 自然と人が共生できる環境づくりのための施策	48
(3) 循環型社会の形成に必要な施策	50

8. 安全・安心

- (1) 災害に強い県をつくるために必要な施策・・・52
- (2) 犯罪被害から子どもを守るために必要な施策・・・54

9. 少子・高齢化

- (1) 高齢社会に必要な施策（サービスについて）・・・55
- (2) 高齢社会に必要な施策（健康・生きがいについて）・・・56
- (3) すこやかに子どもを産み育てて行くために必要な施策・・・58
- (4) 結婚支援に必要な施策・・・59
- (5) 妊娠・出産支援に必要な施策・・・60
- (6) 子育て支援に必要な施策・・・61
- (7) 子どもの育ち支援に必要な施策・・・62
- (8) 働き方の見直しについて必要な施策・・・63

10. 人口減少対策

- (1) 人口減少対策について重要な施策・・・64
- (2) 県外から就職、移住をする決め手となった理由・・・65

11. 保健・医療・福祉

- (1) 健康に関して興味のある情報・・・66
- (2) 症状別での医療機関の使い分け・・・67
- (3) 障害者のある人の社会参加を進めるために必要な施策・・・70

12. 教育関係

- (1) 学校教育で力を入れるべき施策・・・71
- (2) 高等教育機関の集積を生かすための施策・・・72
- (3) 生涯学習・社会教育で力を入れてほしい施策・・・73

13. 行財政運営

- (1) 行財政改革に必要な取組み・・・74

14. まとめ

- (1) 質問全般、その他に関するご意見・・・75

H26 年県民意識調査報告書グラフ一覧・・・75

アンケート調査票・・・76

調査結果の概要

アンケート調査の第一は、**地域に対する評価と定住意向**である。

住み心地の面（問 1）では、県全体で「とても住みやすい」が 25.0%、「どちらかといえば住みやすい」が 53.1%となっており、合わせて 78.1%という高い水準である。これは総合的な判断に関する問いであり、重要なものなので前々回、前回調査の結果と比べてみた。すると、表に示したように、「住みやすい」という答えがおおむね増加傾向にあることが分かる（表 1）。

地域別で見ると、今回、石川中央では「とても住みやすい」が 30.1%、「どちらかといえば住みやすい」（53.4%）を加えると 83.5%となっており、前回、前々回に比べて増加した。また、他地域より高水準となっている。他の地域もおおむね増加傾向となっているが、中能登だけ「とても住みやすい」が 14.0%→13.0%→11.6%と低下傾向となっており、今回調査では全地域で最低となった。ただ、「どちらかといえば住みやすい」を加えると 66.4%となり、奥能登の 64.0%を上回る。

表 1 「地域の住み心地」に関する調査結果の比較

（単位：％）

	今回		前回		前々回	
	A	B	A	B	A	B
県全体	25.0	78.1	18.5	77.2	19.9	72.5
奥能登	16.9	64.0	11.1	68.0	9.3	56.4
中能登	11.6	66.4	13.0	71.7	14.0	60.1
石川中央	30.1	83.5	21.8	81.7	19.6	73.0
加賀南部	21.2	75.0	15.2	73.2	20.8	71.9

備考：Aは「とても住みやすい」、Bは「とても住みやすい」＋「どちらかといえば住みやすい」の合計値

定住意向（問 2-1,2-2）の面では、県全体で「ずっと住み続けたい」が 41.6%、「住み続けたいが将来は分からない」が 37.4%で合計 79.0%と高い率となっている。地域別で見ると石川中央でやや高くなっているが、それほど差はない（表 2）。目立つのは年代別の差である。「ずっと住み続けたい」で 20 代男性が 19.0%に対して 70 代以上男性では 55.5%、20 代女性が 23.1%に対して 70 代以上女性が 49.8%と大きな差がある。逆に「良いところがあれば移りたい」と「ぜひ、よそに移りたい」では 20 代の男女が多く、70 代以上の男女で少なくなっている。この傾向は前回と同じとなっている。

表 2 「地域の定住意向」に関する調査結果の比較

（単位：％）

	今回 (平成26年)		前回 (平成18年)		前々回 (平成8年)	
	A	B	A	B	A	B
県全体	41.6	79.0	39.8	77.6	39.9	75.2
奥能登	42.4	75.0	43.1	79.7	37.9	70.9
中能登	38.9	73.8	43.3	81.0	41.7	72.7
石川中央	42.0	81.7	38.6	78.7	38.7	75.9
加賀南部	42.1	75.6	40.6	73.5	48.9	75.2

また、地域の満足度（問 3）を 19 項目について質問した結果、「周辺の自然環境」、「食材の豊かさ、食べ物のおいしさ」、「地域の治安のよさ」に対する満足度が特に高く、「総合的にみた住みよさ」でも満足度が高いことが分かった。地域別には、石川中央でもっとも満足度が高く、加賀南部がそれに次ぐ。これらの地域ではほとんどの項目で県全体を上回るか同程度となっている。奥能登では、交通、働き口、医療施設など多くの項目で満足度が低いが、自然環境、食材、治安では県全体を上回っている。中能登では、奥能登ほどではないが多くの項目で県全体より満足度が低くなっている。ただ、自然環境、治安は県全体をやや上回り、食材でもほとんど差がない状況である。

第二は北陸新幹線についてである。現在の 3 大都市圏への旅行回数と交通手段（問 4-1）では、年平均旅行回数については東京圏 2.13 回、大阪圏 1.98 回、名古屋圏 1.39 回となっている。前回と比べると、東京圏が 1.67 回から増加し、大阪圏も 1.89 回から増加しているが、東京圏のほうが増加幅が大きく、逆転している。名古屋圏も 1.19 回から増加した（表 3）。交通手段については、東京の場合は飛行機、電車、自家用車、バス、大阪の場合は電車、自家用車、バス、名古屋の場合は自家用車、電車、バスの順となっている。

次に東京圏への北陸新幹線金沢開業後の旅行回数と交通手段（問 4-2,5-1,5-2）についてである。まず、旅行回数は「現状と変わらない」が 3 割いるが、「増える」との回答が宿泊で 32.6%、日帰りで 22.0%となっている。県内全線開通後の旅行回数には、それほど大きな変化は見られない（問 4-3）。東京圏への交通手段の変化を見ると、奥能登と加賀南部を除いて新幹線（電車）利用者の割合が急増する。交通手段を選ぶ理由としては、時間、快適性、料金が重視される。男女どの年代でも時間を重視する割合がもっとも高いが、男性 20 代では 27.8%が料金を重視すると答えている。

次に東京圏への北陸新幹線全線開業後の交通手段（問 5-3,5-4）である。注目されるのは加賀南部であるが、金沢開業後も 30.3%となる小松空港利用者は、全線開業で 22.6%となり、依然として 2 割以上が飛行機を利用すると答えている。交通手段を選ぶ理由としては、男女全年代で「目的地まで早く到着できると思われるから」が最多となっている。

表 3 年間平均旅行回数の比較

(単位:回)

	今回調査 (平成26年9～10月)			前回調査 (平成18年8～9月)		
	宿泊	日帰り	合計	宿泊	日帰り	合計
東京圏	1.45	0.68	2.13	1.31	0.36	1.67
大阪圏	1.13	0.85	1.98	1.09	0.80	1.89
名古屋圏	0.71	0.68	1.39	0.66	0.53	1.19

第三は基盤整備についてである（問 6、3 つまで選択可）。

本県の基盤整備に対する要望の中では、「河川改修や海岸浸食対策、土砂災害対策、公共建物・民間住宅の耐震化、道路の消雪装置、緊急輸送道路の機能強化などの豪雨や豪雪、地震等の自然災害に備えた施設の整備」（66.7%）が最も高く、次いで、「すれ違い困難な道路の改善や歩道など安全な通行を確保する施設の整備」（42.8%）が 2 番目に高くなっている。3 番目は、「観光地や温泉街の街並みや景観、道の駅や寄り道パーキングなど観光拠点の整備」（26.8%）が選ばれている。

地域別で見ると、奥能登では「自然災害への備え」や「安全な通行」、中能登では「自然災害への備え」、石川中央では「渋滞解消」、加賀南部では「観光拠点」や「生活に潤いを与える空間」へのニーズが他の地域より高くなっている。

年齢・性別で見ると、20 代で男女とも、「観光地・温泉街など観光拠点の整備」や「新幹線、空港、高速道路、港湾など県外との広域交流を拡大する施設の整備」を求める割合が他の世代と比較して高い。

第四は文化・スポーツ活動についてである。

よく行っている文化的活動（問 7、3 つまで選択可）としては、「音楽、洋舞」が 32.8%と前回（22.8%）に比べて 10%伸びている。前は「音楽、洋舞」と同率だった「美術（絵画、彫刻）」は 21.4%と微減して 3 位になった。それに代わって前は選択肢になく今回から選択肢に入れられた「歴史的な建物や遺跡等の見学」が 25.2%と 2 位に入った。次いで「映像、写真」が 20.6%で 4 位になっている。

文化活動のすそ野の拡大を図るために必要なこと（問 8、3 つまで選択可）としては、「青少年が文化活動に親しむ機会を充実する」が 36.6%、「街並みや建造物など歴史的な遺産を積極的に保存・活用する」が 34.9%などとなっているが、ほとんどの選択肢が 20～30%台の支持を受けている。地域別にも、それほど大きな差はない。年齢・性別で見ると、女性 30 代で「青少年が伝統芸能に親しむための体験活動や鑑賞機会を充実する」が 49.2%と最高の数字を示している。

スポーツを振興させるために必要な施策（問 9、3 つまで選択可）では、「県民が参加できる各種のスポーツ行事、大会、教室を開催する」が 40.7%と最高であり、「総合体育館等の整備」と「体育施設の整備・開放」が 30%台、「一流選手との交流」、「スポーツ大会の誘致」、「クラブ等の育成」、「指導者の養成」、「情報の提供」が 20%台の支持を得ている。年齢・性別で見ると、男性 20 代が「総合体育館等の整備」（51.9%）、女性 20 代が「指導者の養成」（47.2%）を求めているのが目立つ。

第五は国際交流活動についてである。

過去の国際交流等の経験内容と今後の活動意向（問 10）については、全般に消極的な回答が多い。ただ、経験はないが今後は参加したいとの意向はある程度示されている。（途上国への援助 37.9%、在住外国人との交流 35.0%など）

最も積極的な対応が見られるのは「被災地域への義援金支援など」で、「参加したことがあり、今後も参加したい」が 26.7%となり、前回の 19.7%を上回っている。

在住外国人と相互理解を深めるための施策（問 11、3 つまで選択可）については、「町会等を通じた交流」45.3%、「外国人から意見・提案をもらう」43.4%、「交流イベントの開催」39.5%などが多い。男女 20 代は「交流イベントの開催」（男 53.2%、女 61.1%）が最多である。

第六は雇用と産業についてである。

仕事に関する意識（何歳まで仕事をしたいか）（問 12）では、長く働きたい意思を示す傾向が強まっている。前回と比べた相違点は、「65 歳くらいまで」の累計が 50.5%から 41.4%に低下し、「70 歳くらいまで」が 21.9%から 27.8%に高まったことである。つまり、前は「65 歳くらいまで」が最多の 34.5%だったが、今回は「65 歳くらいまで」の 27.9%と「70 歳くらいまで」の 27.8%が拮抗している。地域別で見ると、奥能登、中能登でより長く仕事をしたい傾向が示されている。年齢・性別で見ると、年齢が上がるほど長く働く意思が示され、前回より今回はそれがより顕著になっている。

仕事を選ぶ際に重視する条件（60 代以降に仕事を持った場合）（問 13、3 つまで選択可）では、「自分の経験を生かす」53.7%、「仕事時間が長くない」35.1%、「収入」29.4%が上位 3 項目である。前回と比較して増えているのは「収入」（21.2%→29.4%）、「今の仕事を続けたい」（19.1%→21.5%）、「仕事時間が長くない」（33.5%→35.1%）などであり、減っているのは「自分の経験を生かす」（56.2%→53.7%）、「自宅でできる」（18.1%→15.9%）などとなっている。「収入重視」が最大の変化である。

産業の担い手確保・育成に必要な施策(問 14、3 つまで選択可)については、「育児・介護への配慮」(48.3%)、「出産・育児後の再就職」(36.4%) が求められている。これらに対して石川中央では特に高い数字(50.8%、39.2%)となっている。奥能登、中能登では「若者の就職支援」への要望が強くなっている(49.4%、45.2%)。このような地域による差に留意する必要がある。年齢・性別で見ると、20 代男性で「若者の就職支援」が 49.4%、30 代女性で「出産・介護への配慮」が 70.4%となっている。

中心市街地が有する機能を維持するために必要な施策(問 15、3 つまで選択可)では、「空き店舗等の有効活用」49.4%、「公共交通機関の利便性を高める」40.0%、「高齢者・子育て世代に対応した居住環境整備」39.8%などの支持率が高くなっている。地域別、年齢・性別には、それほど有意な差は見られない。

農林水産業の活性化に必要な施策(問 16、3 つまで選択可)については、県全体で見ると「地産地消」が 61.5%と多いが、石川中央で 63.4%と高く、奥能登では 48.8%と低くなっている。その代わりに「世界農業遺産」を挙げたのが県全体で 7.0%なのに対して奥能登、中能登では 13%台となっている。性別で見ると、相対的に見て、男性の方が関心度が高いのが「売れる製品づくり」、「担い手の体質強化」、「企業の参入」などであり、女性の方が関心度が高いのが「食育」、「地産地消」、「環境にやさしい農林水産業」などとなっている。

第七は循環型社会の形成・自然との共生についてである。

農地や森林の荒廃を防ぐための施策(問 17、3 つまで選択可)においては、第一次産業従事者とその他の職業で傾向が異なっている。第一次産業従事者は、「農業所得を増やす」59.7%、「地域全体での取り組み」51.9%が特に高くなっており、「生産基盤の整備」も 37.7%と、その他の職業の 23.1%を引き離している。

自然と人が共生できる環境づくりのための施策(問 18、3 つまで選択可)では、各施策への支持が分かれているが、奥能登では「鳥獣害対策」を求める回答が 53.5%と特に多くなっている。年齢・性別で見ると、20 代男性(50.6%)、30 代女性(55.0%)が「自然とのふれあい」を重視している。

循環型社会の形成に必要な施策(問 19、3 つまで選択可)では、「家庭での省エネ推進」が 46.3%、「廃棄物の管理」が 35.8%など、まず自分で出来ることから進めようといった姿勢が表れている。「家庭での省エネ推進」については、60 代女性が 53.8%、70 代以上女性が 53.7%と責任感の強さを見せている。

第八は安全・安心についてである。

災害に強い県をつくるために必要な施策(問 20、3 つまで選択可)では、「災害情報の伝達」41.6%をはじめ「防災対策」、「防災意識」、「避難訓練」、「非常物資の備蓄」、「共助意識」、「高齢者対策」、「緊急輸送道路」など多くの項目が 20%以上の支持を得ている。女性 20 代で「避難訓練」45.4%(県全体で見ると 32.3%)、女性 50 代で「災害情報の伝達」52.5%(県全体で見ると 41.6%) など年齢による意識の差も見られる。

犯罪被害から子どもを守るために必要な施策(問 21、3 つまで選択可)では、「街灯の設置」54.7%をはじめ、「不審者情報」、「パトロール強化」、「地域ぐるみの見守り活動」、「家庭での話し合い」が 40%以上となっており、「防犯ブザー」11.1%、「安全教育」28.9%が低い数字となっている。「街灯の設置」は男女とも支持が高いが、男性では「地域ぐるみの見守り活動」、「パトロール強化」の支持が高く、女性では「不審者情報」、「家庭での話し合い」の支持が高い。この辺りに男女の意識の差が表れている。

第九は**少子・高齢化**についてである。

高齢社会に必要な施策（問 22、サービス、3 つまで選択可）では、「介護を担う家族支援」（50.2%）をはじめ、「予防」、「医療・介護の一体化」、「施設の充実」など、介護に関連するさまざまなサービスに対する要望が示されている。地域別には大きな差は見られない。20 代～40 代女性では、「介護を担う家族支援」に 60%以上の強い要望がある。

高齢社会に必要な施策（問 22、健康・生きがい、3 つまで選択可）では、「健康管理」が 52.2%、「働く場」、「ふれあいの場」、「体力づくり」が 40%以上となっている。地域別に見ると、相対的に奥能登では、「ふれあいの場」、「働く場」、「生涯学習」が重視され、石川中央では、「体力づくり」、「健康管理」、「ボランティアの場」などが重視される。

すこやかに子どもを産み育てて行くために必要な施策（問 23-1、3 つまで選択可）では、「子育て支援」がどの地域でも最大で、全体では 72.1%と最も多くなっている。地域別には、「結婚」について、奥能登で 57.6%、石川中央で 41.8%と大きな差がある。年齢・性別で、女性 30 代の「結婚」が 15.9%と極端に少なく、その分だけ他の項目すべてが膨らんでいる。

結婚支援に必要な施策（問 23-2、2 つまで選択可）では、「出会いの機会」47.2%、「結婚費用等の支援」38.5%、「情報提供」35.2%、「見合いサービス」34.5%などとなっている。地域別には大きな差はない。

妊娠・出産支援に必要な施策（問 23-3、2 つまで選択可）では、「知識の啓発」48.1%、「心身のケア」41.7%、「不妊ケア」39.1%などとなっている。地域別には大きな差はない。年齢・性別で見ると、女性 30 代の「不妊ケア」64.0%が突出している。

子育て支援に必要な施策（問 23-4、2 つまで選択可）では、「経済的支援」69.5%、「保育所の充実等」44.9%、「教育費補助」43.6%などとなっている。地域別には大きな差はない。年齢・性別で見ると、男女の 20 代～40 代で「経済的支援」、及び「教育費補助」を求める割合が多くなっている。「三世同居」に関しては 70 代以上の男性 20.0%、女性 17.7%に対して、20 代～30 代男性、及び 20 代～40 代女性では 1 ケタと意識の差がみられる。

子どもの育ち支援に必要な施策（問 23-5、2 つまで選択可）では、「こころのケア」51.6%、「命の大切さを理解させる」48.5%などとなっている。地域別には大きな差はない。年齢・性別で見ると男女の 20 代で「こころのケア」を求める割合が 64.6%、66.7%と高くなっている。「食育」は県全体で 27.8%のところ、60 代女性は 40.5%となっている。

働き方の見直しについて必要な施策（問 23-6、2 つまで選択可）では、「職場の理解」69.6%、「再雇用制度」53.3%などとなっている。地域別で見ると奥能登で「職場の理解」が 62.2%と県全体より低く、「働き方の見直しの企業へのアドバイス」が 22.1%と県全体（17.6%）より高いなどの差がある。年齢・性別で見ると、男女 20 代で「休暇制度」への関心が非常に高い。（県全体 29.8%、男性 20 代 53.2%、女性 20 代 47.2%）

第十は**人口減少対策**についてである。

人口減少について重要な施策（問 24、3 つまで選択可）としては、「雇用の場の確保」53.0%、「子育てしながら働きやすい環境」51.4%、「保育所など子育て支援」40.2%などとなっている。地域別には、「雇用の場の確保」で中能登 68.8%、奥能登 64.0%に対して石川中央 48.7%となっており、「保育所など子育て支援」については、石川中央 45.2%に対して奥能登では 19.8%となっている。

年齢・性別で見ると、女性 20 代～50 代で「子育てしながら働きやすい環境」が 60%以上、女性 20 代～30 代で「保育所など子育て支援」が 50%以上と高く、女性 20 代～40 代で「結婚支援策」が 10%台と低くなっている。

県外から就職、移住をする決め手となった理由（問 25、3 つまで選択可）については、有効回答では「地元だから」が 19.5%と最多で、それ以外は 1 ケタとなっている。地域別には、「地元だから」は奥能登で 23.8%、加賀南部で 15.7%と差がある。年齢・性別で見ると、男性 20 代～40 代で「働き口」、男性 20 代と 40 代が「住環境」で 2 ケタとなっている。

第十一は**保健・医療・福祉**についてである。

健康に関する情報（問 26、3 つまで選択可）では、「生活習慣病」57.5%、「食」54.5%、「運動」44.0%、「こころ」36.4%などとなっている。地域別では大きな差はない。年齢・性別で見ると、最大の関心事として、男性では「生活習慣病」であり 40 代～70 代以上で 60%以上となっている。女性では「食」であり 20 代の 63.9%などで関心が高い。

症状別での医療機関の使い分け（問 27）では、「重い病気」で「大学病院・県立病院」72.9%、「軽い病気」で「近くの診療所」49.6%が多く、それ以外では「夜間・休日のけが」54.6%、「夜間・休日の子どもの発熱」49.2%、「リハビリ」54.4%と「近くの病院」が多くなっている。地域別には、それぞれの場合で石川中央では「大学病院・県立病院」を挙げる割合が他の地域より多かった。

障害者の社会参加を進めるために必要な施策（問 28、3 つまで選択可）では、「雇用の場」61.1%、「差別解消」46.4%、「相談窓口」40.8%などとなっている。地域別にはそれほど大きな差はない。年齢・性別で見ると、どの年齢でも「雇用の場」が重視されている。男性 20 代では、他の世代より「差別解消」が低く、「スポーツ等の交流」で高くなっている。「バリアフリー」に関して、女性の 20 代では 25.9%、70 代以上で 5.7%と大きい差がある。男性でも 30 代で 27.1%、70 代以上で 9.8%である。

第十二は**教育関係**についてである。

学校教育で力を入れるべき施策（問 29、3 つまで選択可）は前回と比べると項目が一つだけ違っている。同じ項目について比較すると、「読み書きなど基本」が 64.1%から 65.7%、「基本的な生活習慣」が 53.1%から 52.8%、「創造性・自主性」が 41.1%から 49.9%、「勤労観・職業観」が 37.5%から 48.5%、「専門知識」が 13.3%から 19.1%、「体位・体力」が 7.7%から 13.9%となっている。

高等教育機関の集積を生かすための施策（問 30、3 つまで選択可）については、「大学間連携」51.0%、「研究支援体制」47.7%、「学びの機会充実」47.6%などとなっている。地域別には、奥能登と中能登で「研究支援体制」、石川中央で「大学間連携」が 50%を超えており、加賀南部で「学びの機会充実」（49.2%）が 50%近くとなっている。年齢・性別で見ると、男女の 20 代、30 代で「学びの機会充実」、男性 20 代、女性 50 代で「大学間連携」、男性 60 代で「研究支援体制」が他の世代に比べてやや多くなっている。

生涯学習・社会教育に必要な施策（問 31、3 つまで選択可）では、「成人学級・高齢者学級」42.4%と「公民館・図書館」41.7%が拮抗している。

第十三は**行財政運営**についてである。

行財政運営に必要な取り組み（問 32、3 つまで選択可）では、「職員の資質や能力の向上」（53.4%）が最も高く、次いで、「政策課題に柔軟かつ機動的に対応できる組織づくり」（44.9%）、となっている。

地域別で見ると、大きな差はないが、奥能登で「政策課題に柔軟かつ機動的に対応できる組織づくり」、石川中央で「職員の資質や能力の向上」の割合が他地域よりやや高くなっている。

1. 住みやすさ

(1) 地域の住み心地(問1)

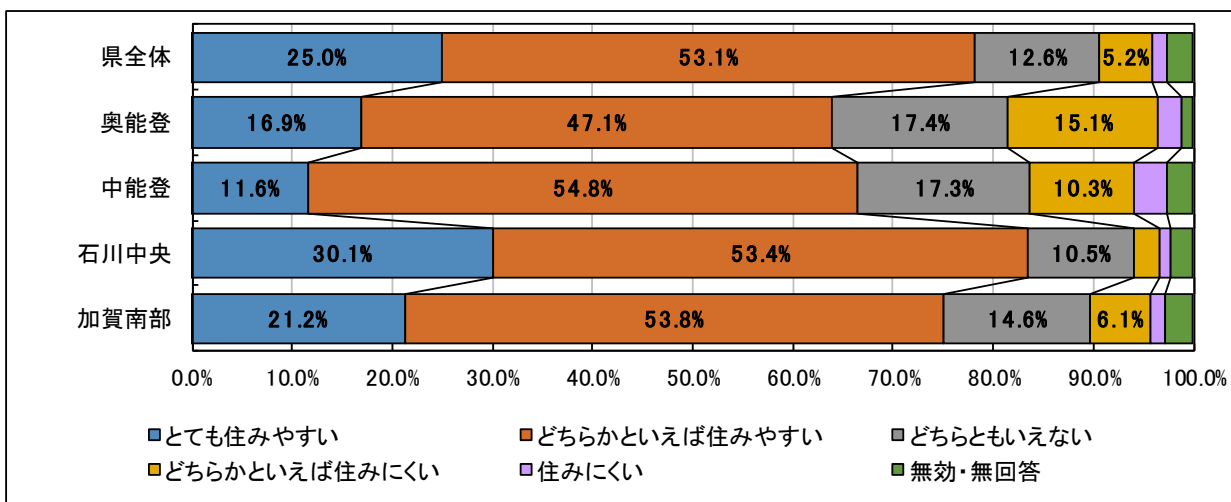
県全体で見ると、「住みやすい」(回答における「とても住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合計したもの。以下同じ。)と回答した人の割合は78.1%となり、前回調査より増加した。

地域別で見ると、石川中央が83.5%で最も高く、次いで加賀南部の75.0%、中能登の66.4%、奥能登の64.0%となっている(図表1-1)。

年齢・性別で見ると、女性の方が「住みやすい」との回答の割合が80.5%と男性の76.6%と比較し、若干高くなっている。30代男性が「とても住みやすい」の項目で唯一30%を超えている(図表1-2)。

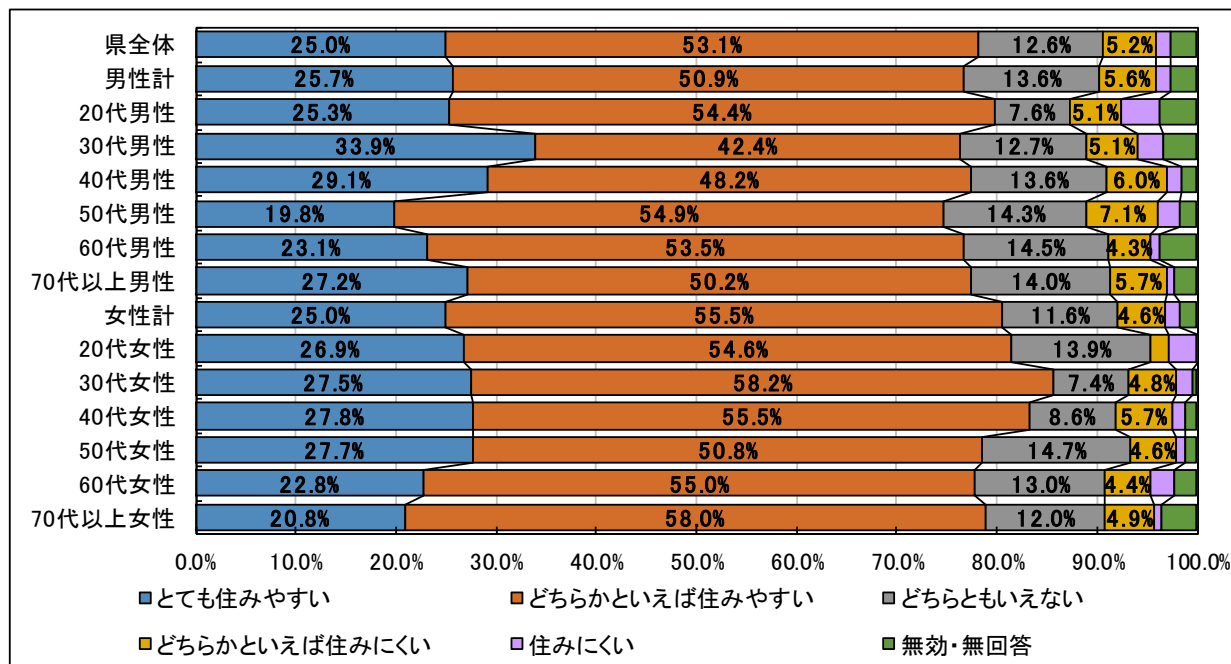
図表 1-1 地域の住み心地(地域別)

「あなたが普段生活する上で、いま住んでいる地域(市町)の住み心地はどうか。」(SA)



図表 1-2 地域の住み心地(年齢・性別)

「あなたが普段生活する上で、いま住んでいる地域(市町)の住み心地はどうか。」(SA)



(2) 今後の定住意向(問 2-1)

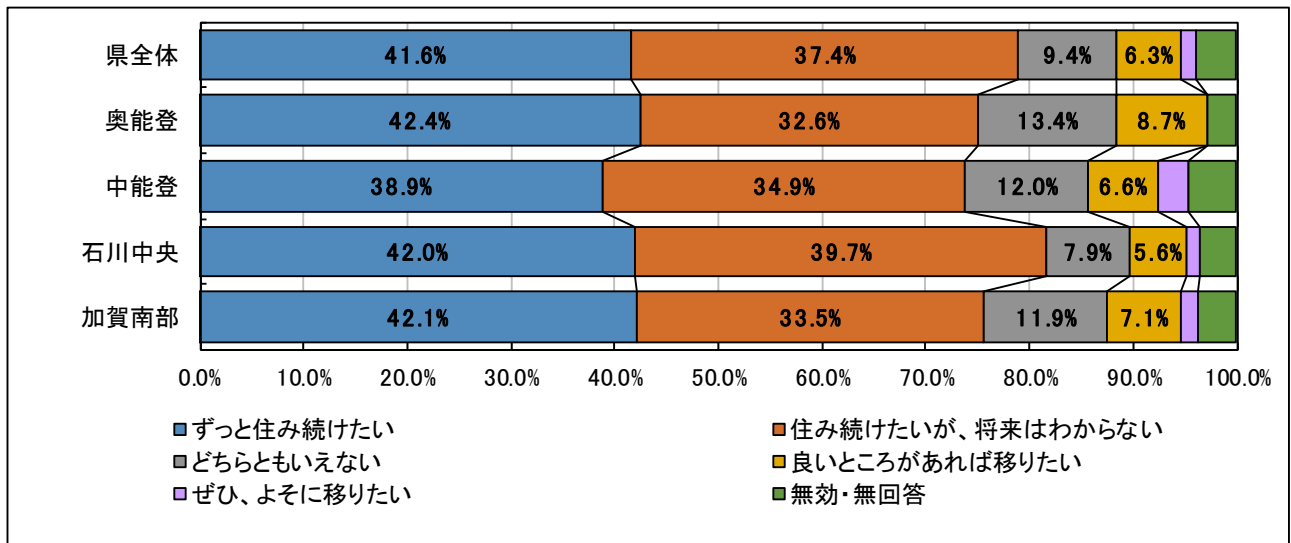
「(1)地域の住み心地」において、78.1%の人が「住みやすい」と回答したことと同様に、「住み続けたい」(回答における「ずっと住み続けたい」と「住み続けたいが、将来はわからない」を合計したもの。以下同じ。)と回答した人の割合は県全体で79.0%であり、8割近い人が定住の意向を有している。前回調査の77.6%より1.4ポイント増加している。

地域別で見ると、「住み続けたい」と回答した人の割合が最も高い地域は石川中央の81.7%、最も低い地域は中能登の73.8%となっている(図表1-3)。

年齢・性別で見ると、20代の男性、女性では「良いところがあれば移りたい」とする人の割合が10%を超えており、他の世代と比較して高くなっている(図表1-4)。

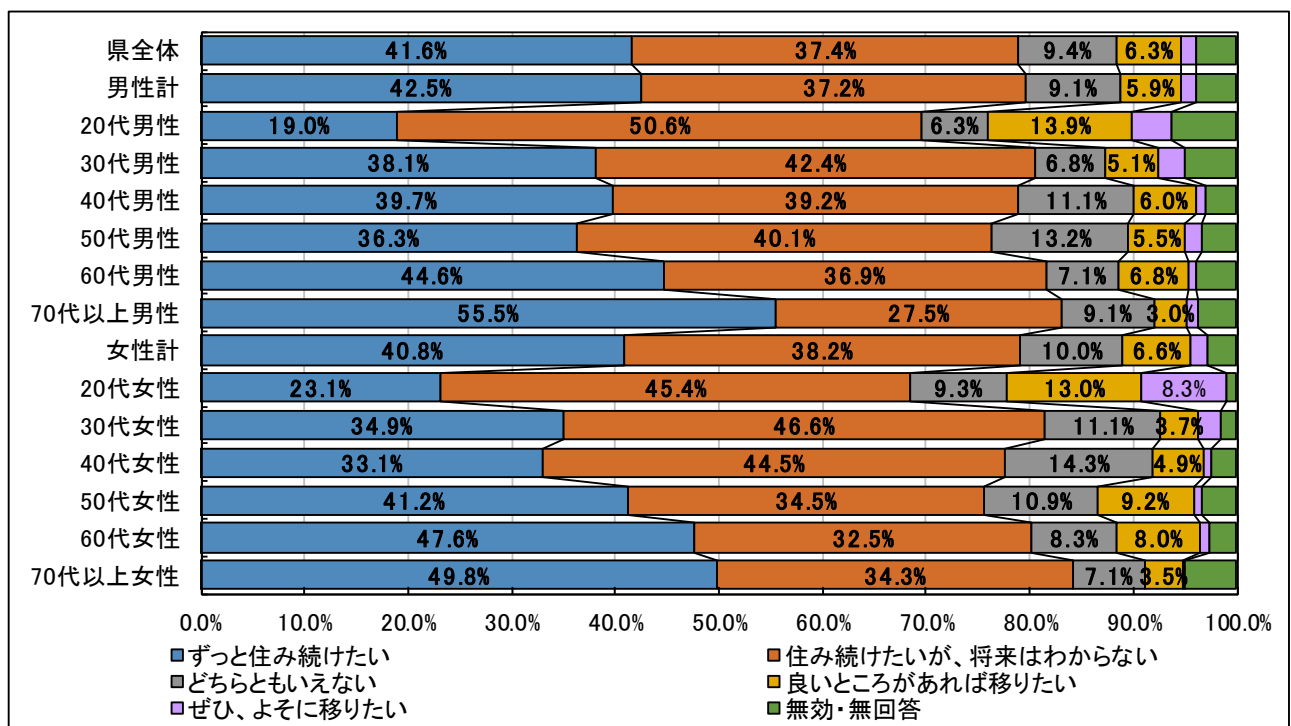
図表 1-3 今後の定住意向(地域別)

「あなたが、いま住んでいる地域(市町)にこれからも住み続けたいと思いますか。」(SA)



図表 1-4 今後の定住意向(年齢・性別)

「あなたが、いま住んでいる地域(市町)にこれからも住み続けたいと思いますか。」(SA)

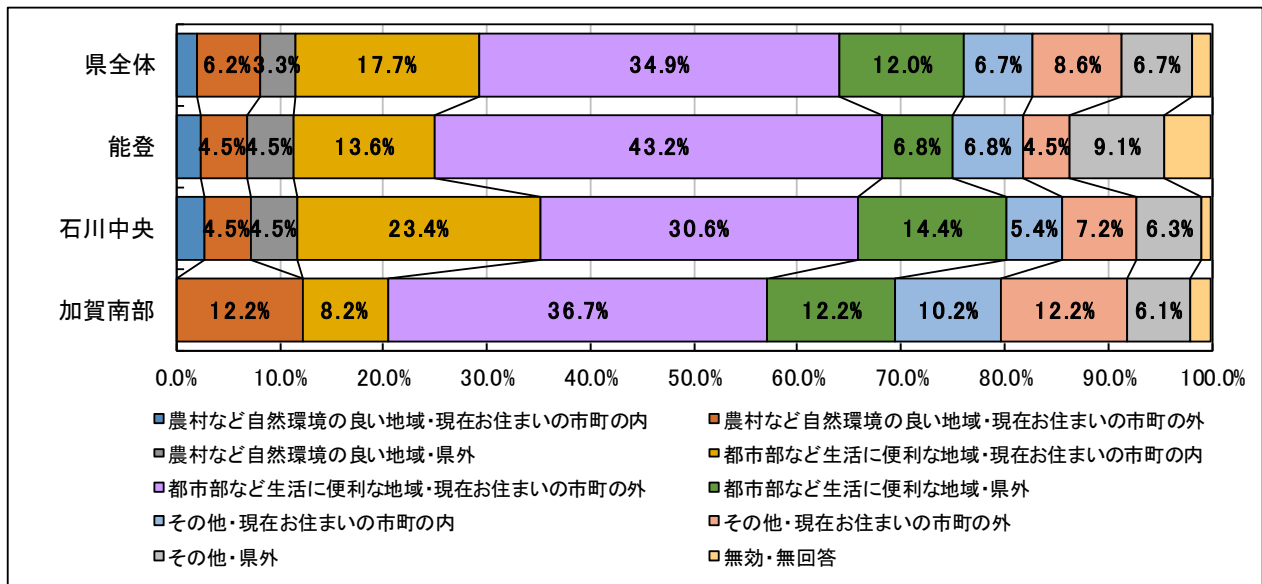


(3) 移住希望者に対する希望移住地域(問 2-2)

図表 1-3 において、「いま住んでいる地域（市町）から移りたい」（回答における「良いところがあれば移りたい」と「ぜひ、よそに移りたい」を合計したもの）とした人の割合は、全体の 7.7%(209 人)となっている。このうち、移りたいとする場所は、「都市部など生活に便利な地域」（「現在お住まいの市町の内・外」、「県外」を合計したもの。以下同じ。）が 64.6%と最も多く、「その他」が 22.0%、「農村など自然環境の良い地域」が 11.5%の順となっている。前回調査でも同様の結果であった。

市町村の内外では「現在お住まいの市町の外」（「都市部など生活に便利な地域」、「農村など自然環境の良い地域」、「その他」を合計したもの。以下同じ。）が 49.7%と最も多く、次いで「現在お住まいの市町の内」が 26.3%、「県外」が 22.0%となっている（図表 1-5）。前回調査でも同様の結果であった。

図表 1-5 移住希望者に対する希望移住地域（地域別）
「どんな地域（場所）に移りたいと思いますか。」(SA)



(4) 分野別の地域の満足度(交通の便利さ、医療施設など)(問 3)

地域についての総合的にみた住みよさについては、「満足している」が 15.5%、「どちらかといえば満足」が 54.3%で、両者を合わせると 69.8%となっている。前回調査では「満足している」が 10.6%、「どちらかといえば満足」が 53.1%、両者を合わせると 63.7%であった。両者を合わせたものの比較すると、今回調査では 6.1 ㊦上昇した。

「満足している」を+2 点、「どちらかといえば満足」を+1 点、「どちらともいえない」を 0 点、「どちらかといえば不満」を-1 点、「不満である」を-2 点と数値化し、各項目の加重平均値を求めたところ、総合的な満足度を示す「総合的にみた住みよさ」は 0.79 であった（図表 1-6）。前回調査における「総合的にみた住みよさ」は 0.66 であった。今回調査では 0.13 上昇した。

各項目の満足度は、以下の通りである。

・「総合的にみた住みよさ」より点数が高い（平均的な満足度が高い）項目（今回 3、前回 3）

今回調査：「食材の豊かさ、食べ物のおいしさ」（1.22）、「地域の治安のよさ」（1.02）、「周辺の自然環境」（0.99）

前回調査：「食材の豊かさ、食べ物のおいしさ」（1.16）、「周辺の自然環境」（0.91）「地域の治安のよさ」（0.77）

・「総合的にみた住みよさ」より点数が低い、プラス（「どちらともいえない」より「満足」の方にやや近い）の項目（今回 16、前回 14）

今回調査：「し尿、下水、ゴミ処理などの整備状況」（0.68）、「街並みや景観の美しさ」（0.67）、「買い物の便利さ」（0.59）、「病院、診療所などの医療施設」（0.58）、「学校教育施設」（0.57）、「公民館、図書館などの社会教育施設」（0.52）、「公園、広場、緑地などの施設」（0.46）、「保育所などの子育て支援施設」（0.45）、「デイサービスなどの福祉施設」（0.43）、「道路の整備状況」（0.32）、「交通の便利さ」（0.30）、「美術館、博物館、ホールなどの文化施設」（0.23）、「洪水や地震などの災害に対する安全性」（0.17）

前回調査：「買い物の便利さ」（0.52）、「街並みや景観の美しさ」（0.50）、「し尿、下水、ゴミ処理などの整備状況」（0.48）、「学校教育施設」（0.45）、「病院、診療所などの医療施設」（0.40）、「保育所などの子育て支援施設」（0.38）、「公民館、図書館などの社会教育施設」（0.37）、「デイサービスなどの福祉施設」（0.31）、「公園、広場、緑地などの施設」（0.30）、「交通の便利さ」（0.23）、「道路の整備状況」（0.18）、「美術館、博物館、ホールなどの文化施設」（0.12）、「洪水や地震などの災害に対する安全性」（0.06）

・平均値がマイナスの項目（今回 0、前回 2）

今回調査：なし

前回調査：「働き口・就職先」（-0.15）、「スポーツ、レジャーのための施設」（-0.02）

図表 1-6 「総合的にみた住みよさ」に関する調査結果の地域別比較

	今回 (平成26年)	前回 (平成18年)	前々回 (平成8年)
県全体	0.79	0.66	0.66
奥能登	0.43	0.26	0.13
中能登	0.44	0.47	0.36
石川中央	0.93	0.78	0.70
加賀南部	0.70	0.63	0.71

図表 1-7 分野別の地域の満足度（交通の便利さ、医療施設など）（全体）

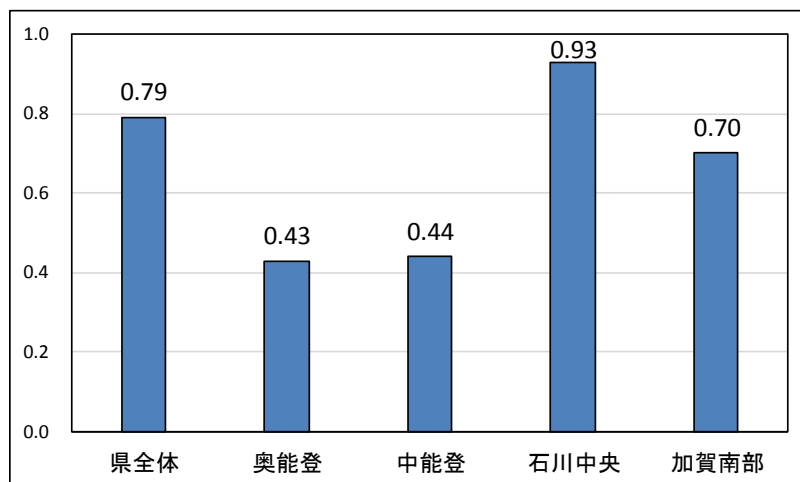
「あなたは、普段生活する上で、いま住んでいる地域（市町）に満足していますか。」(SA)
 ここで前記の満足度平均点を用いると、地域別の総合的にみた住みよさは次のように整理できる。

n=2,732

区分	N	満足している	どちらかといえば満足している	どちらともいえない	どちらかといえば不満である	不満である	無効・無回答	平均値
交通の便利さ	2,732	546 20.0%	789 28.9%	496 18.2%	529 19.4%	284 10.4%	88 3.2%	0.30
買い物の便利さ	2,732	659 24.1%	994 36.4%	441 16.1%	385 14.1%	182 6.7%	71 2.6%	0.59
周辺の自然環境	2,732	773 28.3%	1,242 45.5%	501 18.3%	104 3.8%	33 1.2%	79 2.9%	0.99
食材の豊かさ、食べ物のおいしさ	2,732	1,054 38.6%	1,191 43.6%	363 13.3%	43 1.6%	9 0.3%	72 2.6%	1.22
地域の治安のよさ	2,732	797 29.2%	1,224 44.8%	520 19.0%	76 2.8%	22 0.8%	93 3.4%	1.02
働き口・就職先	2,732	239 8.7%	531 19.4%	1,078 39.5%	442 16.2%	243 8.9%	199 7.3%	0.03
街並みや景観の美しさ	2,732	432 15.8%	1,132 41.4%	857 31.4%	168 6.1%	36 1.3%	107 3.9%	0.67
病院、診療所などの医療施設	2,732	495 18.1%	1,138 41.7%	565 20.7%	308 11.3%	141 5.2%	85 3.1%	0.58
保育所などの子育て支援施設	2,732	309 11.3%	850 31.1%	1,167 42.7%	154 5.6%	82 3.0%	170 6.2%	0.45
デイサービスセンターなどの福祉施設	2,732	262 9.6%	825 30.2%	1,334 48.8%	145 5.3%	45 1.6%	121 4.4%	0.43
学校教育施設	2,732	337 12.3%	1,023 37.4%	1,039 38.0%	136 5.0%	46 1.7%	151 5.5%	0.57
公民館、図書館などの社会教育施設	2,732	360 13.2%	1,027 37.6%	921 33.7%	239 8.7%	68 2.5%	117 4.3%	0.52
美術館、博物館、ホールなどの文化施設	2,732	284 10.4%	736 26.9%	1,031 37.7%	380 13.9%	166 6.1%	135 4.9%	0.23
公園、広場、緑地などの施設	2,732	360 13.2%	1,017 37.2%	840 30.7%	299 10.9%	112 4.1%	104 3.8%	0.46
スポーツ、レジャーのための施設	2,732	182 6.7%	726 26.6%	1,086 39.8%	463 16.9%	154 5.6%	121 4.4%	0.12
道路の整備状況	2,732	250 9.2%	1,001 36.6%	863 31.6%	383 14.0%	139 5.1%	96 3.5%	0.32
し尿、下水、ゴミ処理などの整備状況	2,732	446 16.3%	1,199 43.9%	769 28.1%	168 6.1%	59 2.2%	91 3.3%	0.68
洪水や地震などの災害に対する安全性	2,732	200 7.3%	651 23.8%	1,316 48.2%	350 12.8%	121 4.4%	94 3.4%	0.17
総合的にみた住みよさ	2,732	423 15.5%	1,483 54.3%	582 21.3%	151 5.5%	30 1.1%	63 2.3%	0.79

図表 1-8 地域別満足度（総合的にみた住みよさの満足度）

「あなたは、普段生活する上で、いま住んでいる地域（市町）に満足していますか。」(SA)

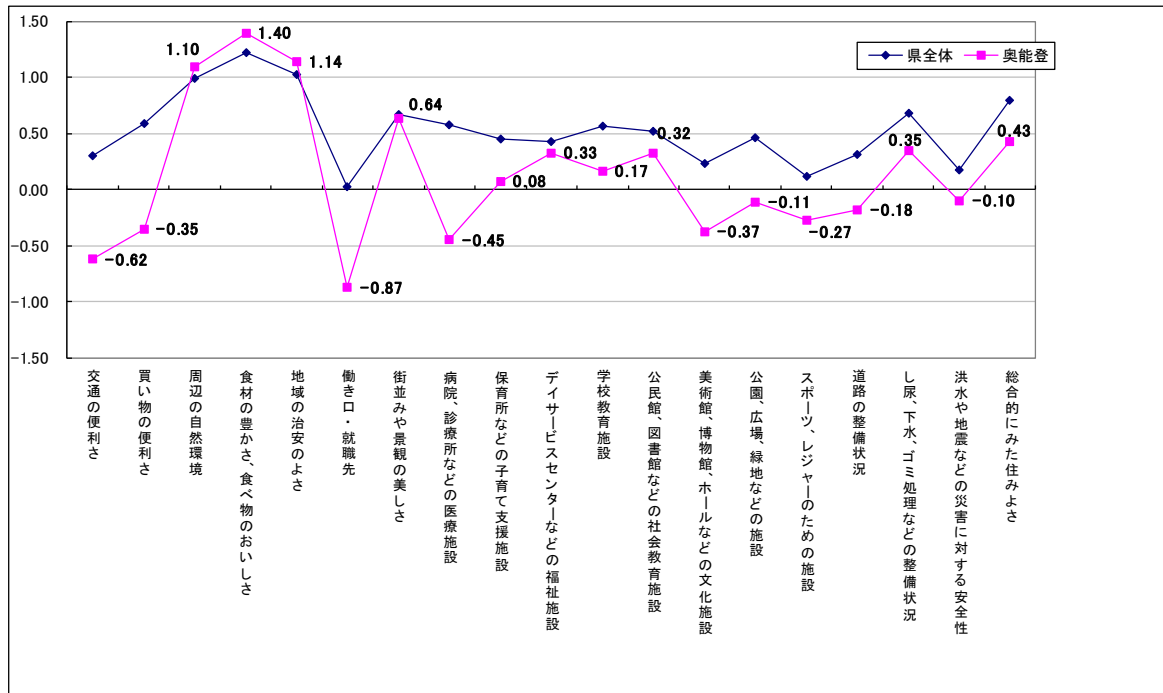


・奥能登

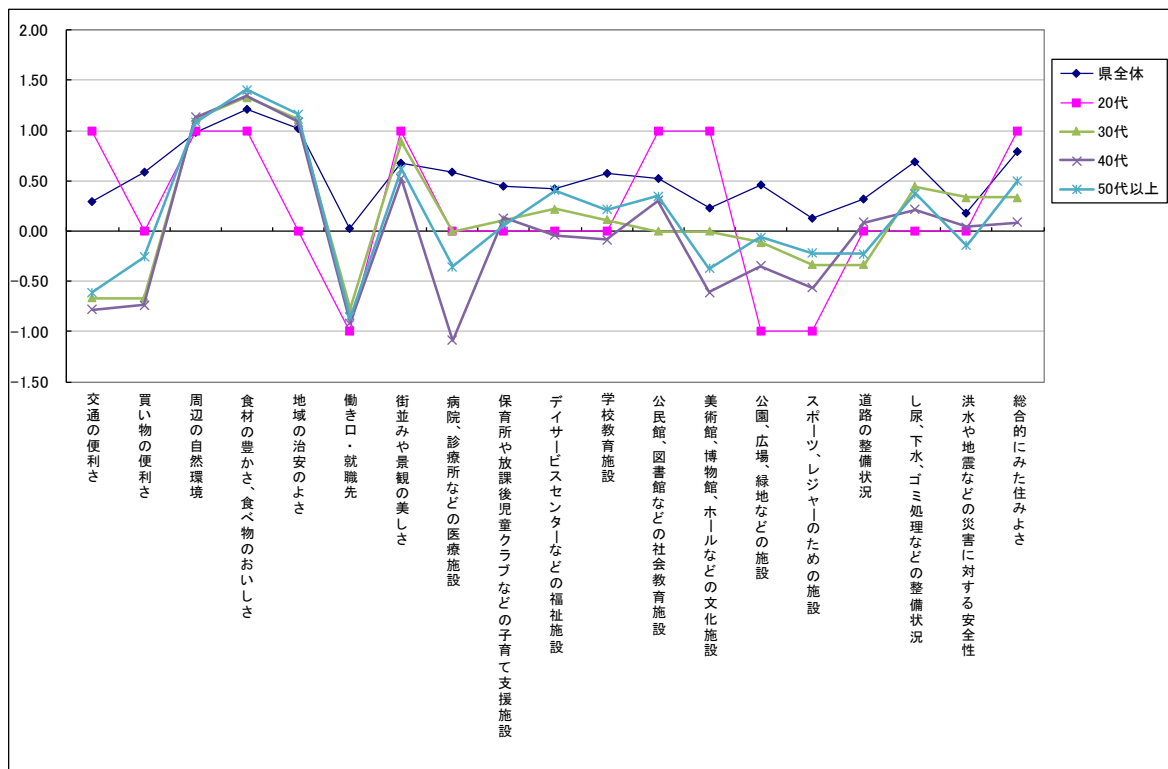
「周辺の自然環境」、「食材の豊かさ、食べ物のおいしさ」、「地域の治安のよさ」の3項目（前回4項目）で県全体より高い満足度が得られている。一方、その他の項目については全て県全体を下回っている。平均値がマイナスとなっている項目は9項目（前回12項目）あり、とりわけ「交通の便利さ」、「働き口・就職先」といった項目で満足度が低くなっている。「総合的に見た住みよさ」は0.43（前回0.26）で4地域中最も低くなっている（図表1-9）。年代別で見ると、全体的に県全体を下回っている（図表1-10）。

図表 1-9 分野別の地域の満足度（交通の便利さ、医療施設など）（奥能登）

「あなたは、普段生活する上で、いま住んでいる地域（市町）に満足していますか。」(SA)



図表 1-10 分野別の地域の満足度（交通の便利さ、医療施設など）（奥能登・年代）

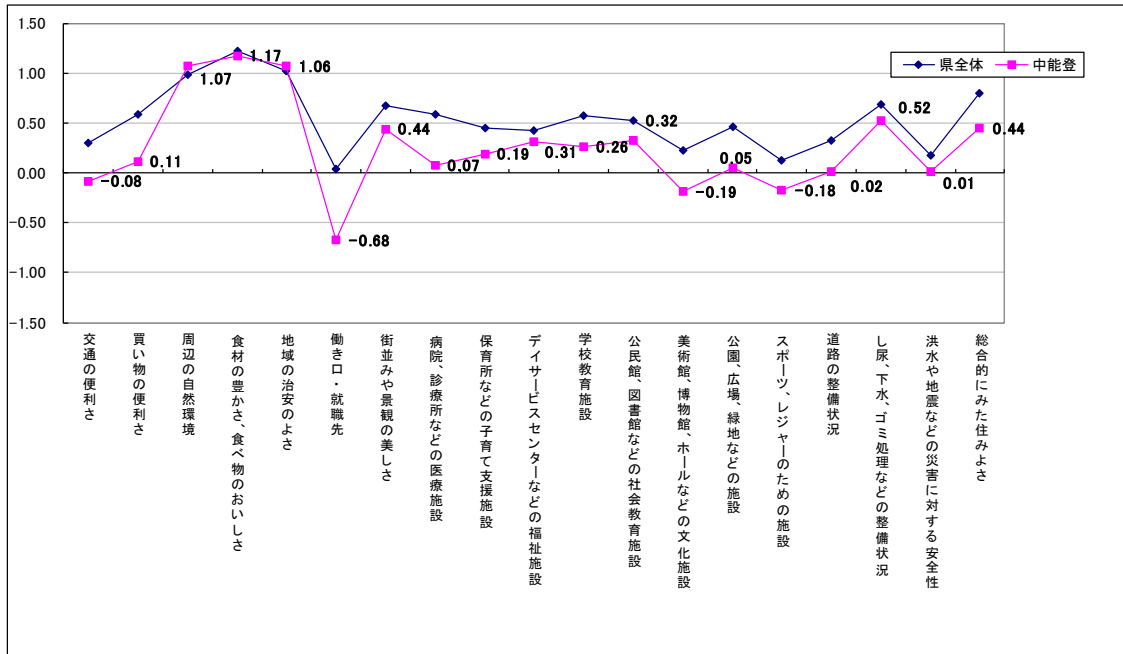


・中能登

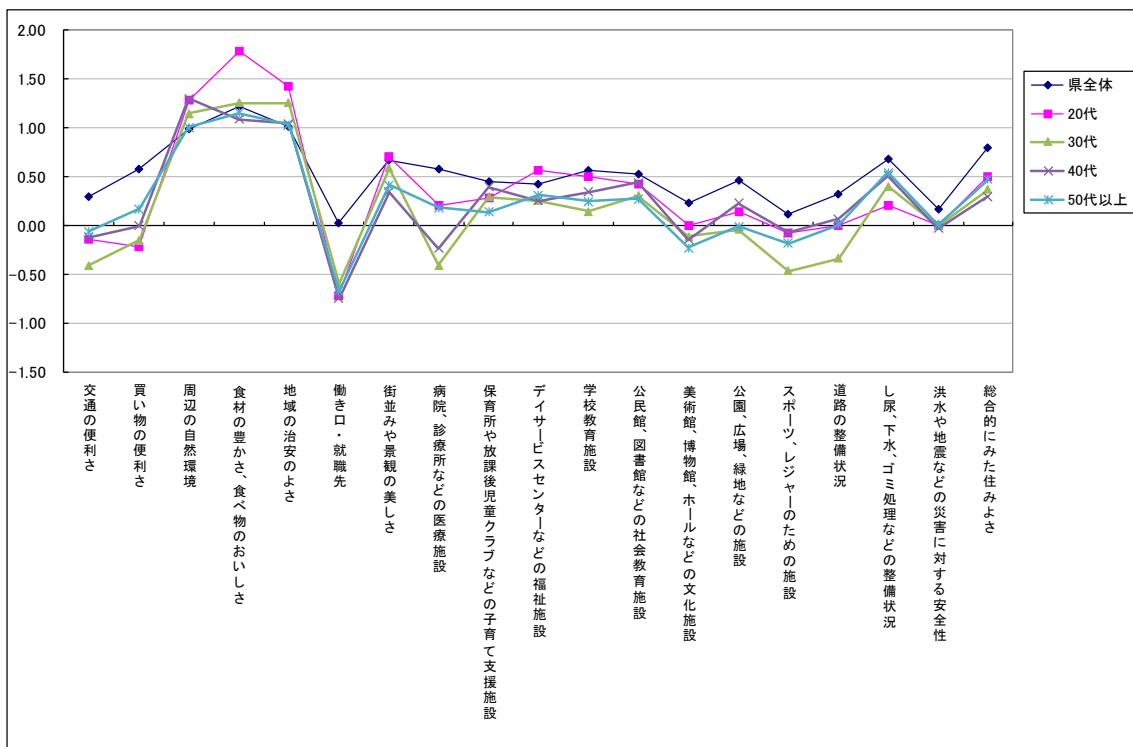
「周辺の自然環境」、「地域の治安のよさ」の2項目（前回3項目）で県全体より高い満足度が得られている。また「食材の豊かさ、食べ物のおいしさ」でも、県全体とほぼ同じの満足度が得られている。

一方、その他の項目については全て県全体を下回っているものの、奥能登地域と比べて、点数の開きは小さくなっている。平均値がマイナスとなっている項目は4項目（前回6項目）あり、最も満足度が低いのは奥能登地域と同じく「働き口・就職先」となっている。「総合的に見た住みよさ」は0.44（前回0.47）となっている（図表1-11）。年代別で見ると、全体的に県全体を下回っている（図表1-12）。

図表 1-11 分野別の地域の満足度（交通の便利さ、医療施設など）（中能登）



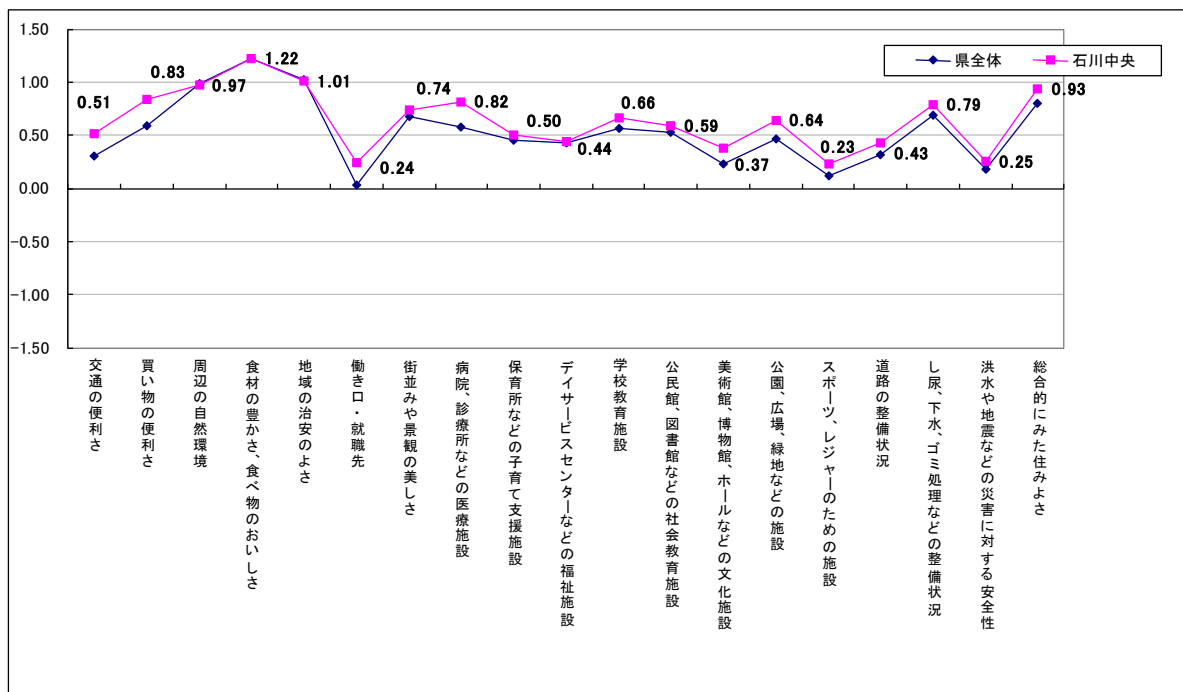
図表 1-12 分野別の地域の満足度（交通の便利さ、医療施設など）（中能登・年代）



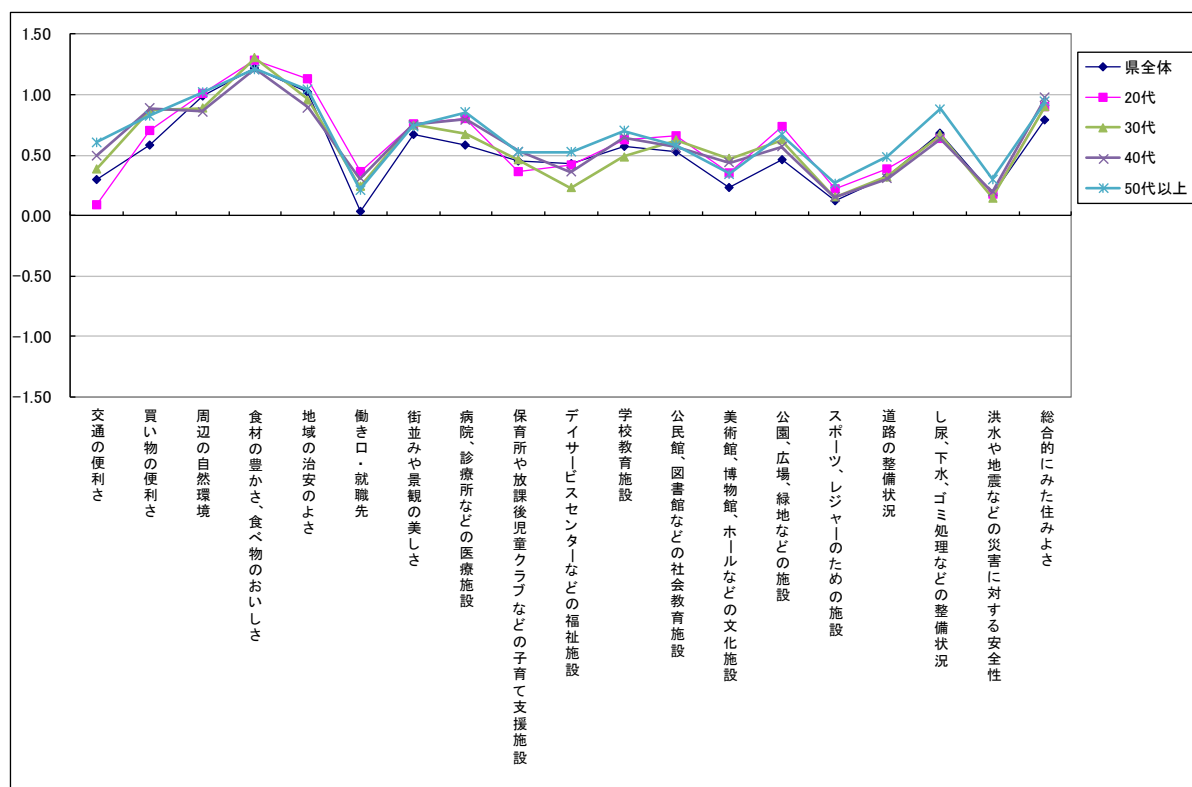
・石川中央

ほとんどの項目で県全体と同じ程度、もしくは上回る満足度が得られ、平均値がマイナスとなっている項目はなく、これらは前回調査と同様の結果であった。「総合的に見た住みよさ」は0.93（前回0.78）となっている（図表1-13）。各年代とも県全体の数値とほぼ一致しており、平均して上回っている（図表1-14）。

図表 1-13 分野別の地域の満足度（交通の便利さ、医療施設など）（石川中央）



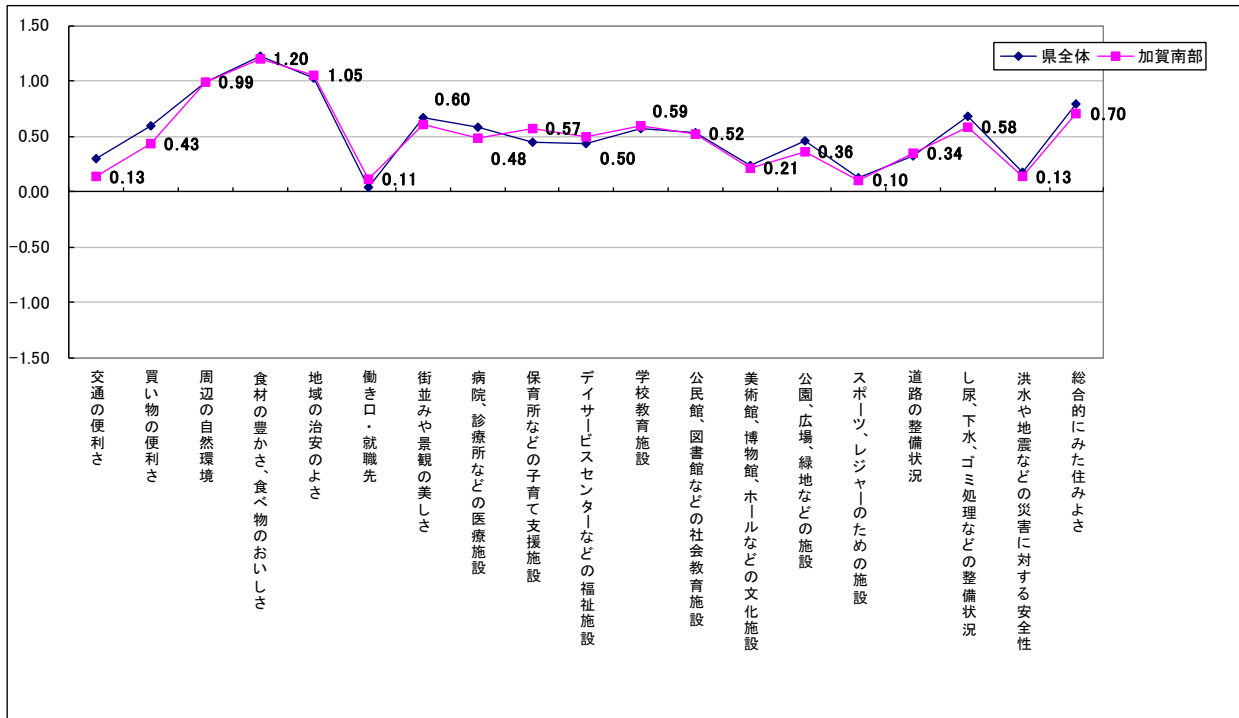
図表 1-14 分野別の地域の満足度（交通の便利さ、医療施設など）（石川中央・年代）



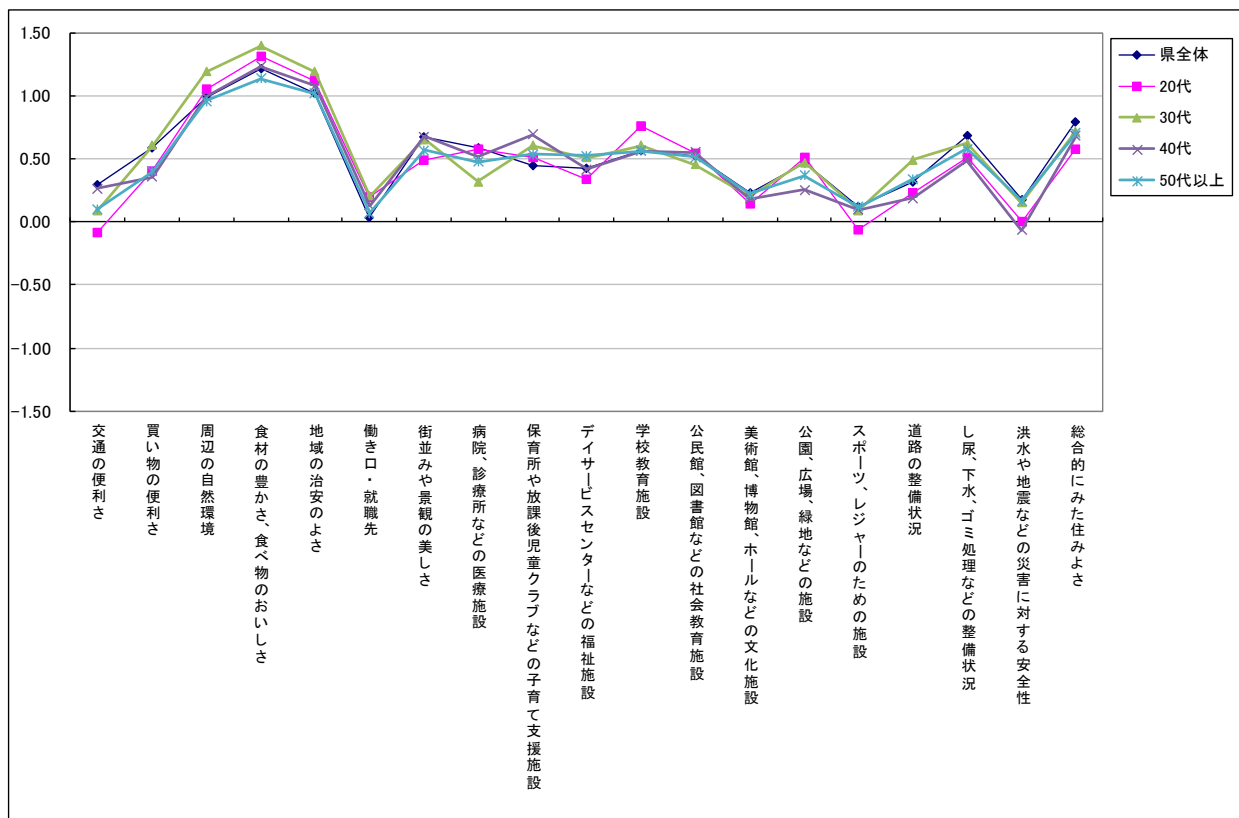
・加賀南部

前回調査でマイナスとなっている項目が2つあったが、今回調査ではなく、ほとんどの項目で県全体と同じ程度の満足度が得られている。「総合的に見た住みよさ」は0.70（前回0.63）となっている（図表1-15）。年代別で見ると石川中央と同様に県全体のグラフと重なり、県を上回る項目も見られる（図表1-16）。

図表 1-15 分野別の地域の満足度（交通の便利さ、医療施設など）（加賀南部）



図表 1-16 分野別の地域の満足度（交通の便利さ、医療施設など）（加賀南部・年代）



(5) 「住みやすさ」と「満足度」からみた定住意向(クロス集計)

「住みやすさ」や「満足度」、「定住意向」の間には、次のように正の相関関係がうかがわれる。

例えば、「とても住みやすい」と考えている人のうち「ずっと住み続けたい」意向を持つ人の割合は75.3%であるのに対し、「住みにくい」と考えている人では、それがわずか2.6%にとどまっている。満足度との関係でも同様の傾向が見られる(図表1-17,18)。

本調査の結果から、「住みやすさ」や「満足度」といった地域に対する評価を高めることが人々の定住意向を強めることにつながると考えられる。

図表 1-17 現在住んでいる地域の「住みやすさ」からみた定住意向(全体)
(問1と問2-1のクロス集計)

	N	ずっと住み続けたい	住み続けたいが、将来はわからない	どちらともいえない	良いところがあれば移りたい	ぜひ、よそに移りたい	無効・無回答	平均値
総数	2,732	1,136 41.6%	1,021 37.4%	258 9.4%	171 6.3%	38 1.4%	108 4.0%	1.16
とても住みやすい	677	510 75.3%	150 22.2%	8 1.2%	8 1.2%	1 0.1%	0 0.0%	1.71
どちらかといえば住みやすい	1,435	585 40.8%	711 49.5%	91 6.3%	40 2.8%	8 0.6%	0 0.0%	1.27
どちらともいえない	335	33 9.9%	122 36.4%	118 35.2%	56 16.7%	6 1.8%	0 0.0%	0.36
どちらかといえば住みにくい	138	7 5.1%	32 23.2%	39 28.3%	50 36.2%	9 6.5%	1 0.7%	-0.16
住みにくい	38	1 2.6%	5 13.2%	2 5.3%	16 42.1%	14 36.8%	0 0.0%	-0.97
無効・無回答	109	0 0.0%	1 0.9%	0 0.0%	1 0.9%	0 0.0%	107 98.2%	0.00

図表 1-18 現在住んでいる地域の「満足度」からみた定住意向(全体)
(問3の項目19と問2-1のクロス集計)

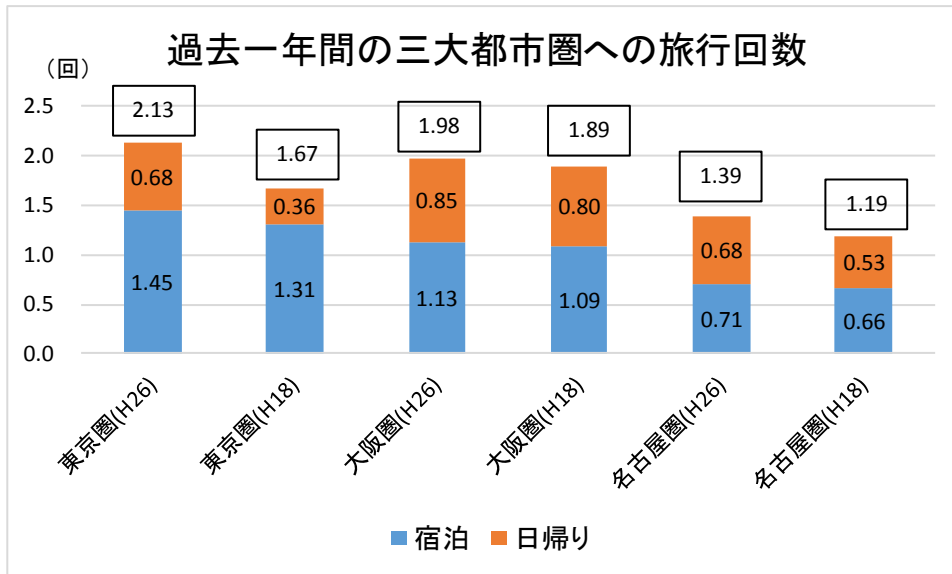
	N	ずっと住み続けたい	住み続けたいが、将来はわからない	どちらともいえない	良いところがあれば移りたい	ぜひ、よそに移りたい	無効・無回答	平均値
総数	2,732	1,136 41.6%	1,021 37.4%	258 9.4%	171 6.3%	38 1.4%	108 4.0%	1.16
満足している	402	291 72.4%	99 24.6%	8 2.0%	3 0.7%	1 0.2%	0 0.0%	1.68
どちらかといえば満足している	1,444	690 47.8%	624 43.2%	79 5.5%	40 2.8%	10 0.7%	1 0.1%	1.35
どちらともいえない	560	121 21.6%	239 42.7%	126 22.5%	70 12.5%	4 0.7%	0 0.0%	0.72
どちらかといえば不満である	143	11 7.7%	41 28.7%	38 26.6%	42 29.4%	11 7.7%	0 0.0%	-0.01
不満である	29	1 3.4%	2 6.9%	4 13.8%	10 34.5%	12 41.4%	0 0.0%	-1.03
無効・無回答	154	22 14.3%	16 10.4%	3 1.9%	6 3.9%	0 0.0%	107 69.5%	1.15

2.北陸新幹線

(1) 現在の3大都市圏への旅行回数と交通手段(問 4-1)

この1年間の3大都市圏に出かけた回数を見ると、東京圏への回数が最も高く、宿泊・日帰りをあわせて一人当たり2.13回となっている。大阪圏へは1.98回、名古屋圏には1.39回となっている。前回調査と比較して3大都市圏全てで増加している(図表2-1)。

図表 2-1 現在の3大都市圏への旅行回数(全体・一人当たり)
「過去1年間に、3大都市圏に出かけた回数をご記入ください。」



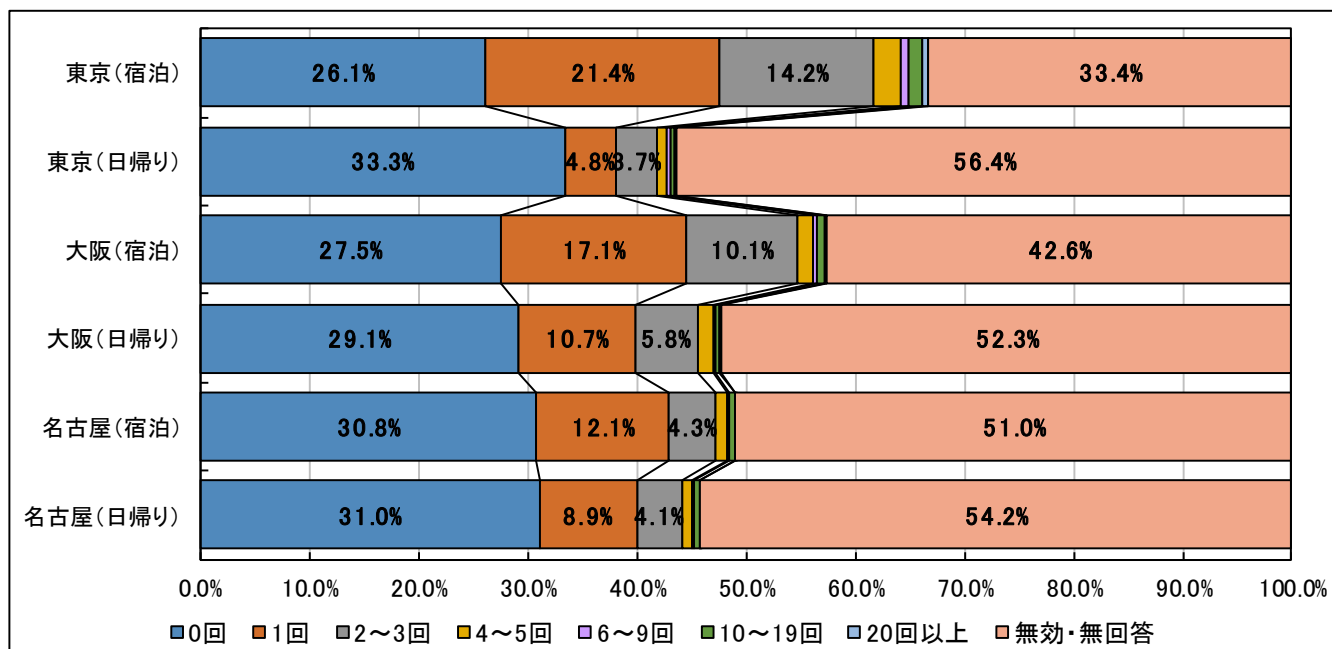
この1年間で3大都市圏に出かけた場所を見ると、「東京(宿泊)」が最も多く、「東京(日帰り)」と「名古屋(日帰り)」が最も少ない結果となった(図表2-2)。

前回調査と今回調査において、旅行回数が「1回以上」と回答した者の割合を比較すると、東京圏は「宿泊」、「日帰り」とともに増加しているが、大阪圏と名古屋圏では両方とも減少している。(図表2-3)。

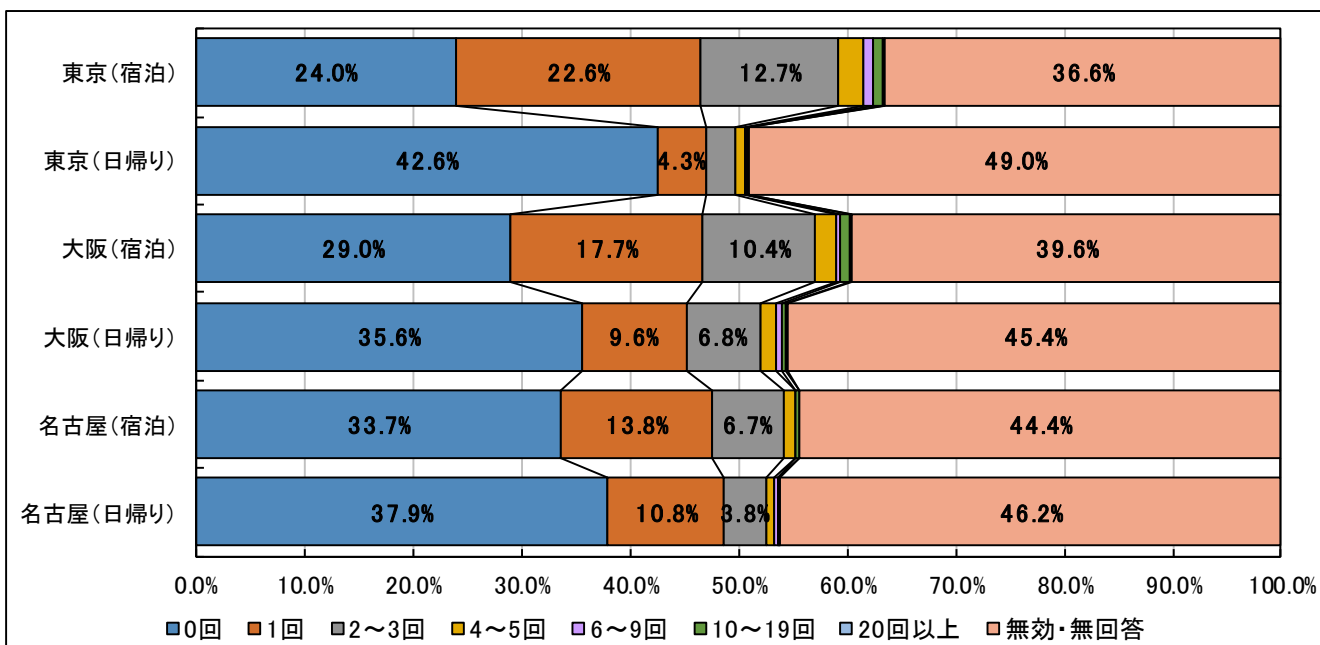
この1年間で東京圏に出かけた際に利用した交通手段を見ると、「飛行機」と回答した人の割合は、宿泊・日帰りともに「電車」を上回っている。大阪圏へは「電車」、名古屋圏へは「自家用車」の割合が高くなっている(図表2-4)。

前回調査と今回調査の交通手段を比較すると、「電車(新幹線)」は「東京(日帰り)」でのみ増加している。「飛行機」は減少、「バス」は「東京(宿泊)」と「東京(日帰り)」でのみ増加、「自家用車」は全てで増加している(図表2-5)。

図表 2-2 現在の3大都市圏へ過去1年間に出かけた旅行回数（今回調査）（全体）
「過去1年間に、3大都市圏に出かけた回数をご記入ください。」（SA）

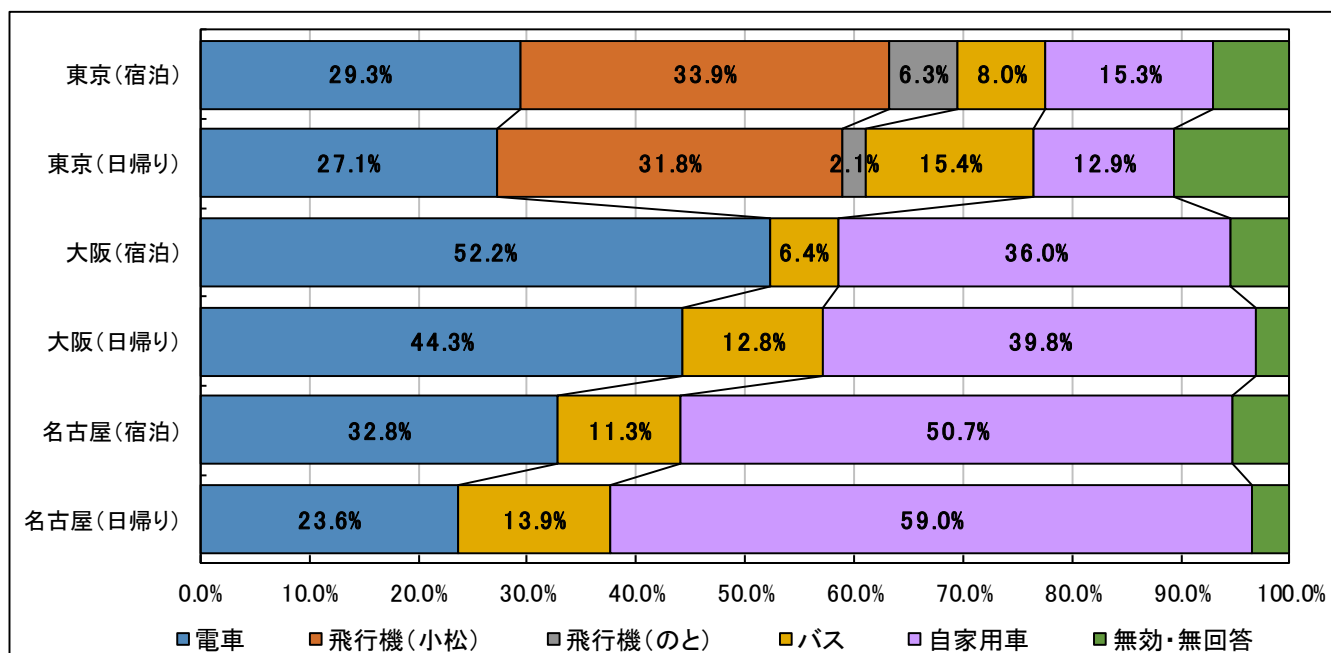


図表 2-3 現在の3大都市圏へ過去1年間に出かけた旅行回数（前回調査）（全体）
「過去1年間に、3大都市圏に出かけた回数をご記入ください。」（SA）



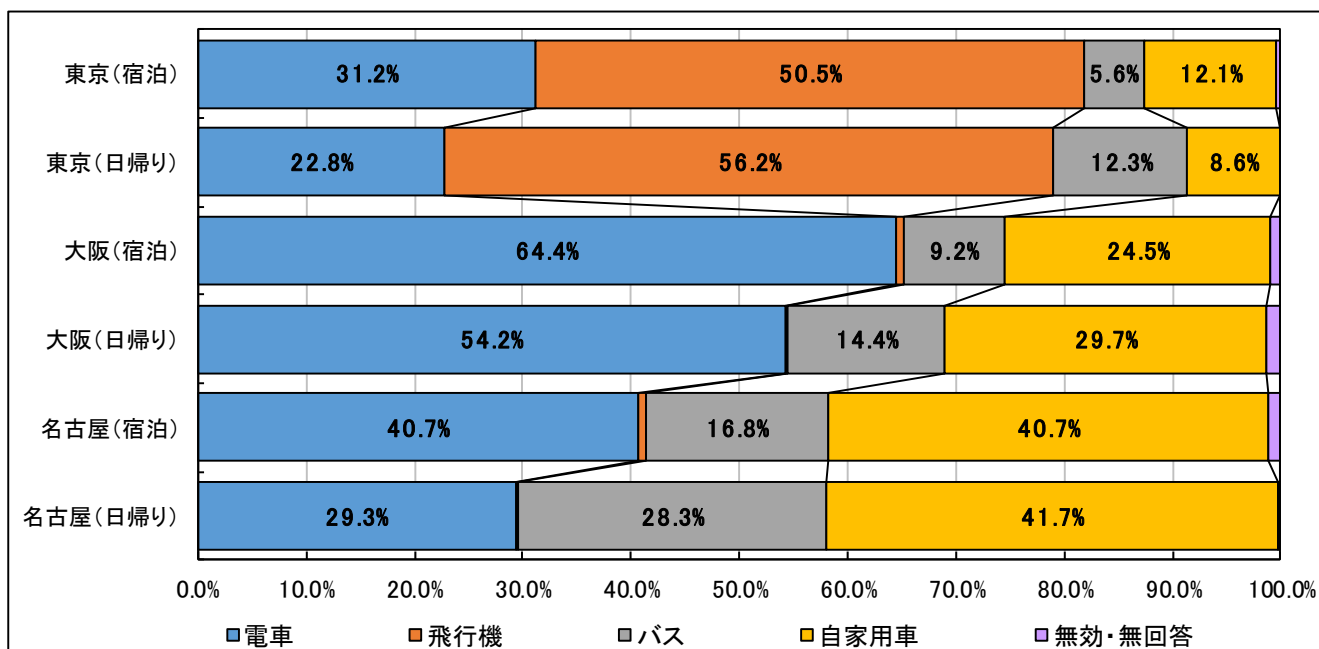
図表 2-4 現在の3大都市圏へ過去1年間に出かけた際の交通手段（今回調査）（全体）
 「過去1年間に、3大都市圏に出かけた際に最も多く利用した交通手段をお選びください。」（SA）

※構成比は、各地域へ行ったサンプル数を母数として算出。



図表 2-5 現在の3大都市圏へ過去1年間に出かけた際の交通手段（前回調査）（全体）
 「過去1年間に、3大都市圏に出かけた際に最も多く利用した交通手段をお選びください。」（SA）

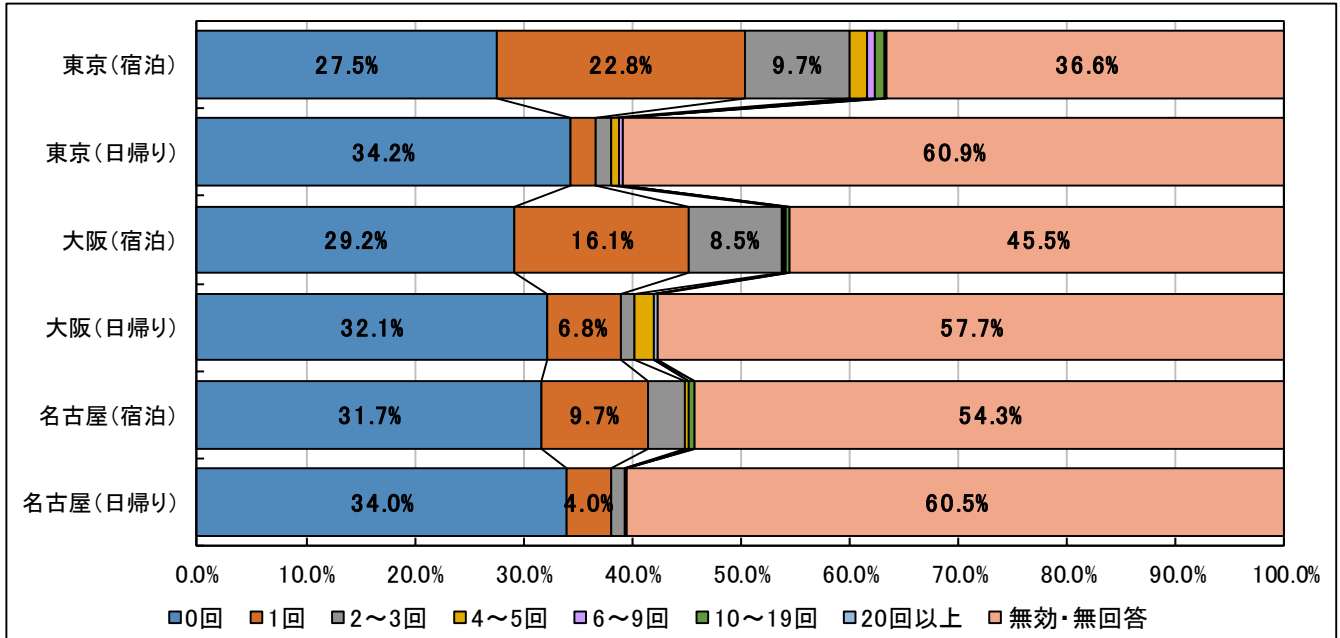
※構成比は、各地域へ行ったサンプル数を母数として算出。



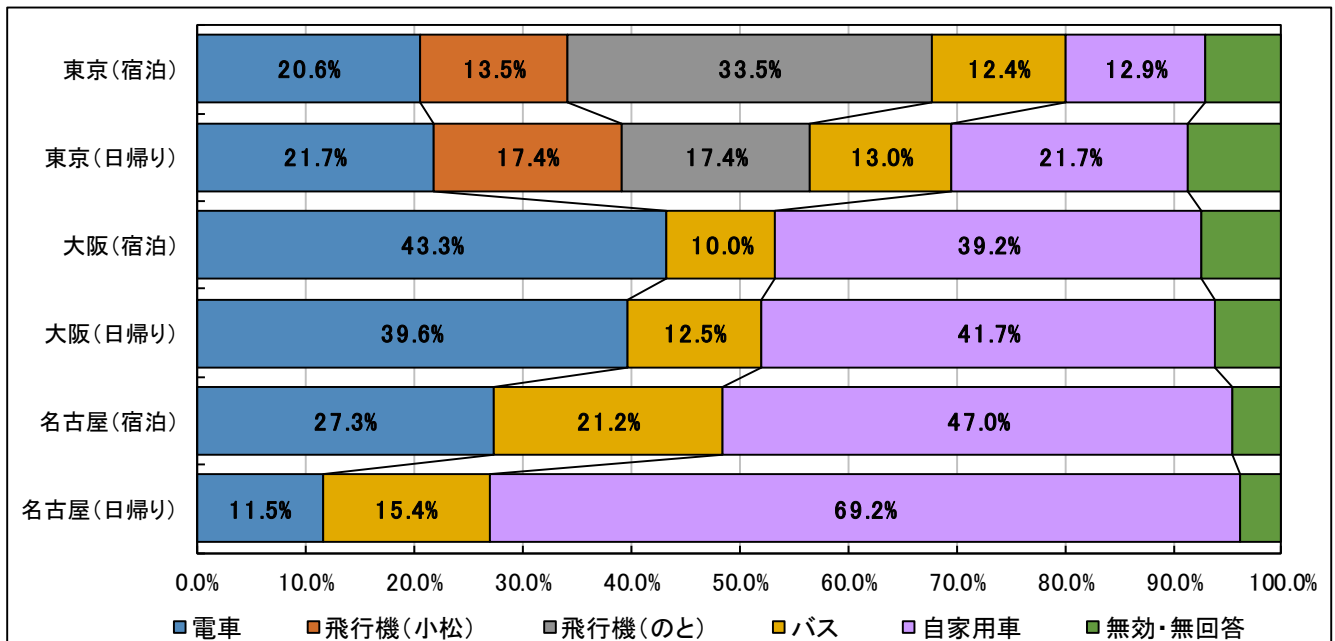
《能登》

出かけた割合では「東京（宿泊）」(35.9%)が最も多く、次いで「大阪（宿泊）」(25.4%)の順である（図表 2-6）。
交通手段としては「飛行機（のと）」の利用率が他の地域と比較して高くなっている（図表 2-7）。

図表 2-6 現在の3大都市圏へ過去1年間に出かけた旅行回数（地域・能登）
「過去1年間に、3大都市圏に出かけた回数をご記入ください。」(SA)



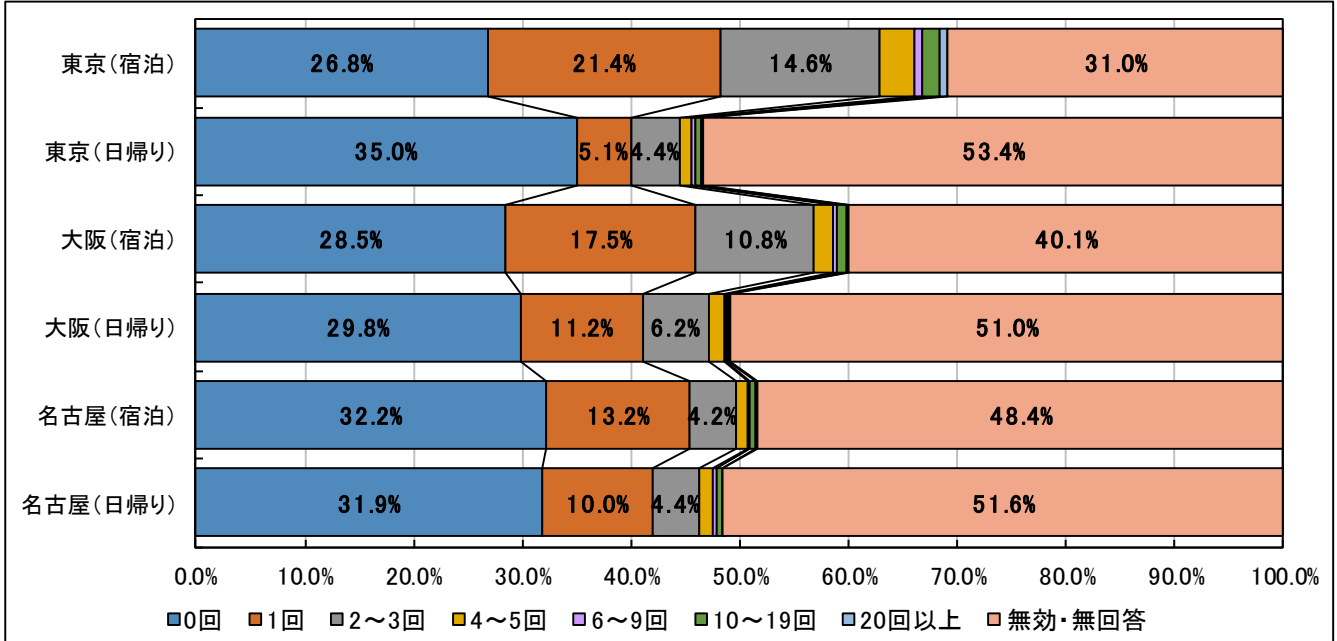
図表 2-7 現在の3大都市圏へ過去1年間に出かけた際の交通手段（地域・能登）
「過去1年間に、3大都市圏に出かけた際に最も多く利用した交通手段をお選びください。」(SA)



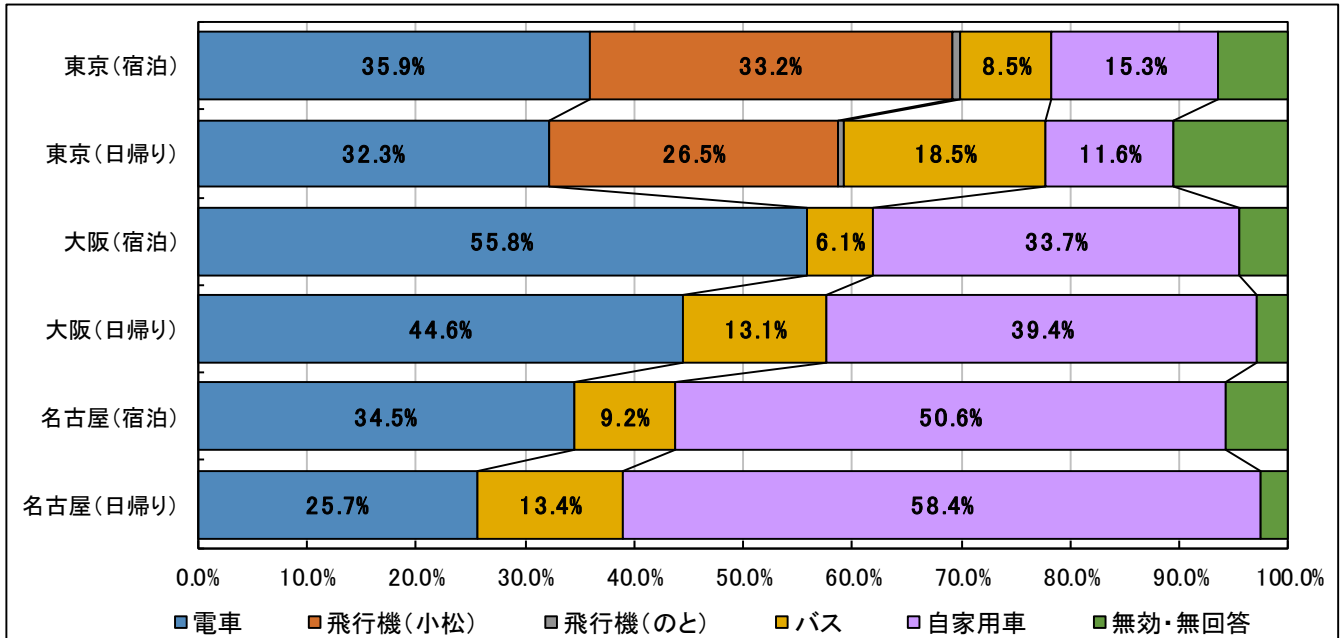
《石川中央》

3大都市圏へ出かけた割合が他地域と比較して高いのが特徴である（図表 2-8）。また、「電車」を利用した割合も他地域より高い（図表 2-9）。

図表 2-8 現在の3大都市圏へ過去1年間に出かけた旅行回数（地域・石川中央）
「過去1年間に、3大都市圏に出かけた回数をご記入ください。」(SA)



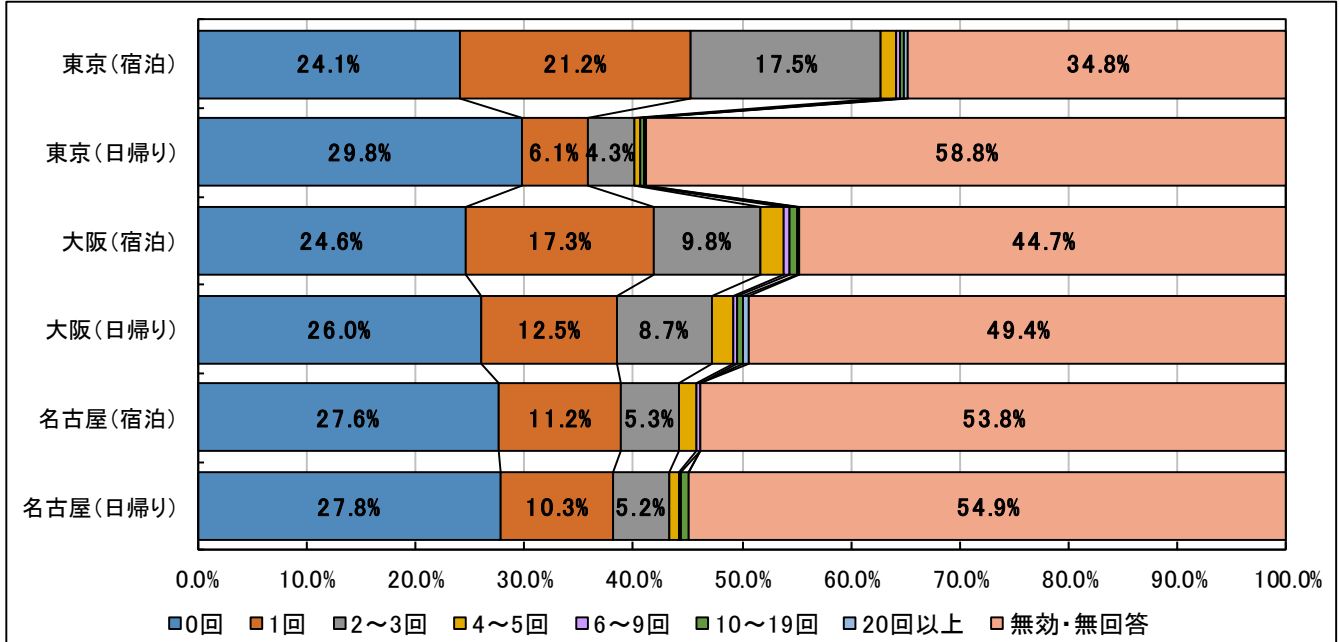
図表 2-9 現在の3大都市圏へ過去1年間に出かけた際の交通手段（地域・石川中央）
「過去1年間に、3大都市圏に出かけた際に最も多く利用した交通手段をお選びください。」(SA)



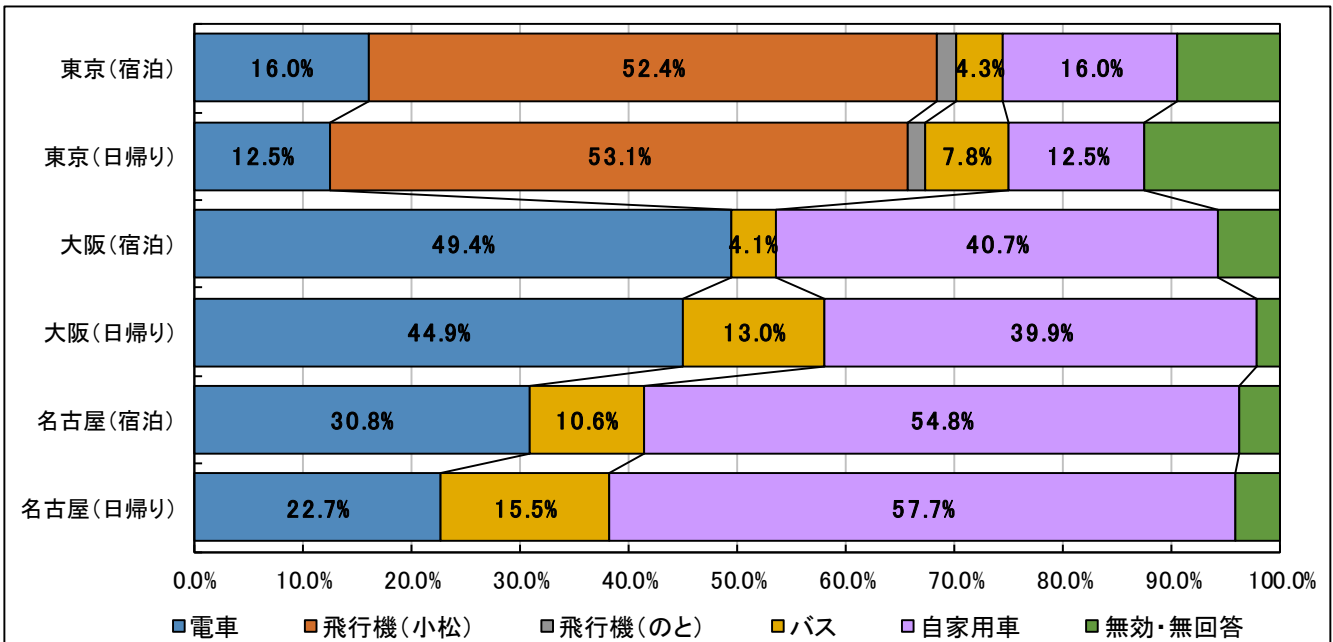
《加賀南部》

地域別で見ると石川中央に次いで他地域に出かけた割合が高い（図表 2-10）。交通手段として「飛行機（小松）」を利用した割合が他地域よりも高いのが特徴である（図表 2-11）。

図表 2-10 現在の3大都市圏へ過去1年間に出かけた旅行回数（地域・加賀南部）
「過去1年間に、3大都市圏に出かけた回数をご記入ください。」(SA)



図表 2-11 現在の3大都市圏へ過去1年間に出かけた際の交通手段（地域・加賀南部）
「過去1年間に、3大都市圏に出かけた際に最も多く利用した交通手段をお選びください。」(SA)



(2) 東京圏への北陸新幹線金沢開業後の旅行回数(問 4-2)

前回調査と今回調査を比較すると、「現状と変わらない」は減少し、「増える」は増加した。「減る」の割合では大きな変化は見られなかった(図表 2-12)。

金沢開業後の新幹線の移動時間・料金・本数について下記の仮定した条件のもと、東京に出かける回数の変化を尋ねた。集計結果は、「現状と変わらない」との回答割合が、宿泊では 37.8%、日帰りでは 34.3%とともに最も高くなっている。一方、「東京に出かける回数が増える(増えると回答したものの合計)」との回答は宿泊で 32.6%、日帰りで 22.0%となっている。

◆参考データ:現在の3大都市圏との移動時間、運賃など(季節により違いあり)

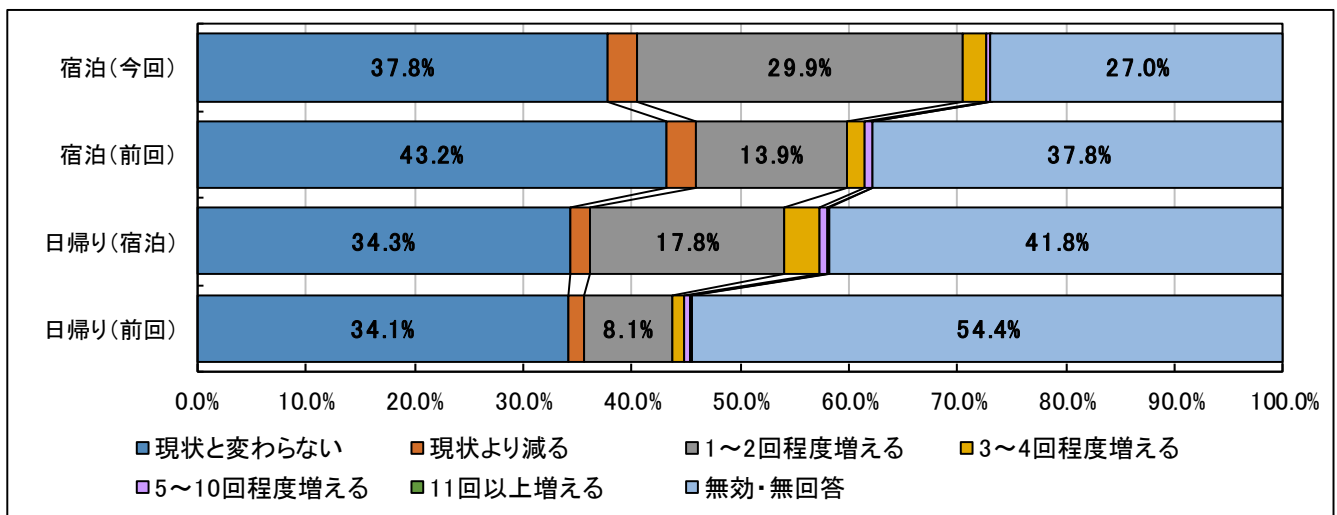
区 間	時 間	正規の片道普通運賃	本数(片道)	備 考
金沢-東京(鉄道)	約4時間	13,050円	約13本	越後湯沢経由
金沢-東京(鉄道)	約4時間15分	16,010円	約15本	米原経由
小松-羽田(飛行機)	約1時間	24,600円	約12便	
能登-羽田(飛行機)	約1時間	24,600円	2便	

※北陸新幹線の金沢開業後の運賃を以下のように仮定します。

区 間	時 間	正規の片道普通運賃(仮定)	本数(往復)	
金沢-東京(鉄道(北陸新幹線))	2時間28分(最速)	13,050円(現状の越後湯沢経由と同じと仮定)	かがやき(速達タイプ)	10往復
			はくたか(停車タイプ)	14往復(他に金沢~長野間1往復)

図表 2-12 東京圏への北陸新幹線金沢開業後の旅行回数(前回・今回調査)(全体)

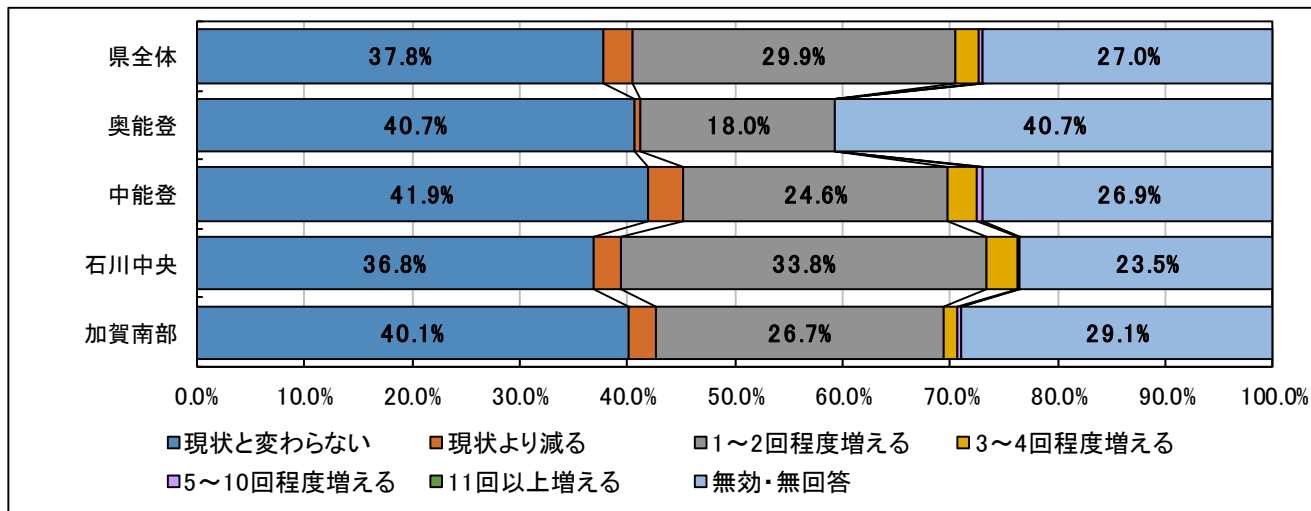
「新幹線金沢開業後、東京圏に出かける回数は現在と比較して変わりますか。」(SA)



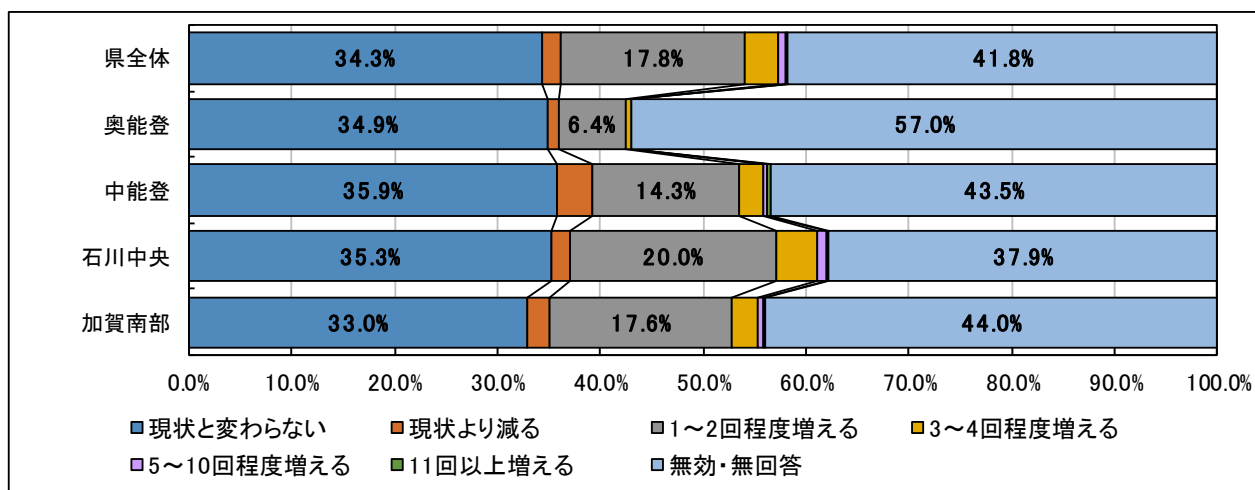
地域別で見ると、「宿泊」では「増える」の割合が最も高いのは石川中央(37.0%)で、次いで加賀南部(28.3%)、中能登(27.9%)、奥能登(18.0%)の順となっている（図表 2-13）。

「日帰り」でも同様の傾向、最も高いのは石川中央(25.0%)、次いで加賀南部(20.9%)、中能登(17.3%)、奥能登(7.0%)となっている（図表 2-14）。

図表 2-13 東京圏への北陸新幹線金沢開業後の旅行回数（地域・宿泊）
「新幹線金沢開業後、東京圏に出かける回数は現在と比較して変わりますか。」(SA)



図表 2-14 東京圏への北陸新幹線金沢開業後の旅行回数（地域・日帰り）
「新幹線金沢開業後、東京圏に出かける回数は現在と比較して変わりますか。」(SA)

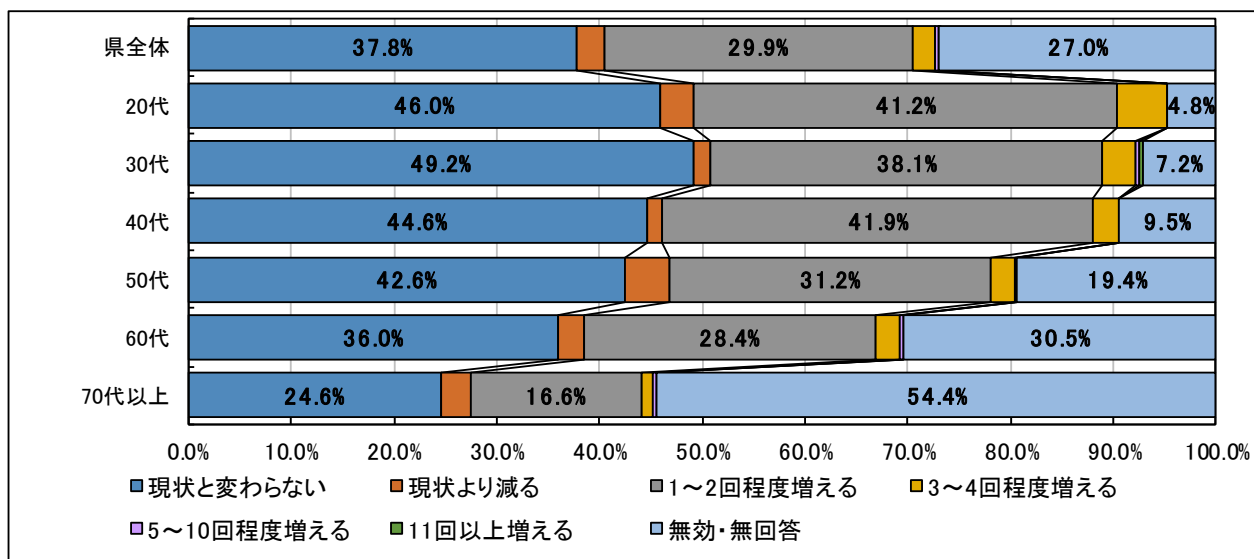


年齢・性別で見ると、「宿泊」では20代～40代で「増える」の割合が他の世代と比較して高くなっている。年代が高くなるにつれ、「無効・無回答」の割合が高くなっている（図表 2-15）。

「日帰り」でも同様の傾向が見られる（図表 2-16）。

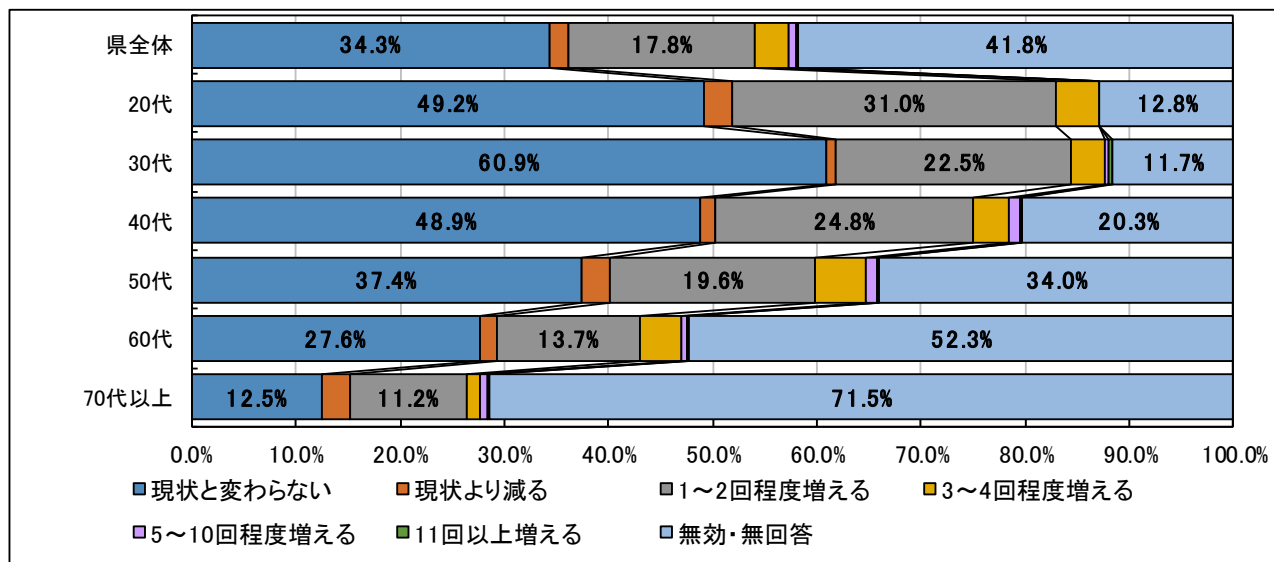
図表 2-15 東京圏への北陸新幹線金沢開業後の旅行回数（年代・宿泊）

「新幹線金沢開業後、東京圏に出かける回数は現在と比較して変わりますか。」(SA)



図表 2-16 東京圏への北陸新幹線金沢開業後の旅行回数（年代・日帰り）

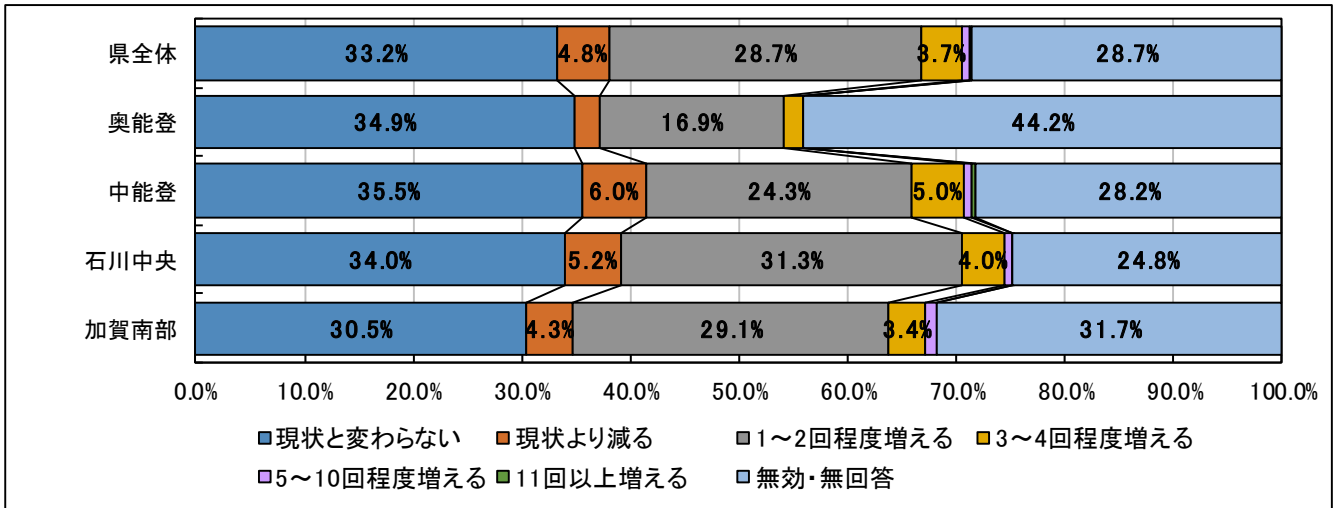
「新幹線金沢開業後、東京圏に出かける回数は現在と比較して変わりますか。」(SA)



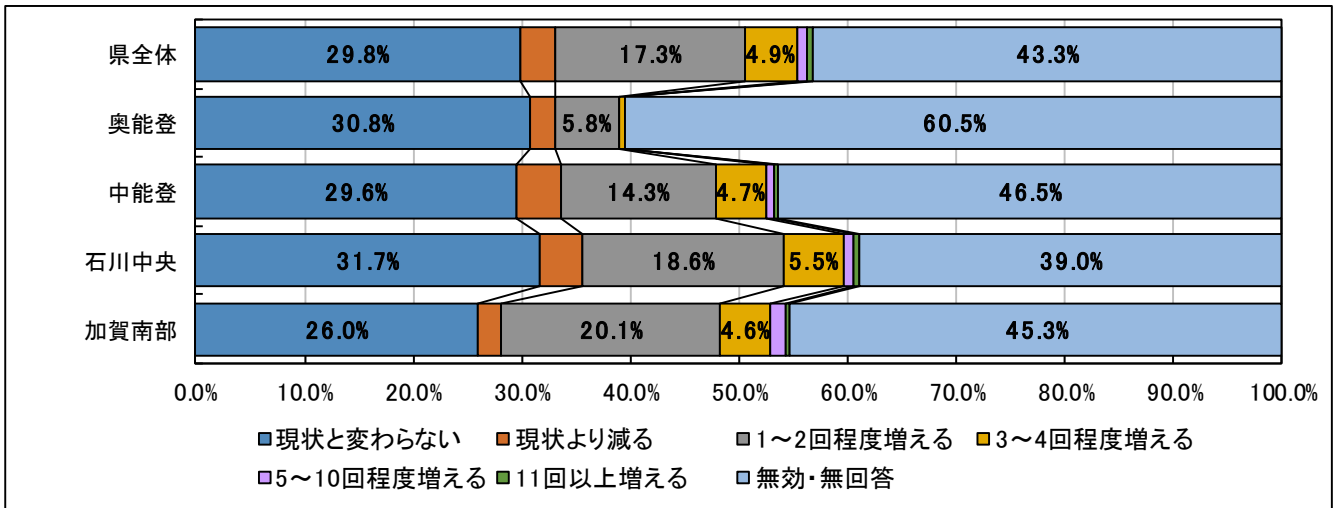
(3) 東京圏への県内全線開業後の旅行回数(問 4-3)

県全体で見ると、新幹線全線開業後でも金沢開業後と同様に「現状と変わらない」との回答割合が、宿泊で33.2%、日帰りで29.8%と最も高くなっている。「東京に出かける回数が増える(増えるという回答の合計)」との回答は宿泊で33.3%、日帰りで23.6%となっており、宿泊ではそれほど差は見られない(図表2-17,18,19,20)。

図表 2-17 東京圏への県内全線開業後の旅行回数(地域・宿泊)
「新幹線県内全線開業後、東京圏に出かける回数は現在と比較して変わりますか。」(SA)

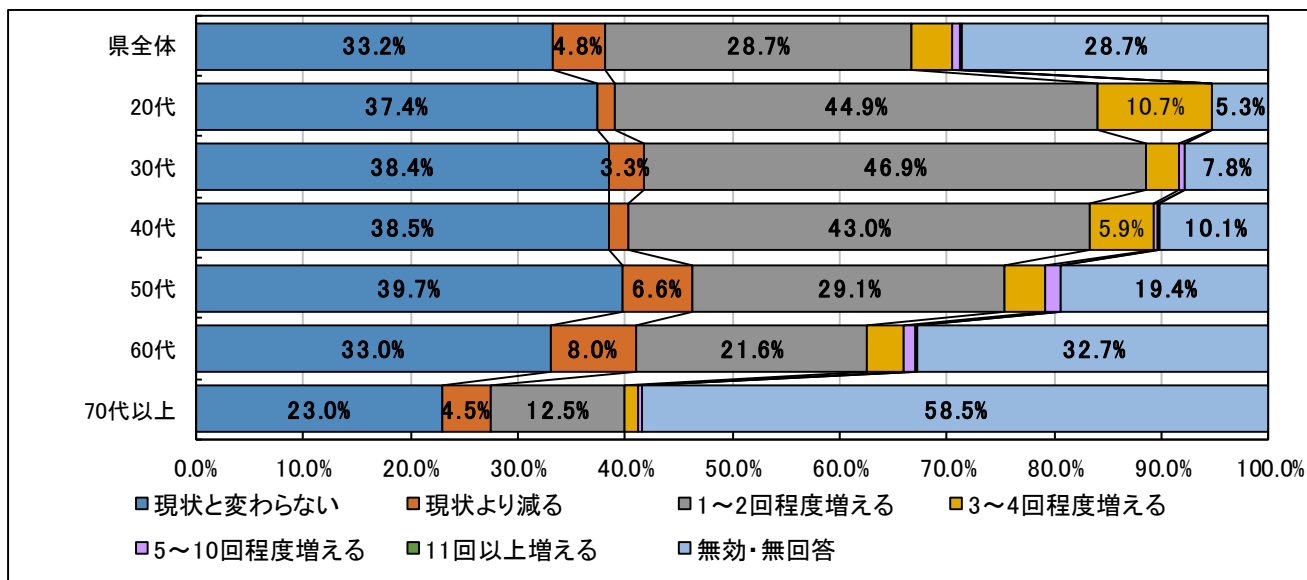


図表 2-18 東京圏への県内全線開業後の旅行回数(地域・日帰り)
「新幹線県内全線開業後、東京圏に出かける回数は現在と比較して変わりますか。」(SA)



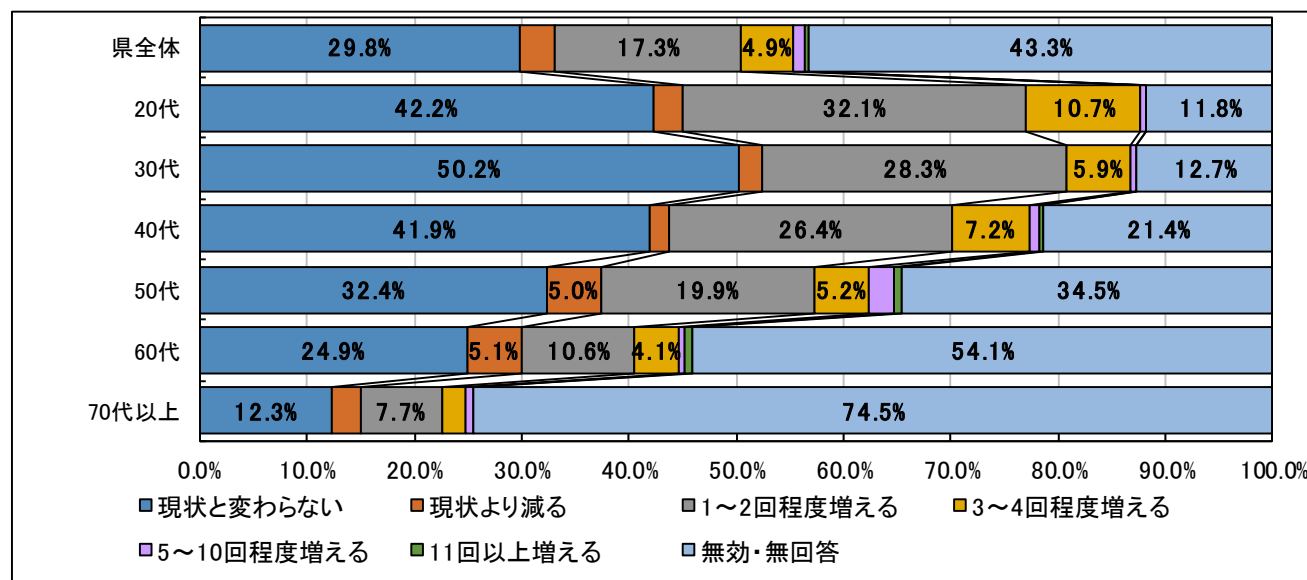
図表 2-19 東京圏への県内全線開業後の旅行回数（年代・宿泊）

「新幹線県内全線開業後、東京圏に出かける回数は現在と比較して変わりますか。」(SA)



図表 2-20 東京圏への県内全線開業後の旅行回数（年代・日帰り）

「新幹線県内全線開業後、東京圏に出かける回数は現在と比較して変わりますか。」(SA)

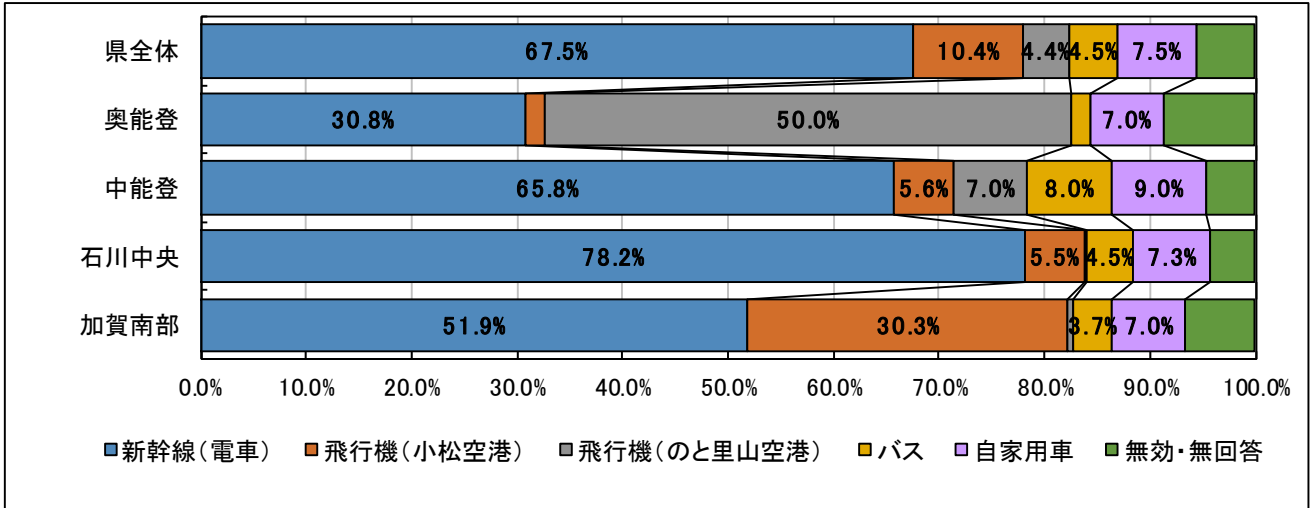


(4) 北陸新幹線金沢開業後の東京圏への移動手段(問 5-1)

地域別で見ると、奥能登では「飛行機 (のと里山空港)」を利用する割合が半数の 50.0%を占めるが、他の地域では「新幹線 (電車)」の割合が最も高い。加賀南部では「飛行機 (小松空港)」の利用率が他の地域と比較して高いのが特徴である。年齢・性別間では 20 代の男女で他の年代と比べて「バス」の利用率が高く、「飛行機」の利用率が低くなっている (図表 2-21,22)。

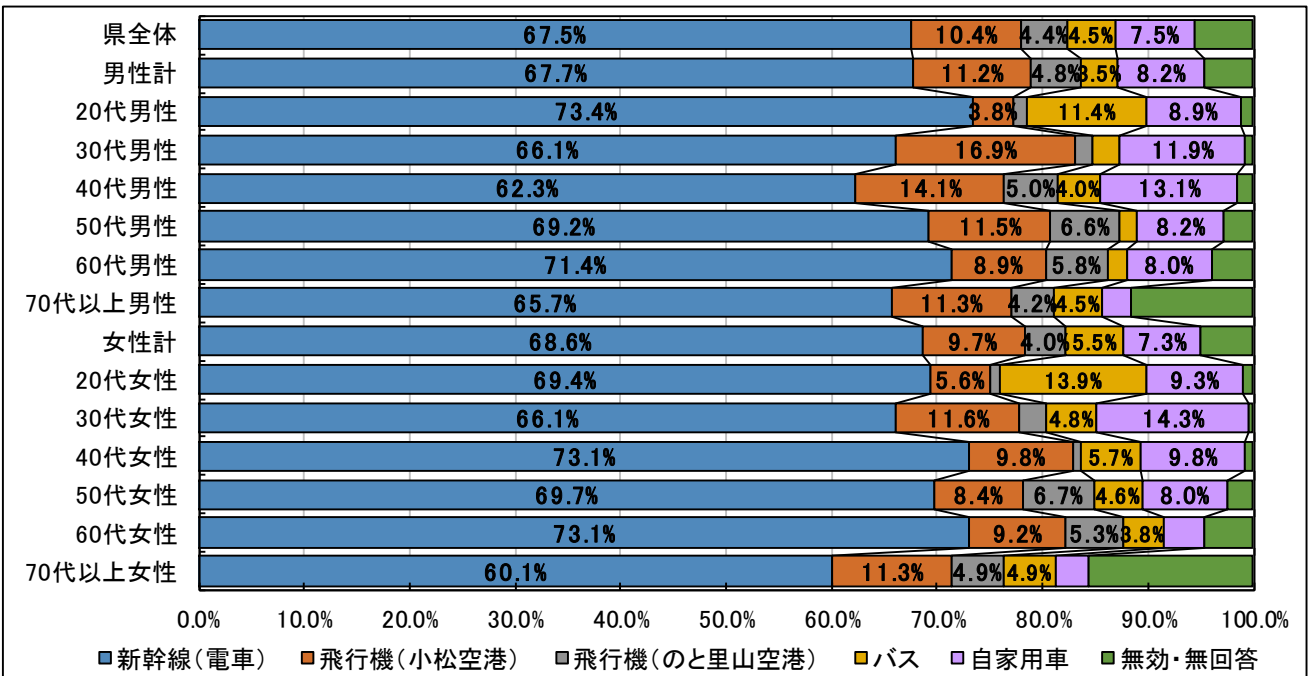
図表 2-21 北陸新幹線金沢開業後の東京圏への移動手段 (地域別)

「新幹線金沢開業後、東京圏に出かける際に、最も多く利用する交通手段は何ですか。」(SA)



図表 2-22 北陸新幹線金沢開業後の東京圏への移動手段 (年齢・性別)

「新幹線金沢開業後、東京圏に出かける際に、最も多く利用する交通手段は何ですか。」(SA)

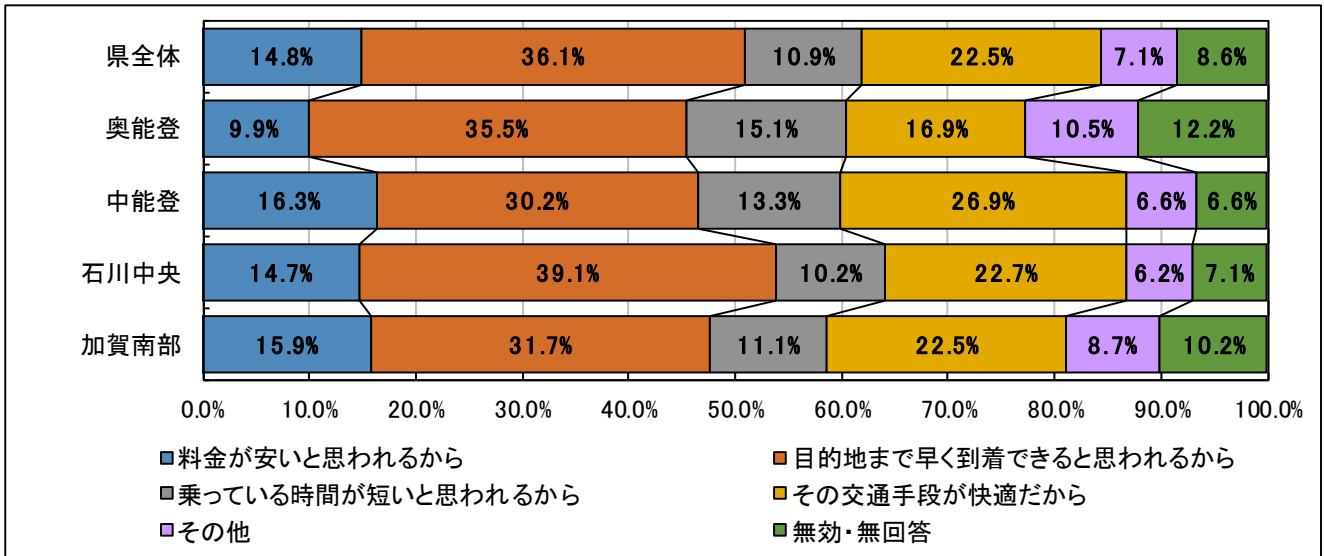


(5) 東京圏への北陸新幹線金沢開業後の交通手段を選ぶ理由(問 5-2)

地域別で見ると、どの地域でも「目的地まで早く到着できると思われるから」が最も高い。次いで「その交通手段が快適だから」の順である。年齢・性別で見ると若い20代では男女とも「料金が安いと思われるから」が他の世代と比較して高いのが特徴である(図表 2-23,24)。

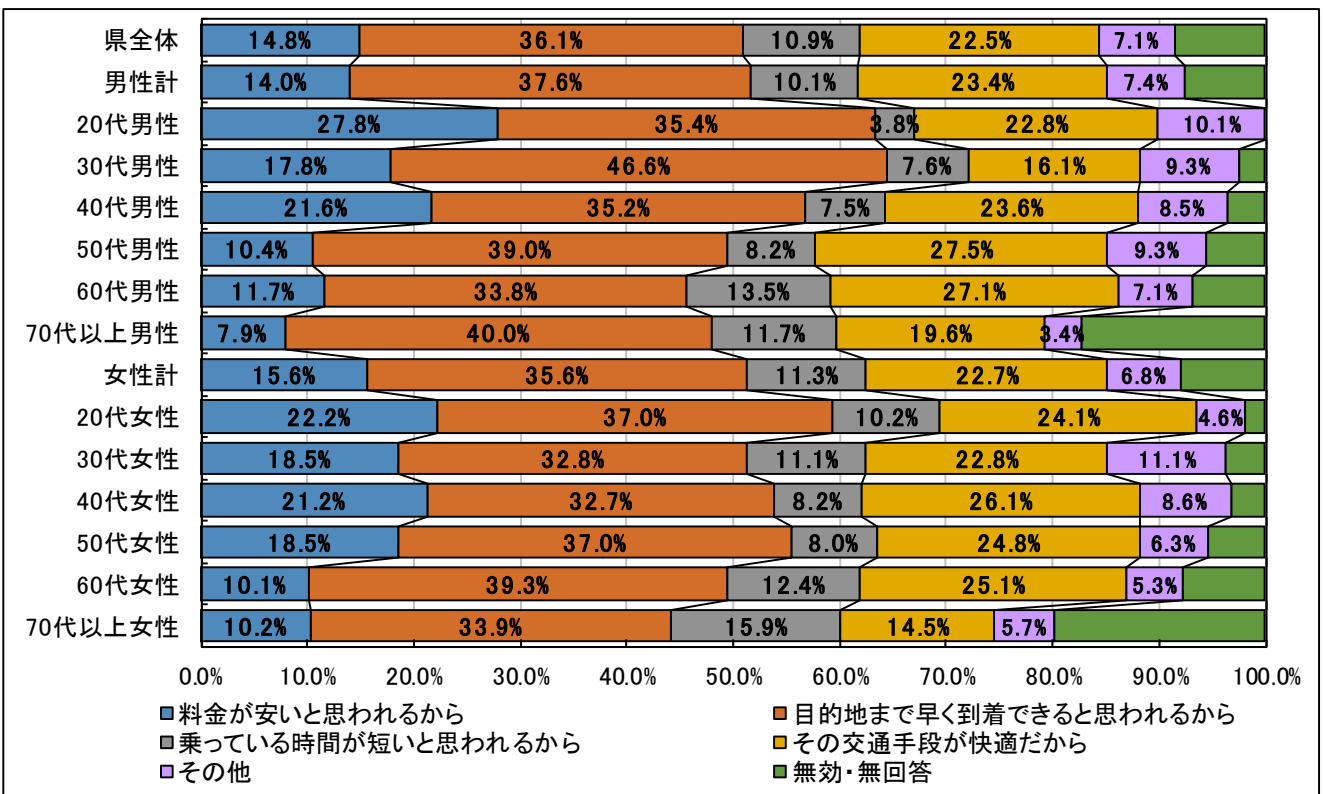
図表 2-23 東京圏への北陸新幹線金沢開業後の交通手段を選ぶ理由(地域別)

「その交通手段を選んだ理由は何ですか。」(SA)



図表 2-24 東京圏への北陸新幹線金沢開業後の交通手段を選ぶ理由(年齢・性別)

「その交通手段を選んだ理由は何ですか。」(SA)

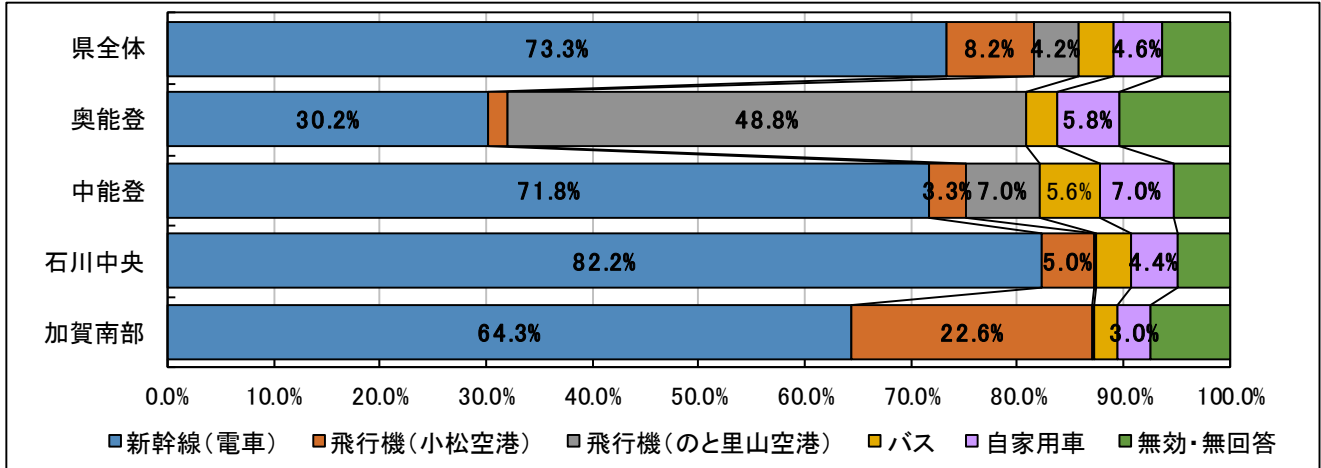


(6) 東京圏への新幹線県内全線開業後の交通手段(問 5-3)

地域別で見ると、全線開業後では奥能登を除き「新幹線（電車）」の利用割合が最も高い。年齢・性別で見ると、20代の男女で「バス」利用率が他の世代と比較して高くなっている（図表 2-25,26）。

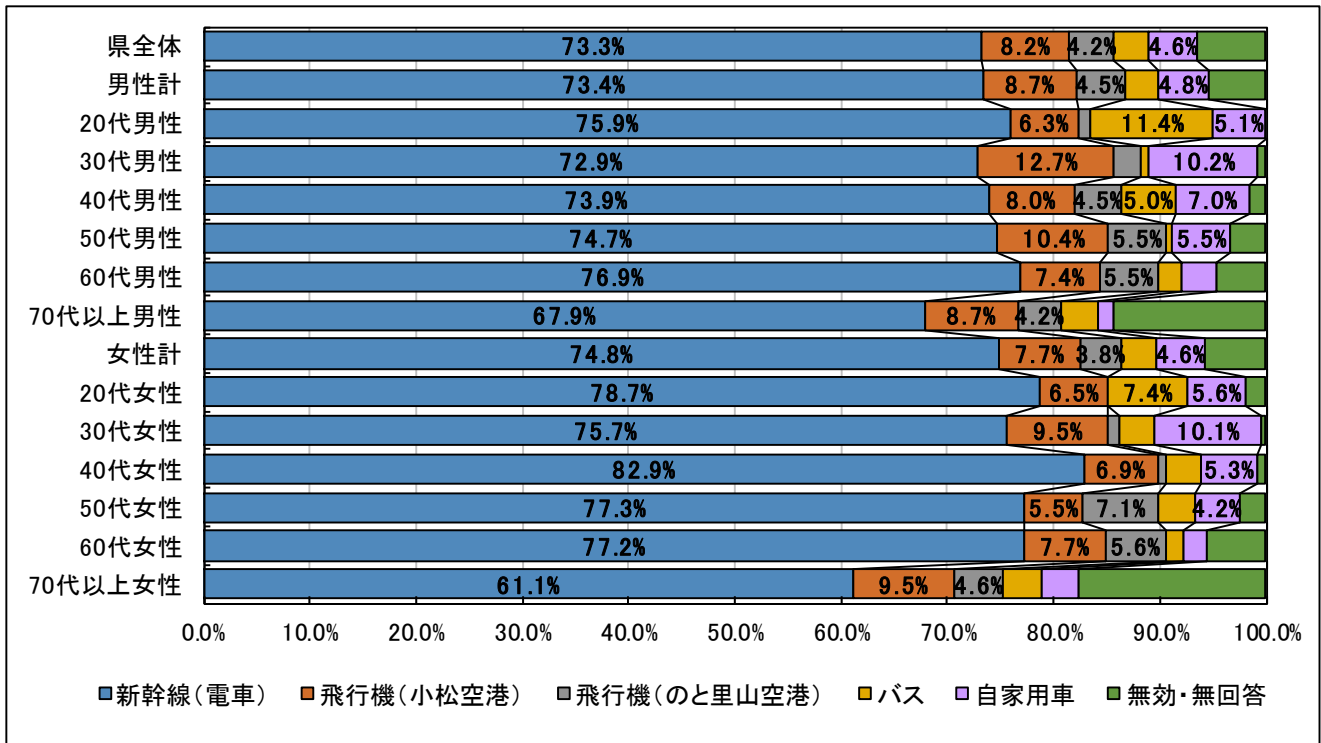
図表 2-25 東京圏への新幹線県内全線開業後の交通手段（地域別）

「新幹線県内全線開業後、東京圏に出かける際に、最も多く利用する交通手段は何ですか。」(SA)



図表 2-26 東京圏への新幹線県内全線開業後の交通手段（年齢・性別）

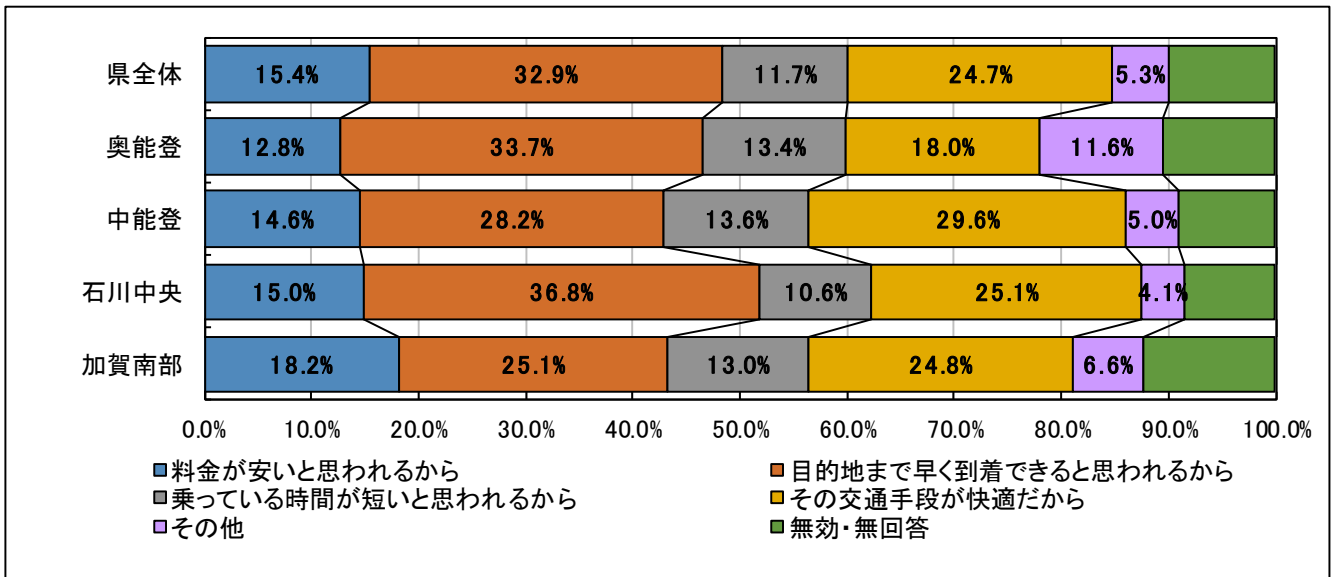
「新幹線県内全線開業後、東京圏に出かける際に、最も多く利用する交通手段は何ですか。」(SA)



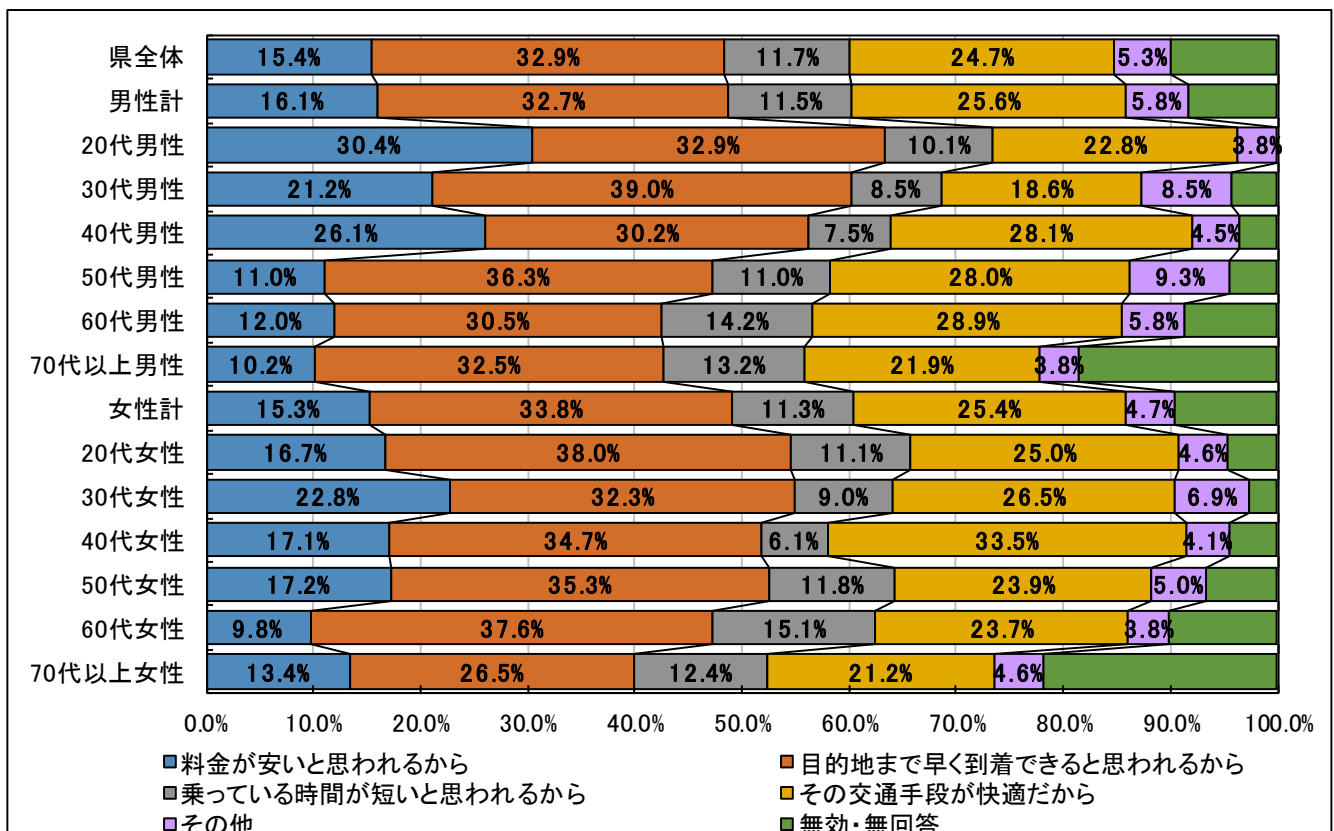
(7) 東京圏への新幹線県内全線開業後の交通手段を選ぶ理由(問 5-4)

地域別で見ると、中能登以外の地域で「目的地まで早く到着できると思われるから」が最も高い。次いで「その交通手段が快適だから」の順である。年齢・性別で見ると男性では 20 代、女性では 30 代で「料金が安いと思われるから」が他の世代と比較して高いのが特徴である。問 5-2 の県内開業後とほぼ同様の結果となっている(図表 2-27,28)。

図表 2-27 東京圏への新幹線県内全線開業後の交通手段を選ぶ理由(地域別)
「その交通手段を選んだ理由は何ですか。」(SA)



図表 2-28 東京圏への新幹線県内全線開業後の交通手段を選ぶ理由(年齢・性別)
「その交通手段を選んだ理由は何ですか。」(SA)



3.基盤整備

(1) 重点を置くべき基盤整備(問 6)

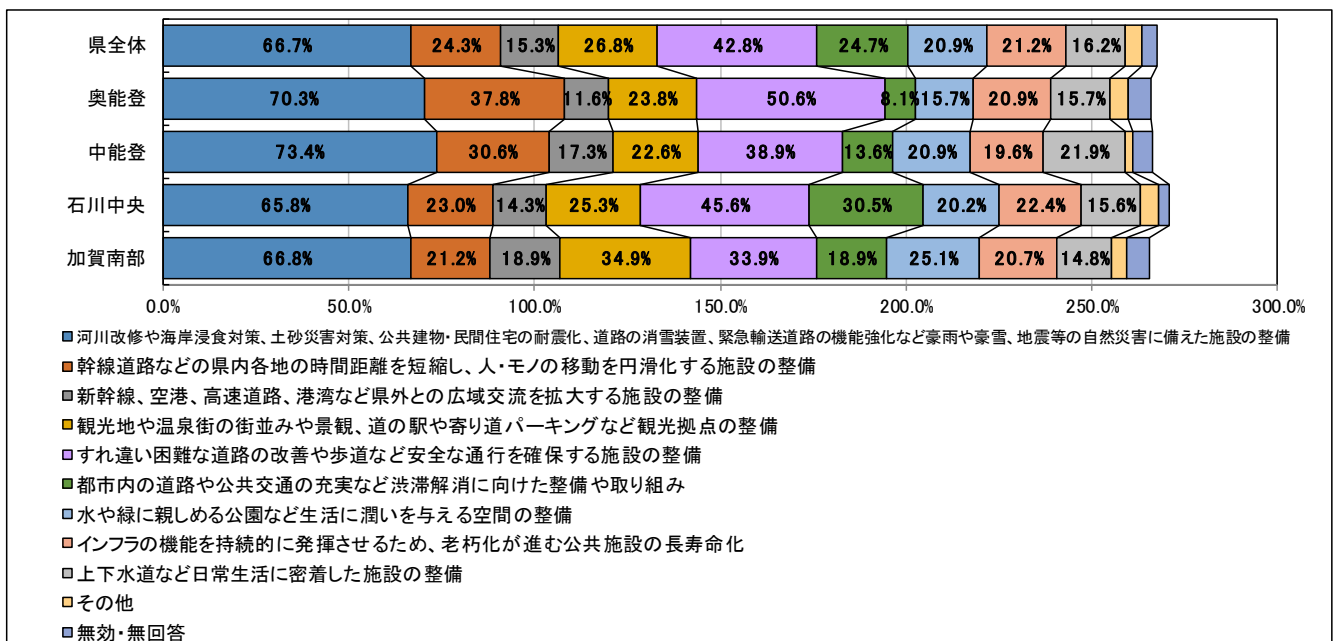
県全体で見ると、「河川改修や海岸浸食対策、土砂災害対策、公共建物・民間住宅の耐震化、道路の消雪装置、緊急輸送道路の機能強化など豪雨や豪雪、地震等の自然災害に備えた施設の整備」(66.7%)が最も高く、次いで、「すれ違い困難な道路の改善や歩道など安全な通行を確保する施設の整備」(42.8%)となっている。

地域別で見ると、奥能登で「幹線道路などの県内各地の時間距離を短縮し、人・モノの移動を円滑化する施設の整備」と「すれ違い困難な道路の改善や歩道など安全な通行を確保する施設の整備」の割合が他地域に比べ高くなっている。石川中央で「都市内の道路や公共交通の充実など渋滞解消に向けた整備や取り組み」の割合が30.5%と他地域に比べ高くなっている(図表3-1)。

年齢・性別で見ると、20代では、「観光地・温泉街など観光拠点の整備」の割合が男性(46.8%)、女性(39.8%)と他の世代と比較し、高くなっている(図表3-2)。

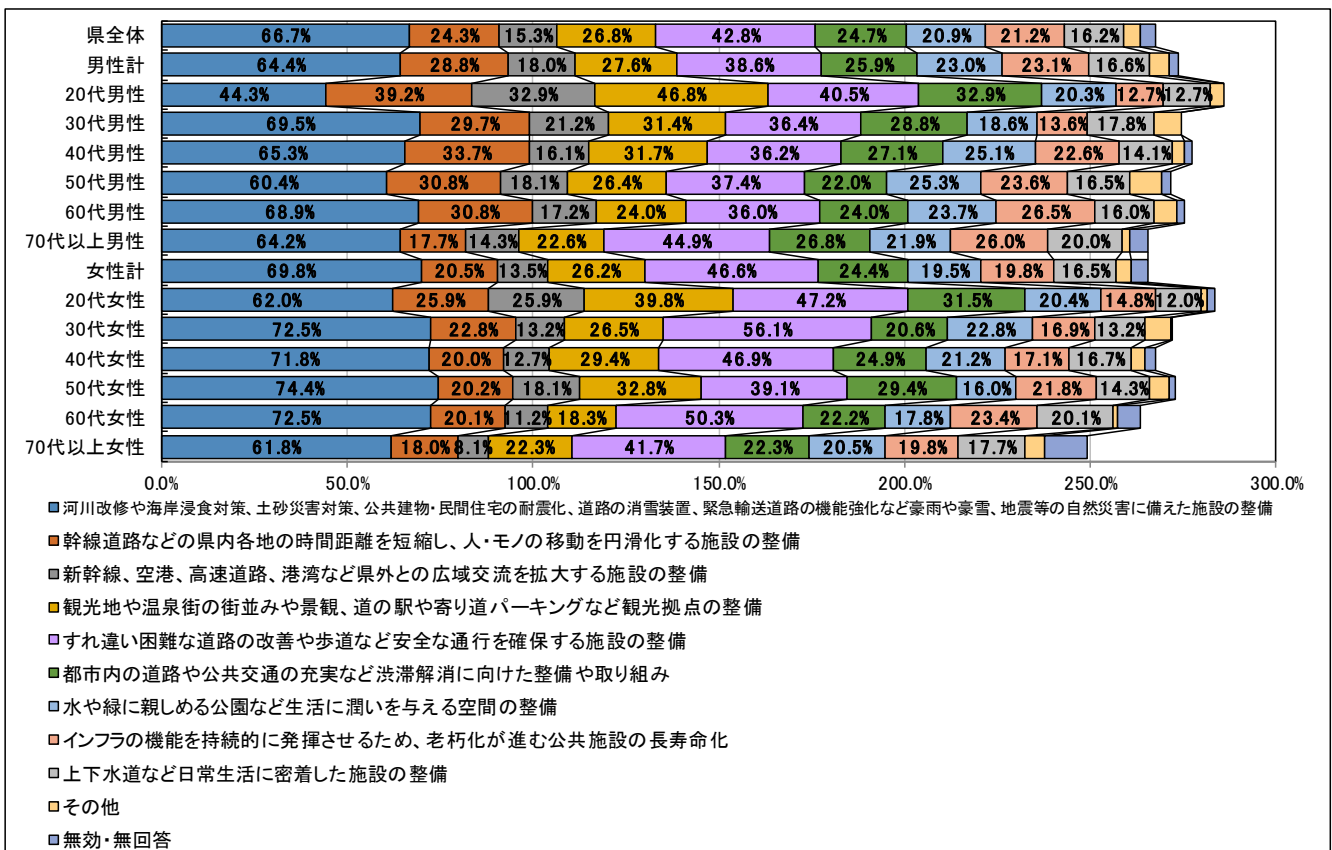
図表 3-1 重点を置くべき基盤整備 (地域別)

「石川県の基盤整備について何に重点をおいて進めればよいと思いますか。」(3A)



図表 3-2 重点を置くべき基盤整備（年齢・性別）

「石川県の基盤整備について何に重点をおいて進めればよいと思いますか。」(3A)



4.文化・スポーツ活動

(1) 文化的活動の状況(問7)

前回調査では、「美術（絵画、彫刻）」(22.8%)、「音楽、洋舞」(22.8%)、「映像、写真」(16.8%)、「手芸、工芸、陶芸」(14.1%)があげられた。「行っていない」との回答は39.1%であった。

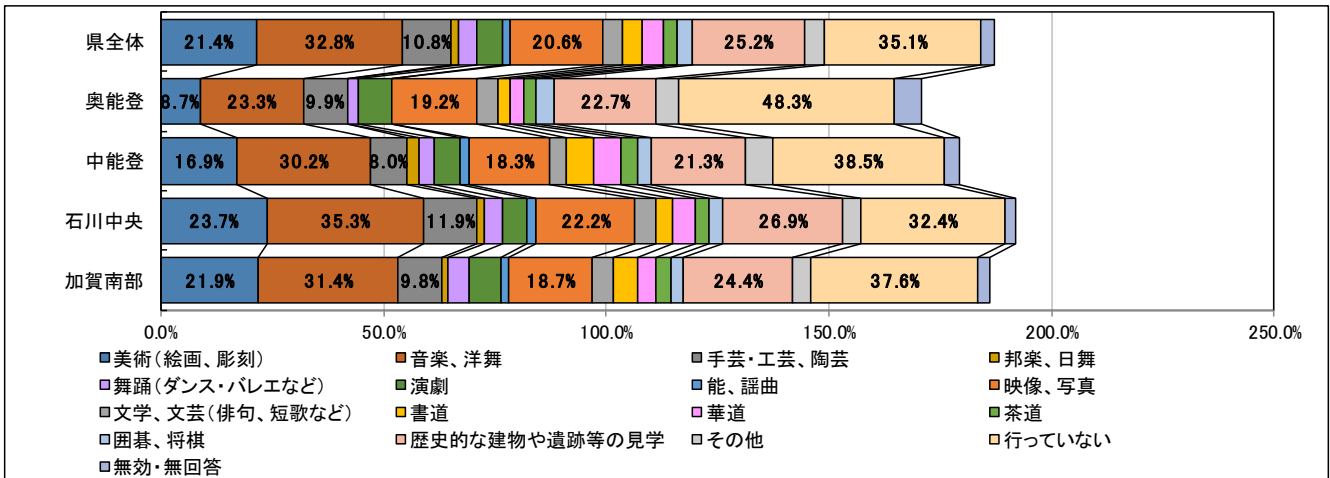
今回調査では、「音楽、洋舞」(32.8%)、「歴史的な建物や遺跡等の見学」(25.2%)、「美術（絵画、彫刻）」(21.4%)、「映像、写真」(20.6%)が高くなっている。「行っていない」との回答は35.1%となっている。

地域別で見ると、奥能登では「美術（絵画、彫刻）」と「音楽、洋舞」の割合が他地域と比較して低くなっている(図表4-1)。

年代別で見ると、20代で「音楽、洋舞」と「映像、写真」の項目がそれぞれ49.2%、31.6%と他の世代と比較して高くなっている(図表4-2)。

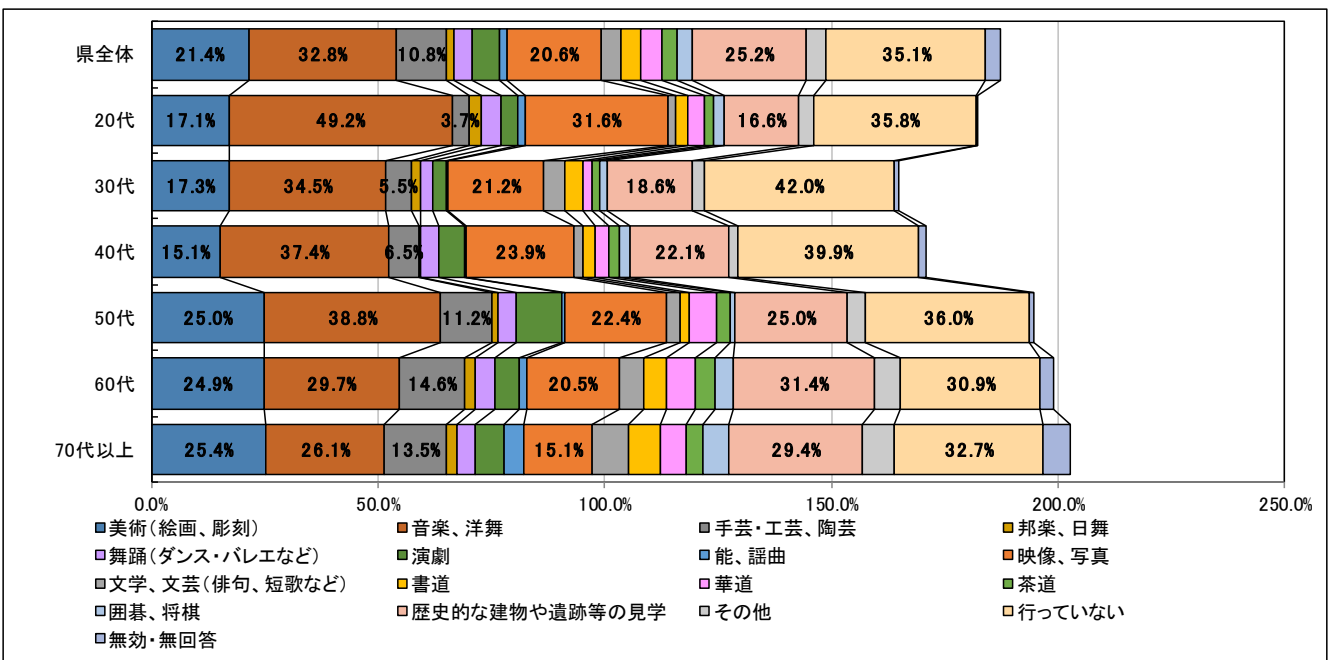
図表 4-1 文化的活動の状況（地域別）

「あなたは、どのような文化的活動（鑑賞、聴講などを含みます）を行っていますか。」(3A)



図表 4-2 文化的活動の状況（年代別）

「あなたは、どのような文化的活動（鑑賞、聴講などを含みます）を行っていますか。」(3A)



(2) 文化活動のすそ野の拡大を図るために必要なこと(問 8)

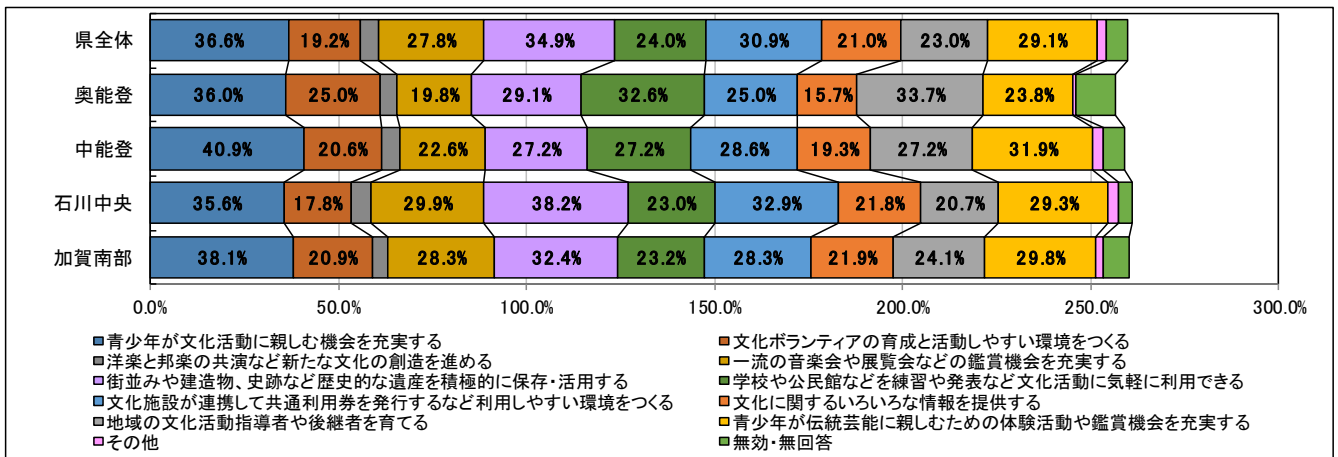
県全体で見ると、文化水準を高めるための施策としては、「青少年が文化活動に親しむ機会を充実する」(36.6%)が最も高く、次いで「街並みや建造物、史跡など歴史的な遺産を積極的に保存・活用する」(34.9%)、「文化施設が連携して共通利用券を発行するなど利用しやすい環境をつくる」(30.9%)となっている。

地域別で見ると、石川中央以外の全地域で「青少年が文化活動に親しむ機会を充実する」が最も高くなっている。石川中央では「街並みや建造物、史跡など歴史的な遺産を積極的に保存・活用する」が最も高くなっている(図表 4-3)。

年齢・性別で見ると、20代女性で「街並みや建造物、史跡など歴史的な遺産を積極的に保存・活用する」が、30代女性では「青少年が伝統芸能に親しむための体験活動や鑑賞機会を充実する」が他の世代と比較してそれぞれ高くなっている(図表 4-4)。

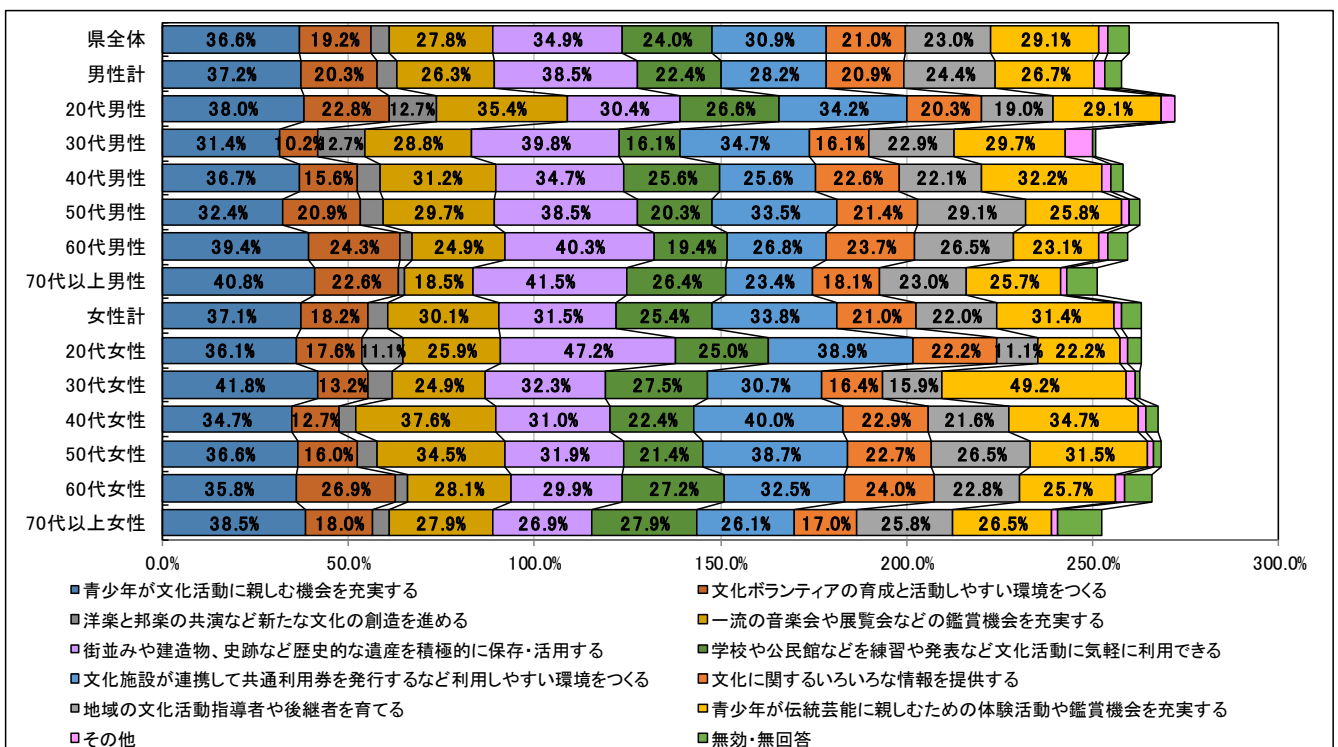
図表 4-3 文化活動のすそ野の拡大を図るために必要なこと(地域別)

「石川県の文化水準を高めるためには、どのようなことが必要だと思いますか。」(3A)



図表 4-4 文化活動のすそ野の拡大を図るために必要なこと(年齢・性別)

「石川県の文化水準を高めるためには、どのようなことが必要だと思いますか。」(3A)



(3) スポーツを振興させるために必要な施策(問9)

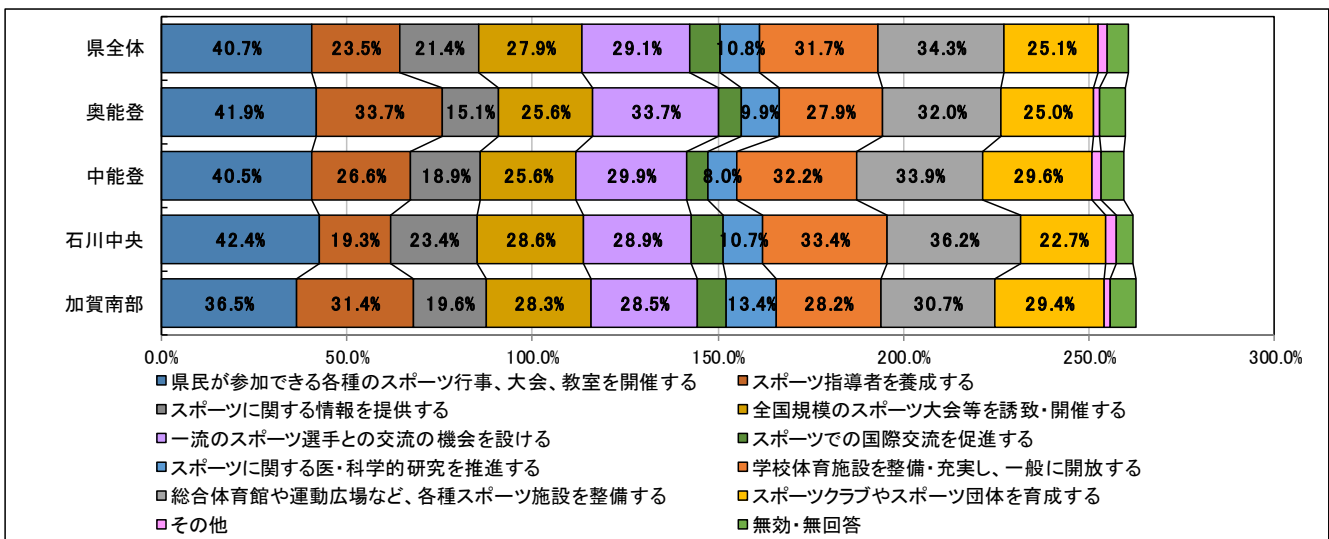
県全体で見ると、スポーツ振興のための施策としては、「県民が参加できる各種のスポーツ行事、大会、教室を開催する」(40.7%) (前回1位) が最も高く、次いで「総合体育館や運動広場など、各種スポーツ施設を整備する」(34.3%) (前回3位)、「学校体育施設を整備・充実し、一般に開放する」(31.7%) (前回2位) となっている。

地域別で見ると、全地域で、「県民が参加できる各種のスポーツ行事、大会、教室を開催する」、「総合体育館や運動広場など、各種スポーツ施設を整備する」が高くなっている。奥能登では、「学校体育施設を整備・充実し、一般に開放する」は他の地域と比べ低いが、「一流のスポーツ選手との交流の機会を設ける」が他の地域と比べ高くなっている(図表4-5)。

年齢・性別で見ると、20代男性で「総合体育館や運動広場など、各種スポーツ施設を整備する」が、20代女性では「スポーツ指導者を養成する」が他の世代と比較して高くなっている(図表4-6)。

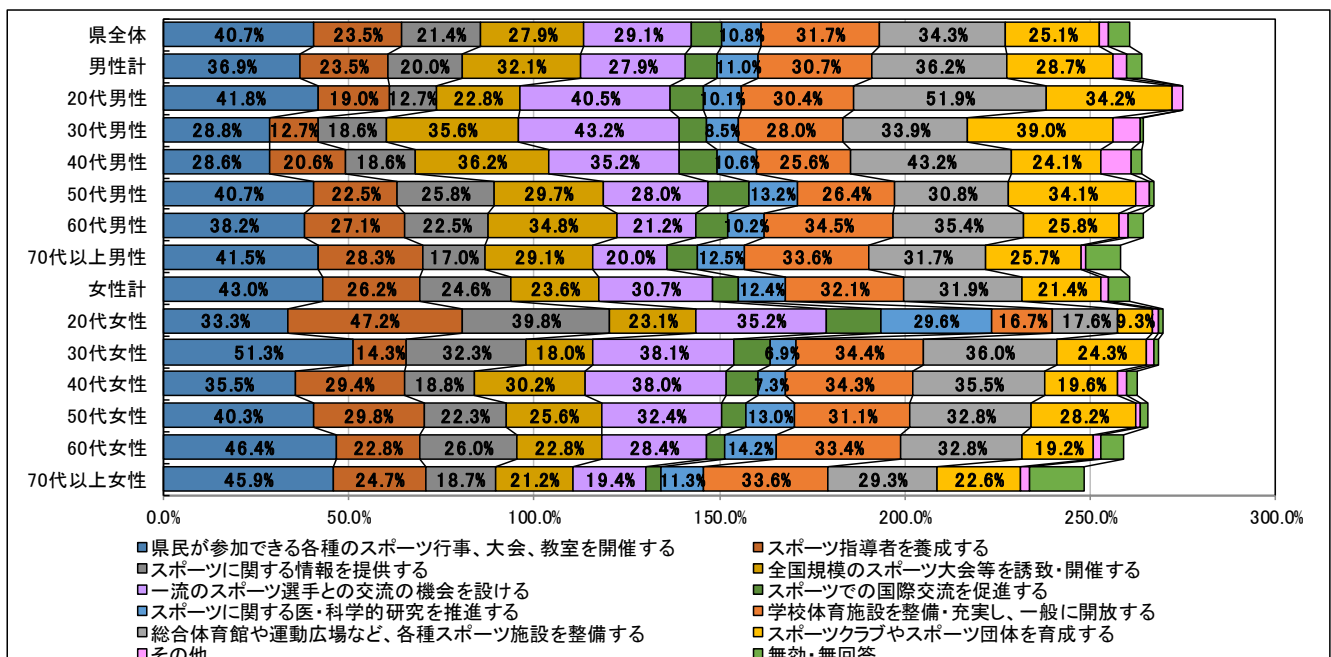
図表 4-5 スポーツを振興させるために必要な施策(地域別)

「スポーツをもっと振興させるためには、どのようなことが必要だと思いますか。」(3A)



図表 4-6 スポーツを振興させるために必要な施策(年齢・性別)

「スポーツをもっと振興させるためには、どのようなことが必要だと思いますか。」(3A)



5.国際交流活動

(1) 過去の国際交流等の経験内容と今後の活動意向(問 10)

最も参加経験の多かった活動は「被災地域への義援金支援など」で、「参加したことがある」(回答における「参加したことがあります、今後も参加したい」と「参加したことがあります、今後は参加したくない」を合計したものを。以下同じ。)と回答した人の割合は27.8%となっている。また、「参加したことがなく、今後は参加したい」との回答も35.1%と参加意向も二番目に高い(前回調査では最も高かった)。

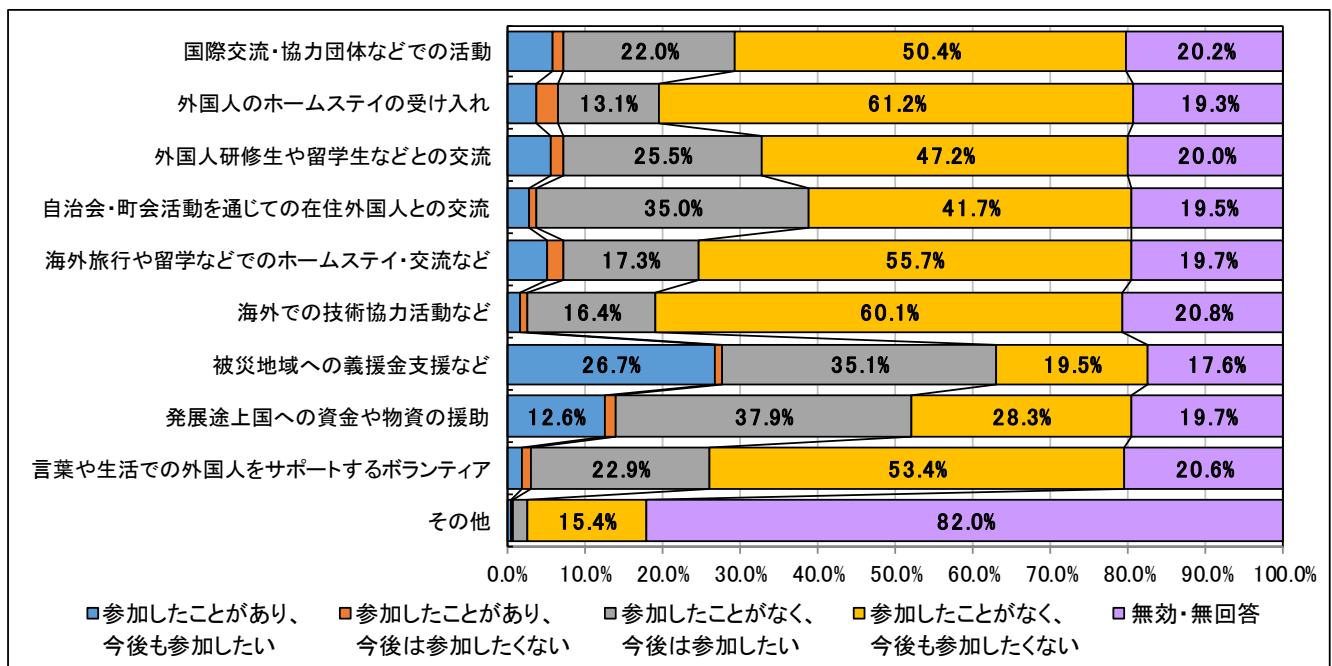
一方、「被災地域への義援金支援など」や「発展途上国への資金や物資の援助」を除く各項目では「参加したことがある」との回答が10%未満となっている。また、これらの項目の中で、「参加したことがなく、今後は参加したくない」との回答の割合が高いのは「外国人のホームステイの受け入れ」(61.2%)、「海外での技術協力活動など」(60.1%)で6割超となっている(図表5-1)。

前回調査では「被災地域への義援金支援など」を除く各項目では「参加したことがある」との回答が10%未満であった。「参加したことがなく、今後は参加したくない」では「外国人のホームステイの受け入れ」、「海外での技術協力活動など」、「海外旅行や留学などでのホームステイ・交流など」で6割超であった。

図表 5-1 過去の国際交流等の経験内容と今後の活動意向(全体)

「あなたは、以下の国際交流・協力活動にこれまで参加したことがありますか。

また、今後参加したいと思いますか。」(SA)



(2) 在住外国人と相互理解を深めるための施策(問 11)

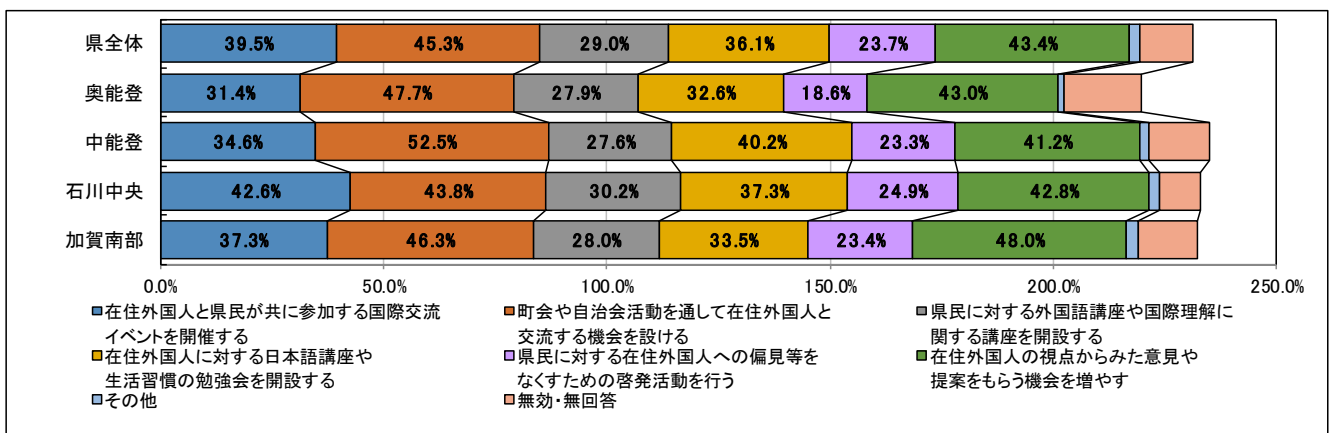
県全体で見ると、在住外国人と県民の相互理解をより深めるための施策としては、「町会や自治会活動を通して在住外国人と交流する機会を設ける」(45.3%)が最も高く、次いで「在住外国人の視点からみた意見や提案をもらう機会を増やす」、(43.4%)、「在住外国人と県民が共に参加する国際交流イベントを開催する」(39.5%)となっている。前回調査でも同様の結果であった。

地域別で見ると、中能登で「町会や自治会活動を通して在住外国人と交流する機会を設ける」が52.5%と他地域より高くなっている(図表5-2)。

年齢・性別で見ると、20代男性・20代女性で「在住外国人と県民が共に参加する国際交流イベントを開催する」が他の世代と比較し、高くなっている(図表5-3)。

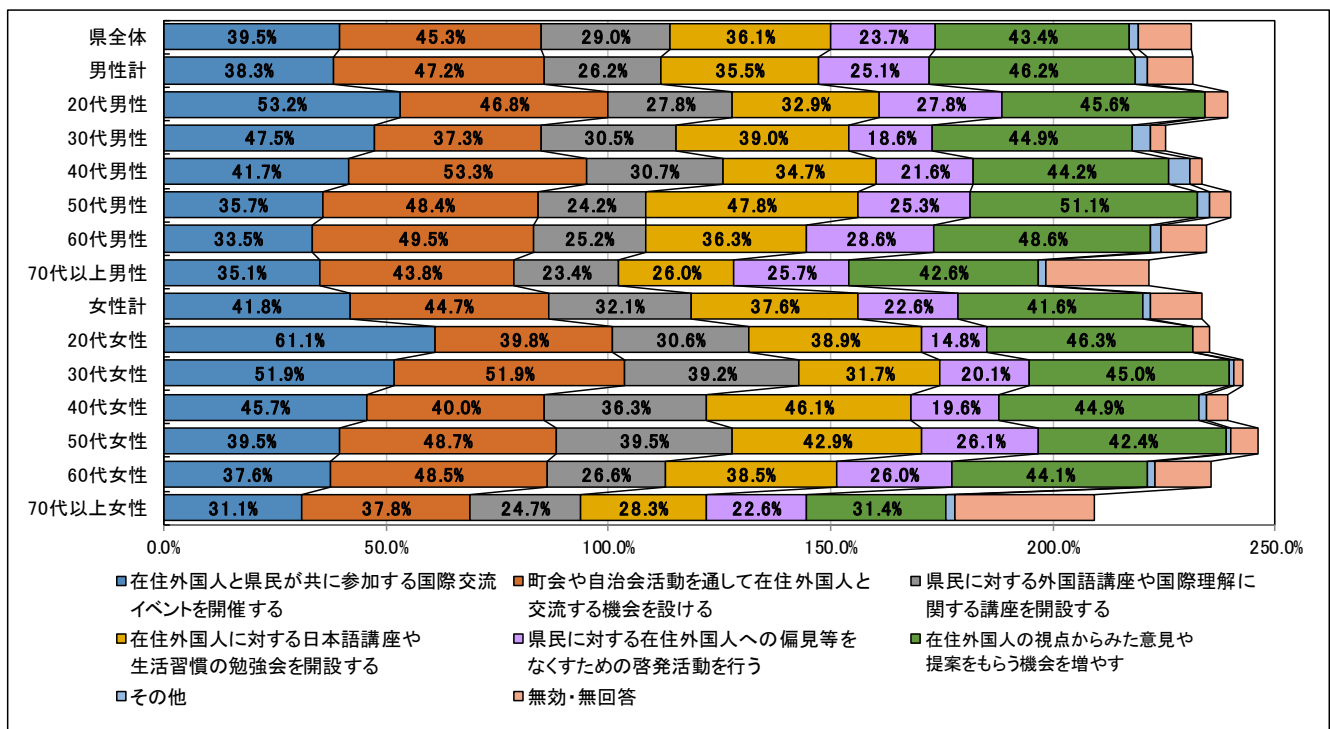
図表 5-2 在住外国人と相互理解を深めるための施策(地域別)

「在住外国人と県民の相互理解を深めるためには、どのようなことを行うべきだと思いますか。」(3A)



図表 5-3 在住外国人と相互理解を深めるための施策(年齢・性別)

「在住外国人と県民の相互理解を深めるためには、どのようなことを行うべきだと思いますか。」(3A)



6.雇用や産業

(1) 仕事の継続意向(問 12)

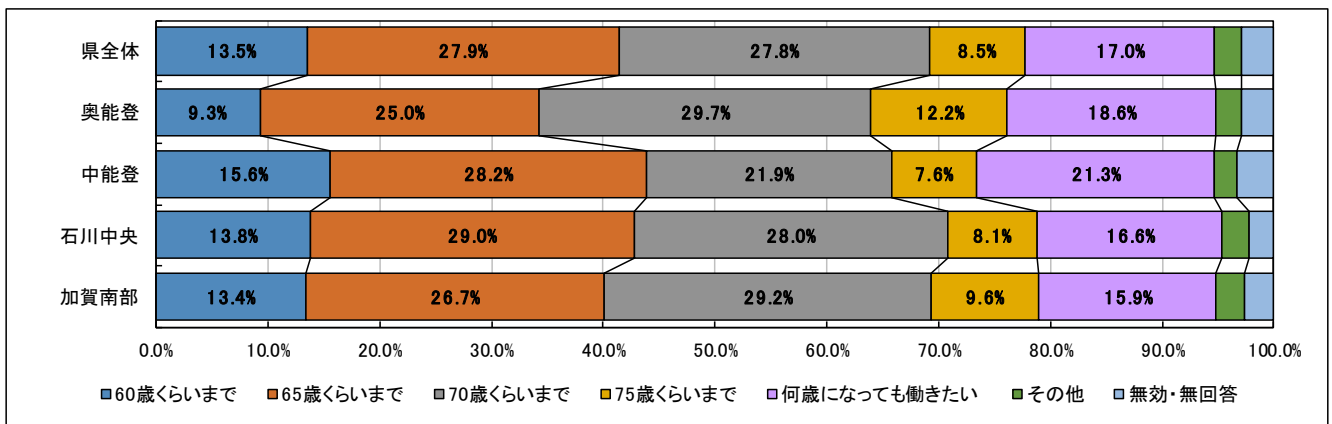
県全体で見ると、健康であったならば、「65歳くらいまで仕事をしたい」(27.9%)が最も高く、「70歳くらいまで」(27.8%)と両者を合わせると過半数を超えている。また、「何歳になっても働きたい」という回答も17.0%あり、本県において、働くことに対する県民の意欲は高いものと考えられる。なお、前回調査も同様の結果であった。

地域別で見ると、中能登で「何歳になっても働きたい」の割合が21.3%と高くなっている(図表 6-1)。

年齢・性別で見ると、男女とも20代、30代では、「60歳くらいまで」あるいは「65歳くらいまで」働きたいとの割合が他の世代より高くなっている。60代では、男女とも「70歳くらいまで」とする割合が最も高い(図表 6-2)。

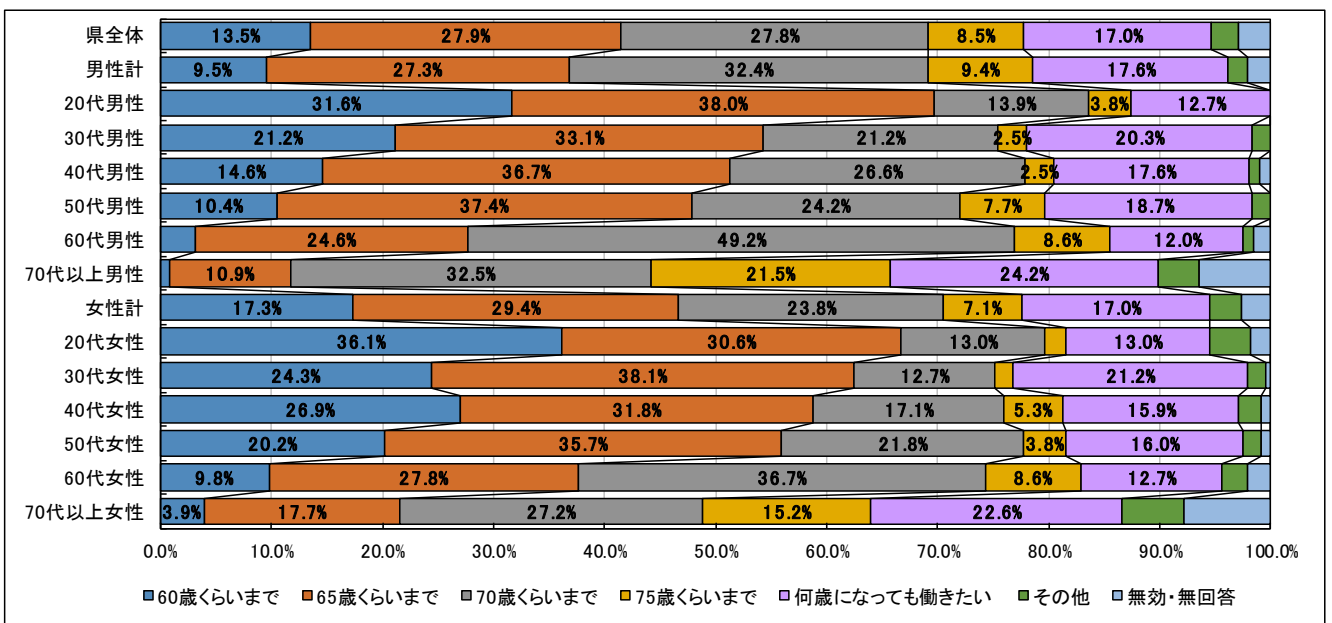
図表 6-1 仕事の継続意向(地域別)

「あなたは健康であったならば、何歳くらいまで仕事をしたいと思いますか。」(SA)



図表 6-2 仕事の継続意向(年齢・性別)

「あなたは健康であったならば、何歳くらいまで仕事をしたいと思いますか。」(SA)



(2) 仕事を選ぶ際に重視する条件(60代以降に仕事を持った場合)(問13)

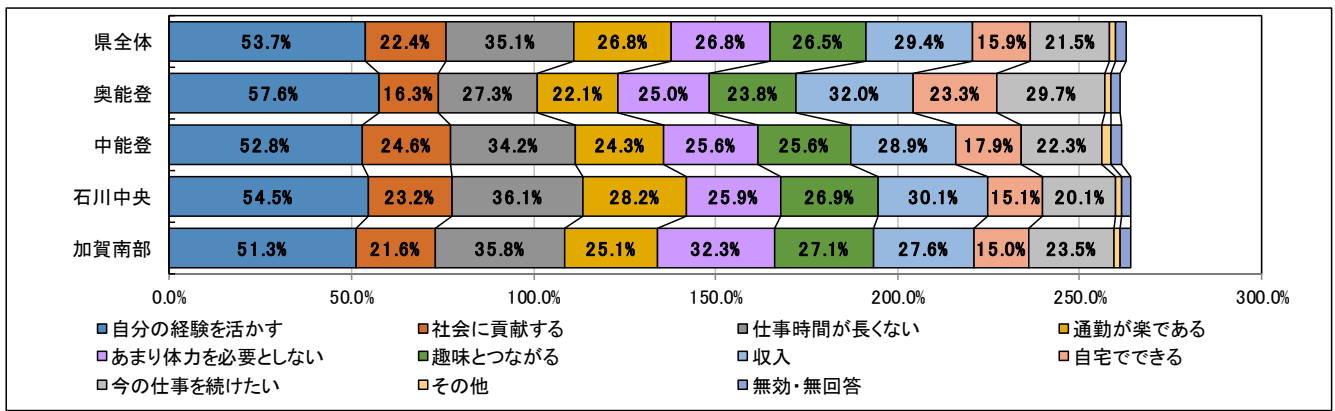
県全体で見ると、60代以降に仕事を持つ際の選択基準としては、「自分の経験を活かす」(53.7%)が最も高く、次いで、「仕事時間が長くない」(35.1%)、「収入」(29.4%)、「通勤が楽である」(26.8%)、「あまり体力を必要としない」(26.8%)となっている。前回調査でも「自分の経験を活かす」が最も高く、次いで「仕事時間が長くない」、「趣味とつながる」、「通勤が楽である」、「あまり体力を必要としない」であった。

地域別で見ると、中能登、石川中央、加賀南部では奥能登より「仕事時間が長くない」が高くなっている(図表6-3)。

年齢・性別で見ると、男女ともに20代では、「趣味とつながる」(男性38.0%、女性40.7%)の割合が他の世代と比べて高くなっている。男性では女性と比較して「自分の経験を活かす」の割合が高くなっている。女性は、男性と比べ「仕事時間が長くない」の割合が高くなっている(図表6-4)。

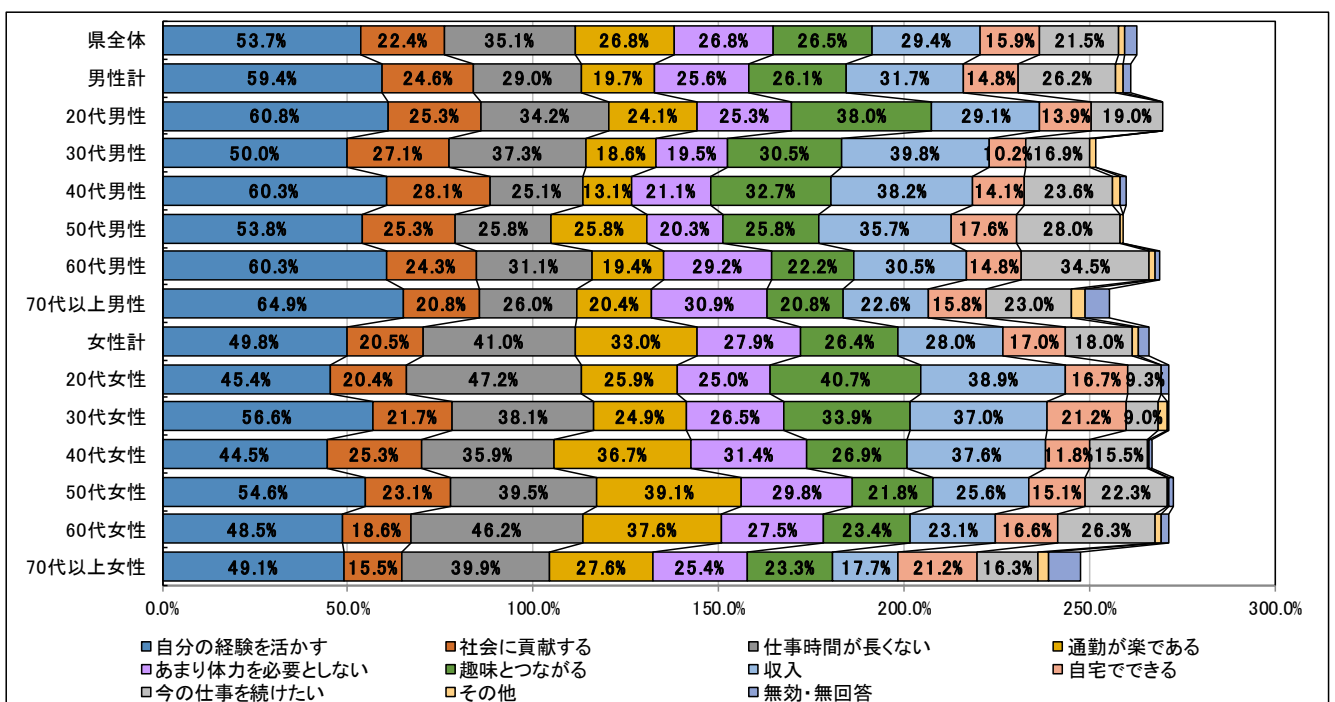
図表 6-3 仕事を選ぶ際に重視する条件(60代以降に仕事を持った場合)(地域別)

「あなたは60代以降に仕事を持つとすれば、どのようなことがらを重視して選びますか。」(3A)



図表 6-4 仕事を選ぶ際に重視する条件(60代以降に仕事を持った場合)(年齢・性別)

「あなたは60代以降に仕事を持つとすれば、どのようなことがらを重視して選びますか。」(3A)



(3) 産業の担い手確保・育成に必要な施策(問 14)

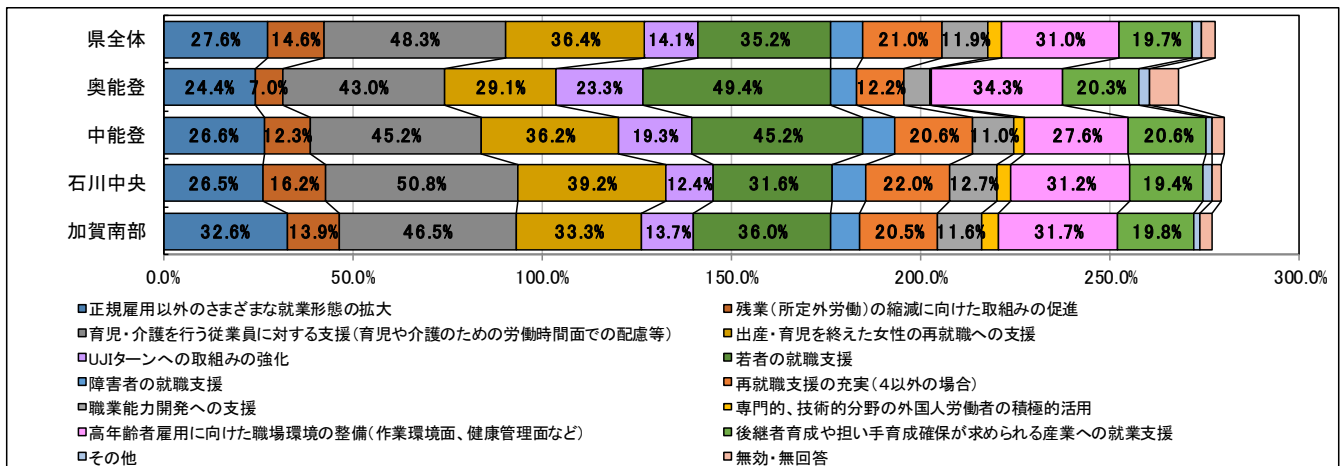
県全体で見ると、「育児・介護を行う従業員に対する支援」(48.3%)が最も高く、次いで「出産・育児を終えた女性の再就職への支援」(36.4%)、「若者の就職支援」(35.2%)や「高齢者雇用に向けた職場環境の整備(作業環境面、健康管理面など)」(31.0%)と前回と同様に回答にバラツキが見られる。

地域別で見ると、能登地域(奥能登、中能登)で「若者の就職支援」の割合が他地域と比べて、高いのが特徴と言える(図表 6-5)。

年齢・性別で見ると、「出産・育児を終えた女性の再就職への支援」の割合が男性と比較して女性で高くなっている。20代男性・女性ともに「残業(所定外労働)の縮減に向けた取組みの促進」が他の世代と比較して高くなっている(図表 6-6)。

図表 6-5 産業の担い手確保・育成に必要な施策(地域別)

「産業の担い手を確保・育成していくために、働く環境も含め、どのようなことに力が必要だと思いますか。」(3A)



図表 6-6 産業の担い手確保・育成に必要な施策(年齢・性別)

「産業の担い手を確保・育成していくために、働く環境も含め、どのようなことが必要だと思いますか。」(3A)



(4) 中心市街地が有する機能を維持するために必要な施策(問 15)

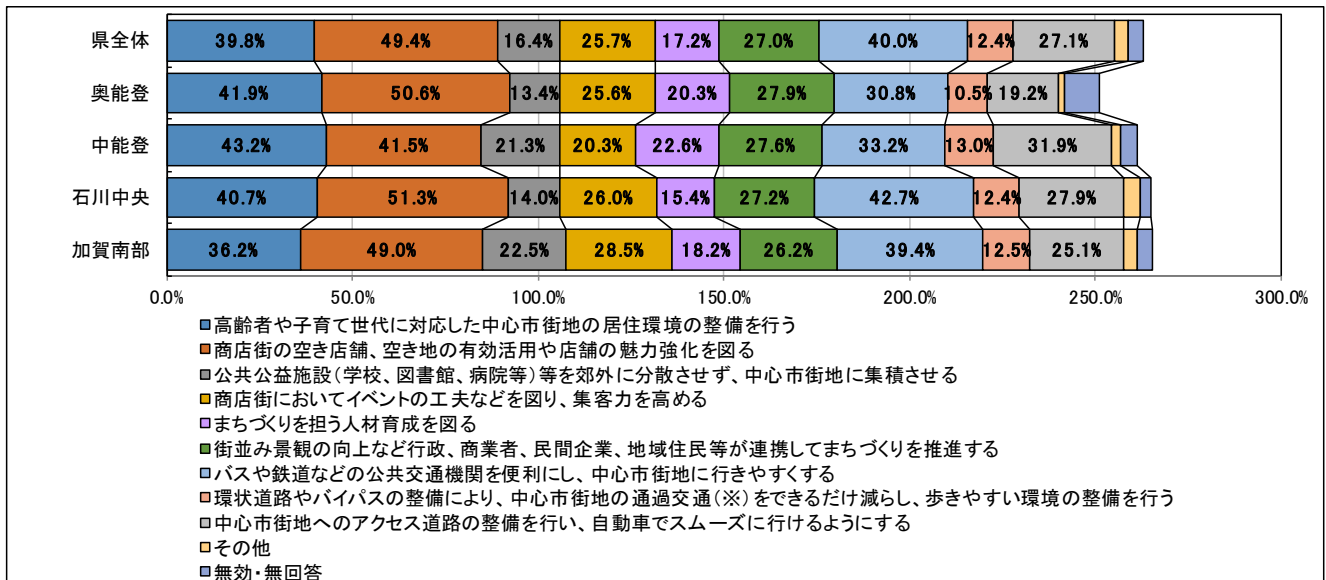
県全体で見ると、「商店街の空き店舗、空き地の有効活用や店舗の魅力強化を図る」(49.4%)が最も高く、次いで「バスや鉄道などの公共交通機関を便利にし、中心市街地に行きやすくする」(40.0%)、「高齢者や子育て世代に対応した中心市街地の居住環境の整備を行う」(39.8%)となっている。前回調査でも上位3項目が同じ結果であった。

地域別で見ると、中能登で「中心市街地へのアクセス道路の整備を行い、自動車でスムーズに行けるようにする」(31.9%)、石川中央で「バスや鉄道などの公共交通機関を便利にし、中心市街地に行きやすくする」(42.7%)が他地域に比べ、高くなっている(図表 6-7)。

年齢・性別で見ると、20代男性では、「中心市街地へのアクセス道路の整備を行い、自動車でスムーズに行けるようにする」、「バスや鉄道などの公共交通機関を便利にし、中心市街地に行きやすくする」の項目が高くなっている(図表 6-8)。

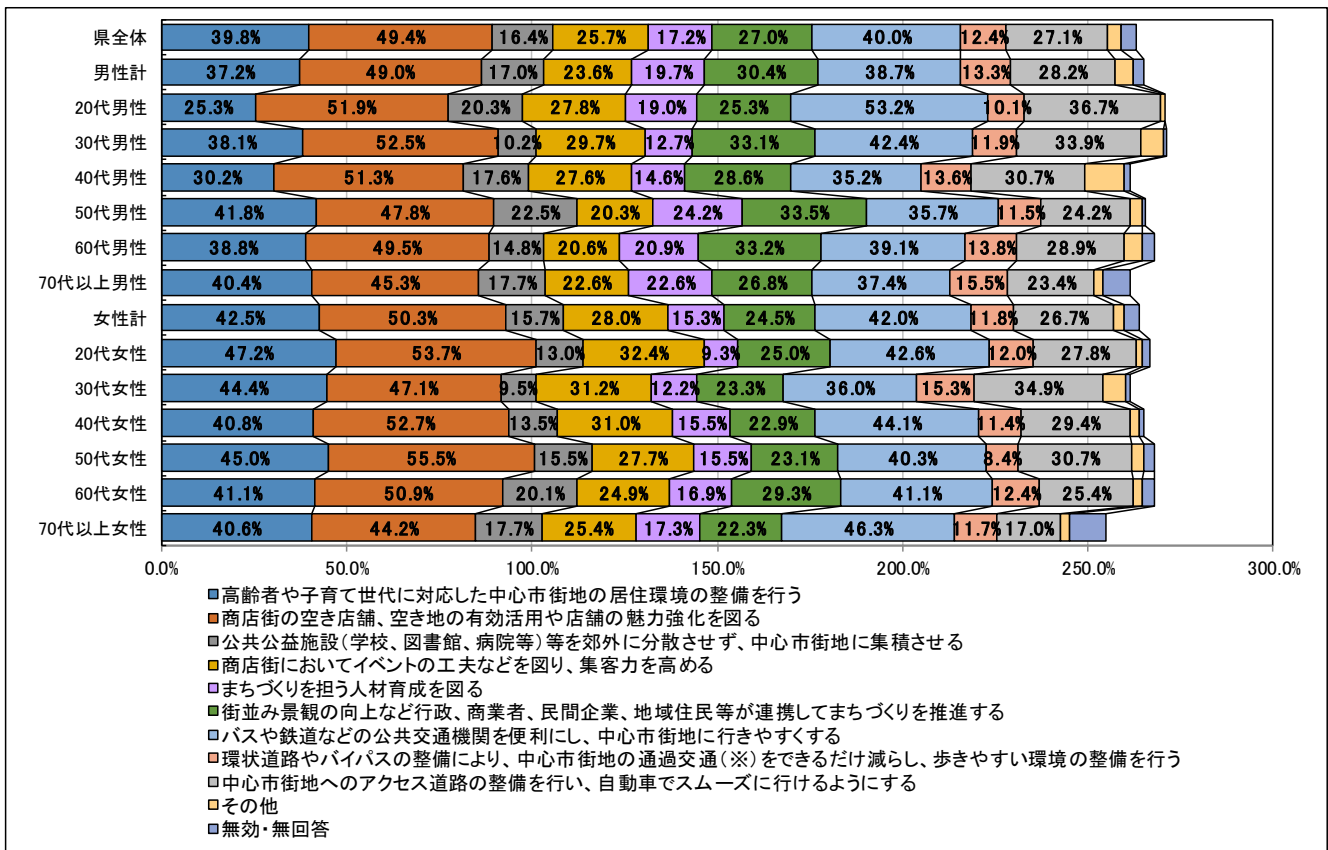
図表 6-7 中心市街地が有する機能を維持するために必要な施策(地域別)

「中心市街地が本来有する機能を維持するためには、どのようなことが必要だと思いますか。」(3A)



図表 6-8 中心市街地が有する機能を維持するために必要な施策（年齢・性別）

「中心市街地が本来有する機能を維持するためには、どのようなことが必要だと思いますか。」(3A)



(5) 農林水産業の活性化に必要な施策(問 16)

県全体で見ると、農林水産業を活性化するための施策としては「地産地消の推進」(61.5%)が最も高く、次いで「担い手の体質の強化、後継者の育成・確保」(45.8%)、「品質向上や生産の拡大、ブランド化の支援」(39.6%)となっている。前回調査では「地産地消の推進」が最も高く、次いで「品質向上や生産の拡大、ブランド化の支援」、「食育の推進」であった。

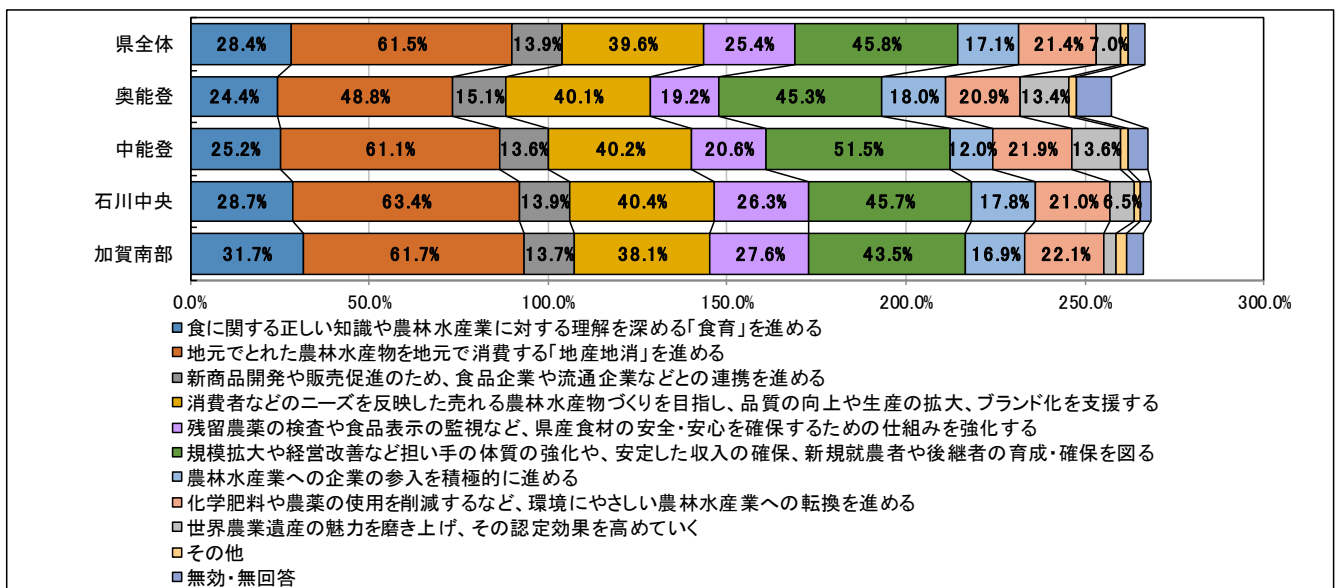
地域別で見ると、中能登で「規模拡大や経営改善など担い手の体質の強化や、安定した収入の確保、新規就農者や後継者の育成・確保を図る」(51.5%)、加賀南部で「食に関する正しい知識や農林水産業に対する理解を深める『食育』を進める」(31.7%)が他地域に比べ高くなっている(図表 6-9)。

年齢・性別で見ると、「化学肥料や農薬の使用を削減するなど、環境にやさしい農林水産業への転換を進める」が男性と比べ、全年代で女性の割合が高くなっている(図表 6-10)。

職業別で見ると、生産者(第一次産業従事者)において、「食に関する正しい知識や農林水産業に対する理解を深める『食育』を進める」や「消費者などのニーズを反映した売れる農林水産物づくりを目指し、品質の向上や生産の拡大、ブランド化を支援する」、「規模拡大や経営改善など担い手の体質の強化や、安定した収入の確保、後継者の育成・確保を図る」などが県全体に比べ特に高くなっている(図表 6-11)。

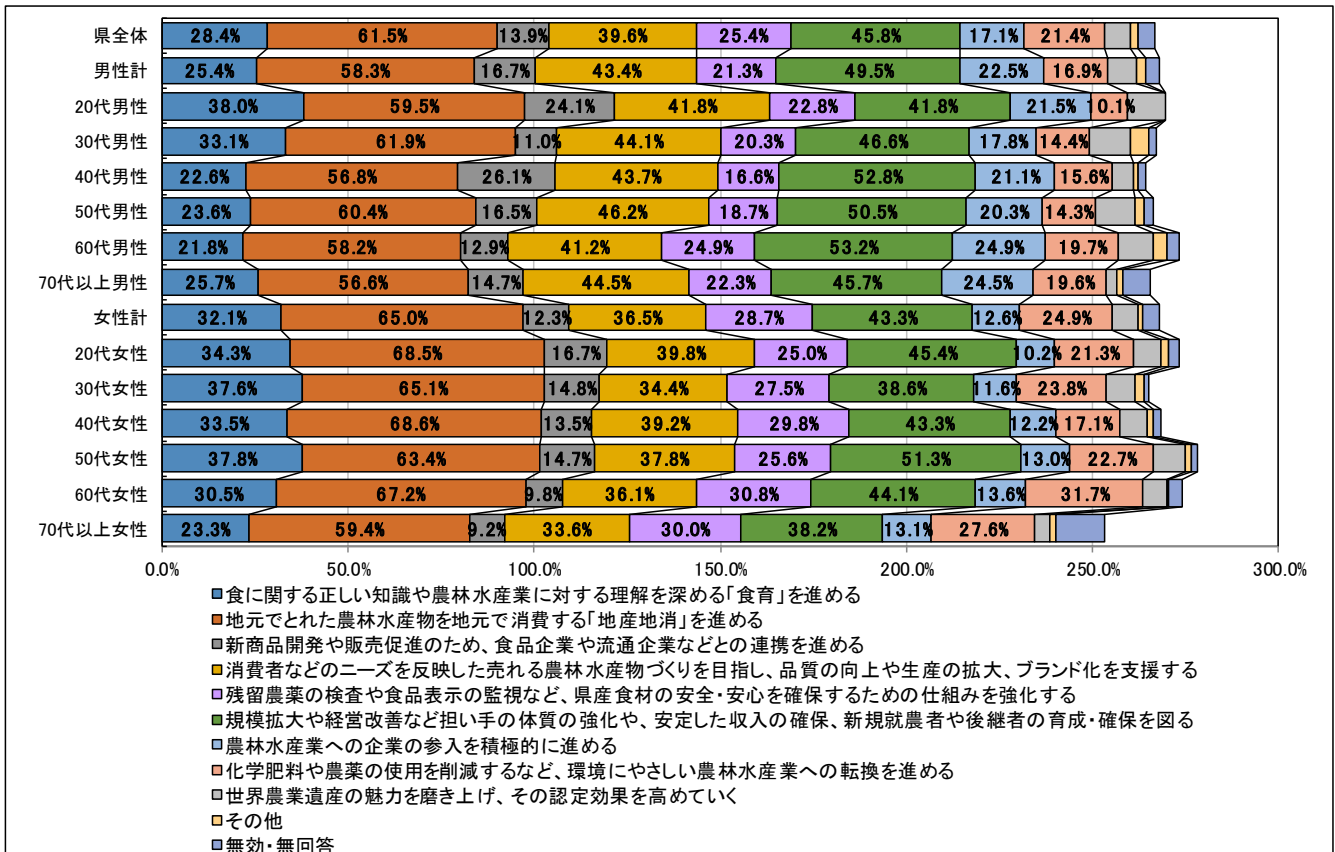
図表 6-9 農林水産業の活性化に必要な施策(地域別)

「農林水産業を魅力ある産業として活性化していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。」(3A)



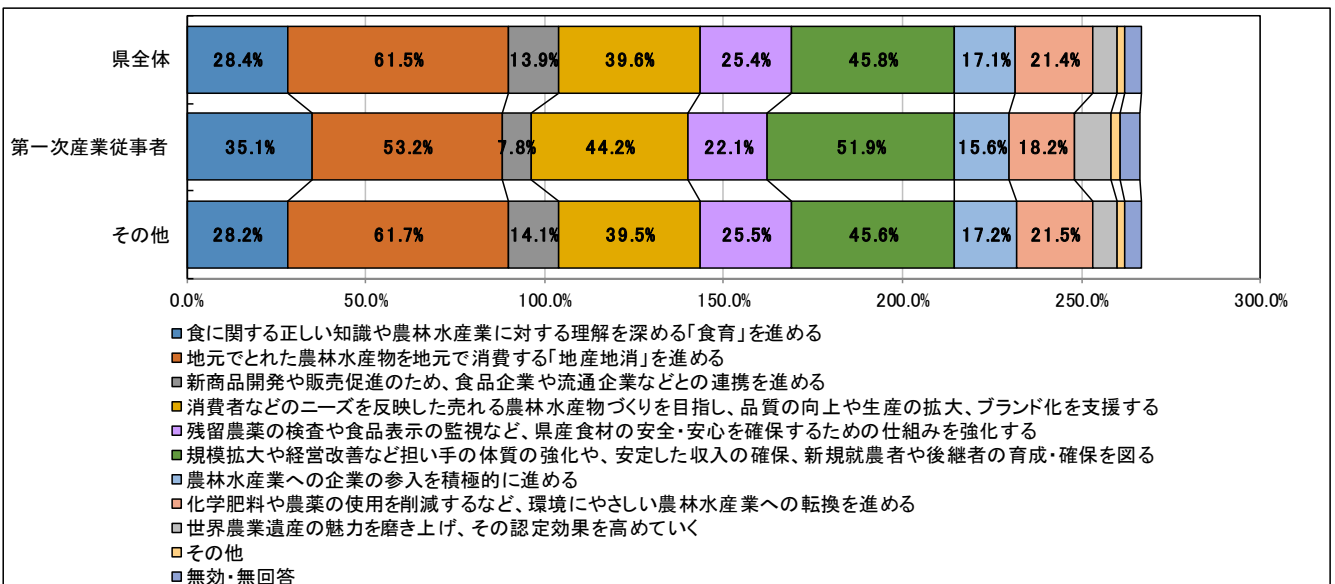
図表 6-10 農林水産業の活性化に必要な施策（年齢・性別）

「農林水産業を魅力ある産業として活性化していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。」(3A)



図表 6-11 農林水産業の活性化に必要な施策（職業別）

「農林水産業を魅力ある産業として活性化していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。」(3A)



7.循環型社会の形成・自然との共生

(1) 農地や森林の荒廃を防ぐための施策(問 17)

県全体で見ると、農地や森林の保全のための施策としては、「新規就農者や後継者を確保するため、地域の特産農作物の生産を拡大するなど、農業所得が増えるような経営づくりを支援する」(56.1%)が最も高く、次いで「農業分野への進出や、社会貢献のため農地や森林の整備を行おうとする企業の活動を支援する」(40.2%)となっている。前回調査でも同じ項目がトップ、次いで「農地や農業用水、森林などの管理を、地域全体で行う取組みの支援」、「都市の人々が、農作業や森林の整備を行うボランティア活動の推進」、「農業分野への進出や、社会貢献のため農地や森林の整備を行おうとする企業の活動を支援する」の順であった。

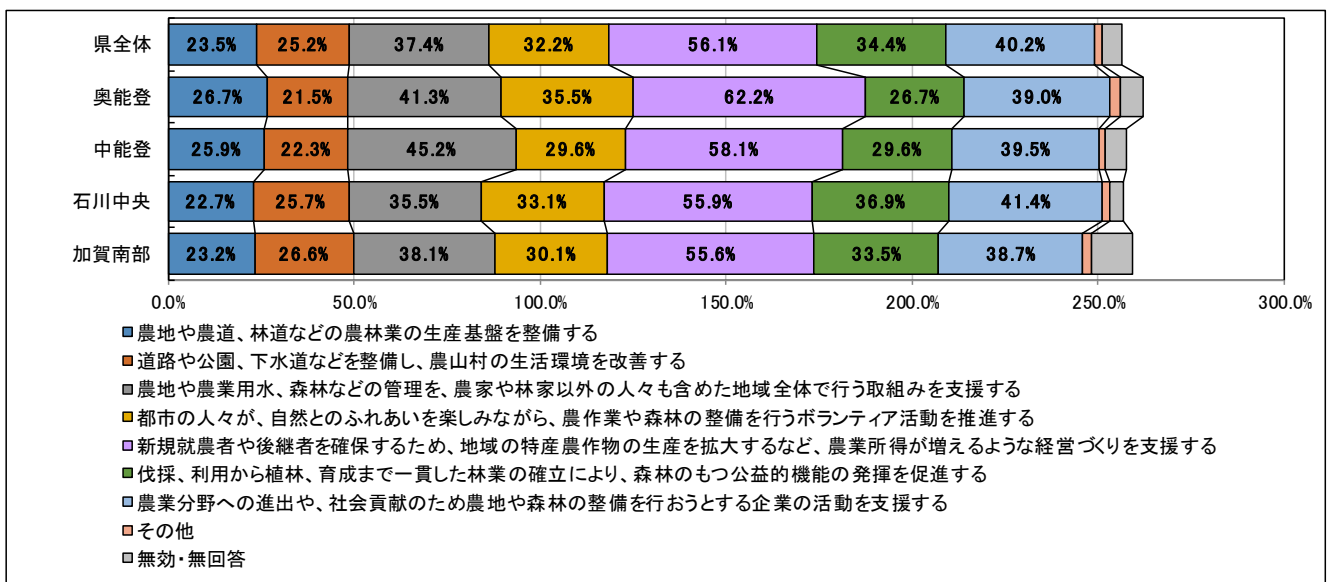
地域別で見ると、全ての地域で、「新規就農者や後継者を確保するため、地域の特産農作物の生産を拡大するなど、農業所得が増えるような経営づくりを支援する」が最も高くなっており、特に奥能登(62.2%)ではその割合が高くなっている。能登地域(奥能登、中能登)では、「道路や公園、下水道などを整備し、農山村の生活環境を改善する」について、他の地域より低くなっている(図表 7-1)。

年齢・性別で見ると、「道路や公園、下水道などを整備し、農山村の生活環境を改善する」は20代女性と40代女性で他と比較して高くなっている(図表 7-2)。

職業別で見ると、生産者(第一次産業従事者)において、「農地や農道、林道などの農林業の生産基盤を整備する」や「農地や農業用水、森林などの管理を、農家や林家以外の人々も含めた地域全体で行う取組みを支援する」、「新規就農者や後継者を確保するため、地域の特産農作物の生産を拡大するなど、農業所得が増えるような経営づくりを支援する」などが全体に比べ特に高くなっている(図表 7-3)。

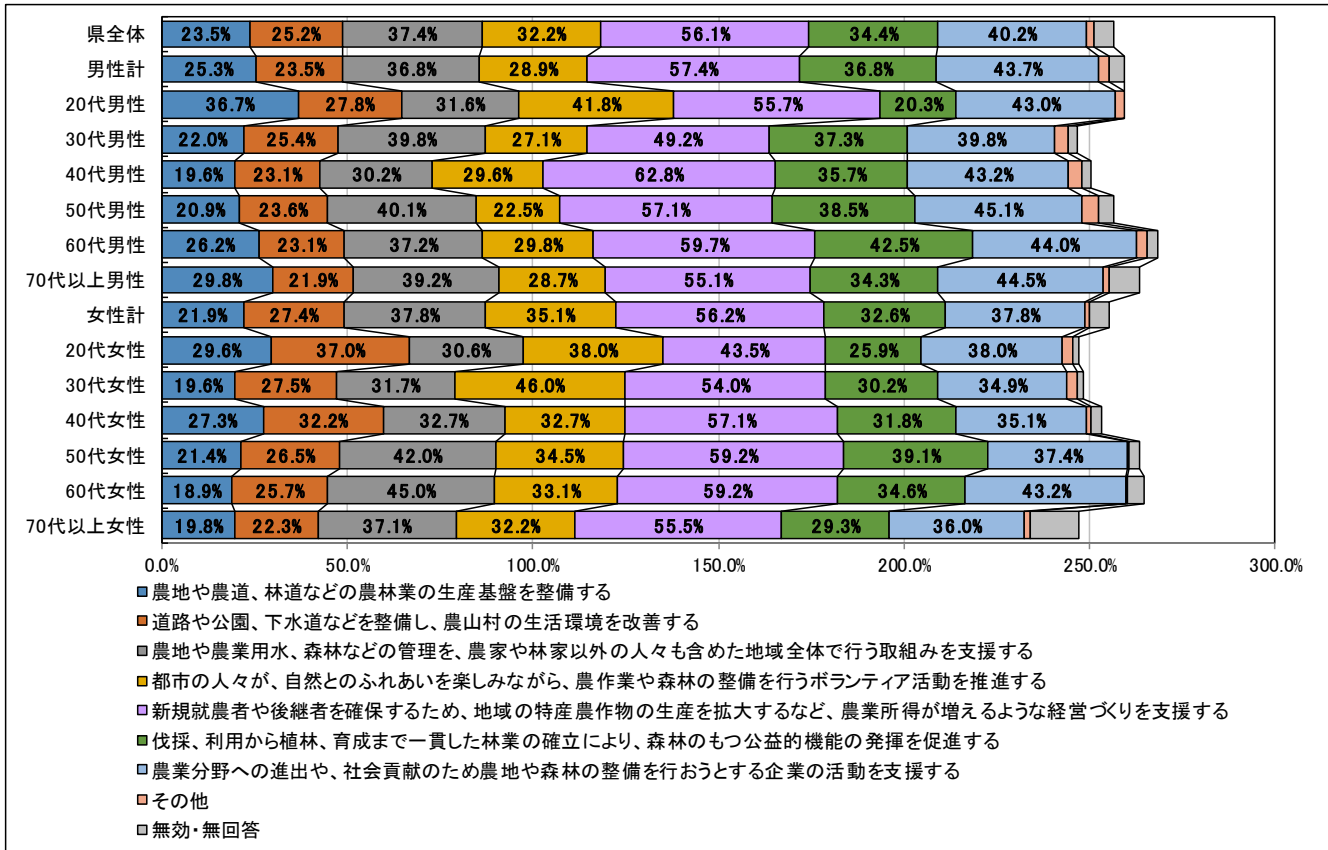
図表 7-1 農地や森林の荒廃を防ぐための施策(地域別)

「近年問題となっている耕作が放棄された農地の増加や森林の荒廃を防ぐため、具体的にどのような対応が必要だと思いますか。」(3A)



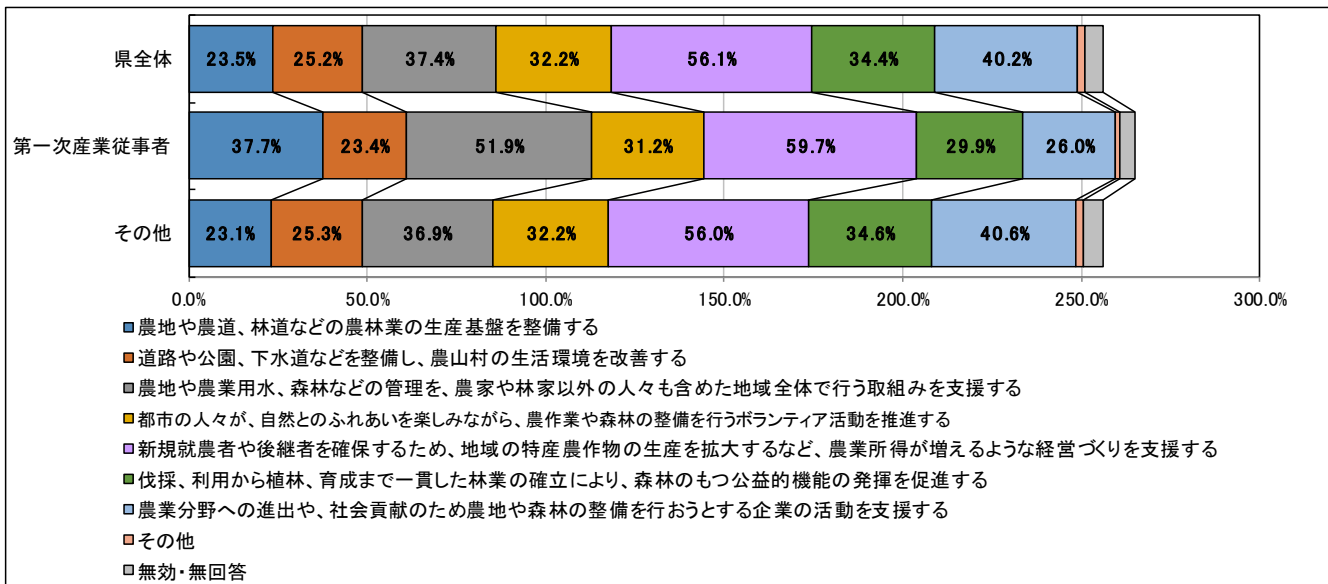
図表 7-2 農地や森林の荒廃を防ぐための施策（年齢・性別）

「近年問題となっている耕作が放棄された農地の増加や森林の荒廃を防ぐため、具体的にどのような対応が必要だと思いますか。」(3A)



図表 7-3 農地や森林の荒廃を防ぐための施策（職業別）

「近年問題となっている耕作が放棄された農地の増加や森林の荒廃を防ぐため、具体的にどのような対応が必要だと思いますか。」(3A)



(2) 自然と人とが共生できる環境づくりのための施策(問 18)

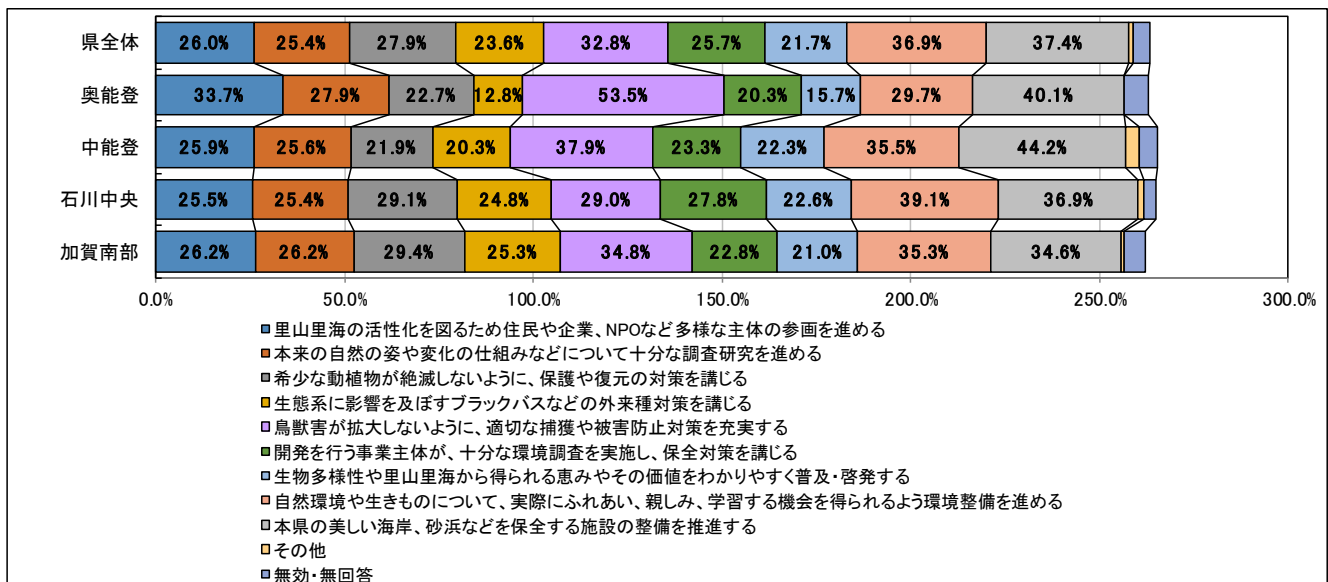
県全体で見ると、自然と人とが共生できる環境づくりの施策としては、「本県の美しい海岸、砂浜などを保全する施設の整備を推進する」(37.4%)が最も高く、次いで「自然環境や生きものについて、実際にふれあい、親しみ、学習する機会を得られるよう環境整備を進める」(36.9%)、「鳥獣害が拡大しないように、適切な捕獲や被害防止対策を充実する」(32.8%)となっている。前回調査では「里地や里山の荒廃に対する保全・管理に向けた支援策」が最も高く、次いで「自然に親しむ機会の充実」であった。

地域別で見ると、「里山里海の活性化を図るため住民や企業、NPO など多様な主体の参画を進める」は、特に奥能登で割合が高くなっている(図表 7-4)。

年齢・性別で見ると、20代男性・20代女性では「希少な動植物が絶滅しないように、保護や復元の対策を講じる」の割合が他の世代と比較して高くなっている。60代・70代男性・女性では「鳥獣害が拡大しないように、適切な捕獲や被害防止対策を充実する」が他の世代と比較して高くなっている(図表 7-5)。

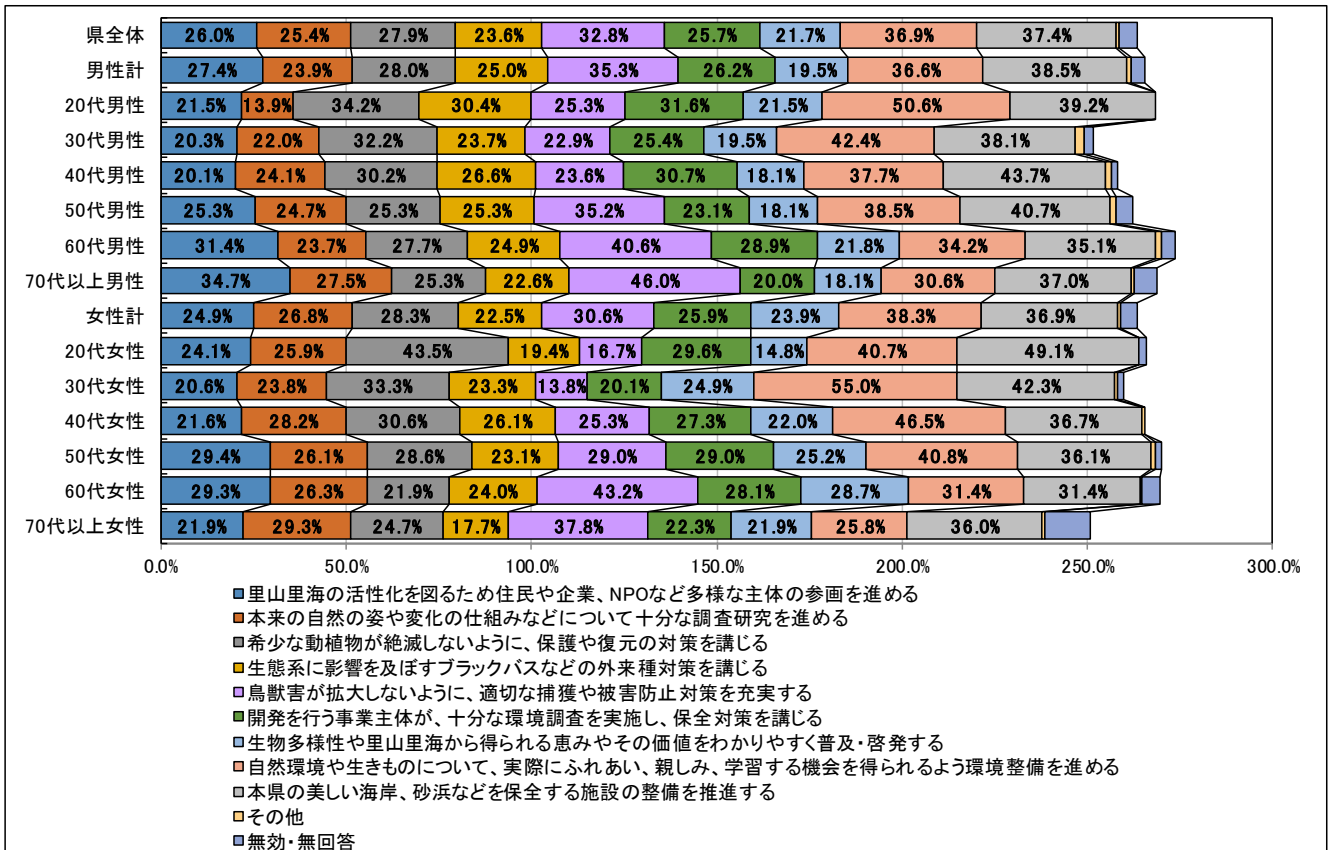
図表 7-4 自然と人とが共生できる環境づくりのための施策(地域別)

「自然と人とが共生できる環境づくりを進めていくうえで、どのような方法がよいと思いますか。」(3A)



図表 7-5 自然と人とが共生できる環境づくりのための施策（年齢・性別）

「自然と人とが共生できる環境づくりを進めていくうえで、どのような方法がよいと思いますか。」(3A)



(3) 循環型社会の形成に必要な施策(問 19)

県全体で見ると、環境にやさしい社会づくりのための施策としては、「家庭での省エネ・節電、省資源活動を推進する(例、クールシェアの実践、エアコンの設定温度など身近なことから始められるエコ活動など)」

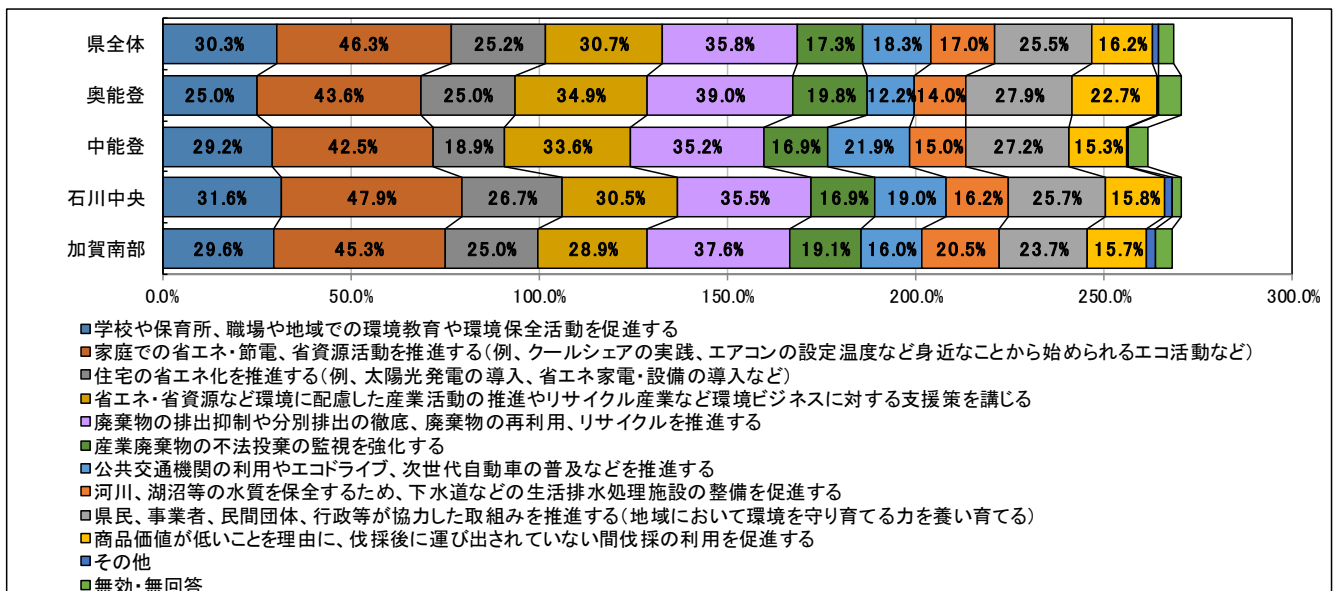
(46.3%) が最も高く、次いで「廃棄物の排出抑制や分別排出の徹底、廃棄物の再利用、リサイクルを推進する」(35.8%)、「省エネ・省資源など環境に配慮した産業活動の推進やリサイクル産業など環境ビジネスに対する支援策を講じる」(30.7%) となっている。前回調査では「学校や保育所、職場や地域での環境教育・学習の充実」が最も高く、次いで「家庭での省エネ、省資源活動の推進」、「廃棄物の排出抑制や分別排出の徹底、再利用、リサイクルの推進」であった。

地域別で見ると、「商品価値が低いことを理由に、伐採後に運び出されていない間伐材の利用を促進する」が奥能登で唯一 20% 台となっている。「住宅の省エネ化を推進する(例、太陽光発電の導入、省エネ家電・設備の導入など)」が中能登で唯一 10% 台となっている(図表 7-6)。

年齢・性別で見ると、20代と30代女性で「住宅の省エネ化を推進する(例、太陽光発電の導入、省エネ家電・設備の導入)」の項目が他の世代と比較して高くなっている(図表 7-7)。

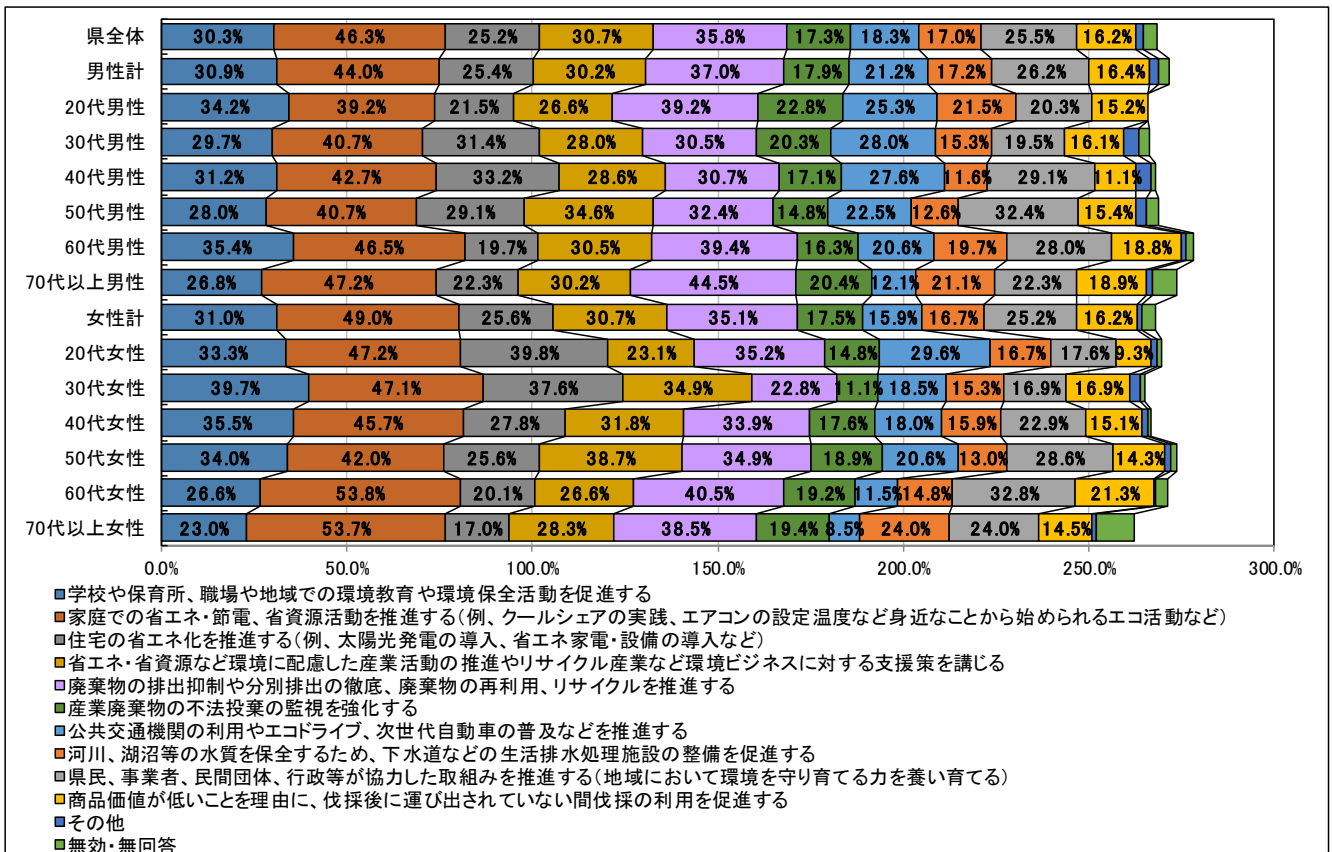
図表 7-6 循環型社会の形成に必要な施策(地域別)

「環境にやさしい社会づくりを目指すうえで、どのような対策が必要だと思いますか。」(3A)



図表 7-7 循環型社会の形成に必要な施策（年齢・性別）

「環境にやさしい社会づくりを目指すうえで、どのような対策が必要だと思いますか。」(3A)



8.安全・安心

(1) 災害に強い県をつくるために必要な施策(問 20)

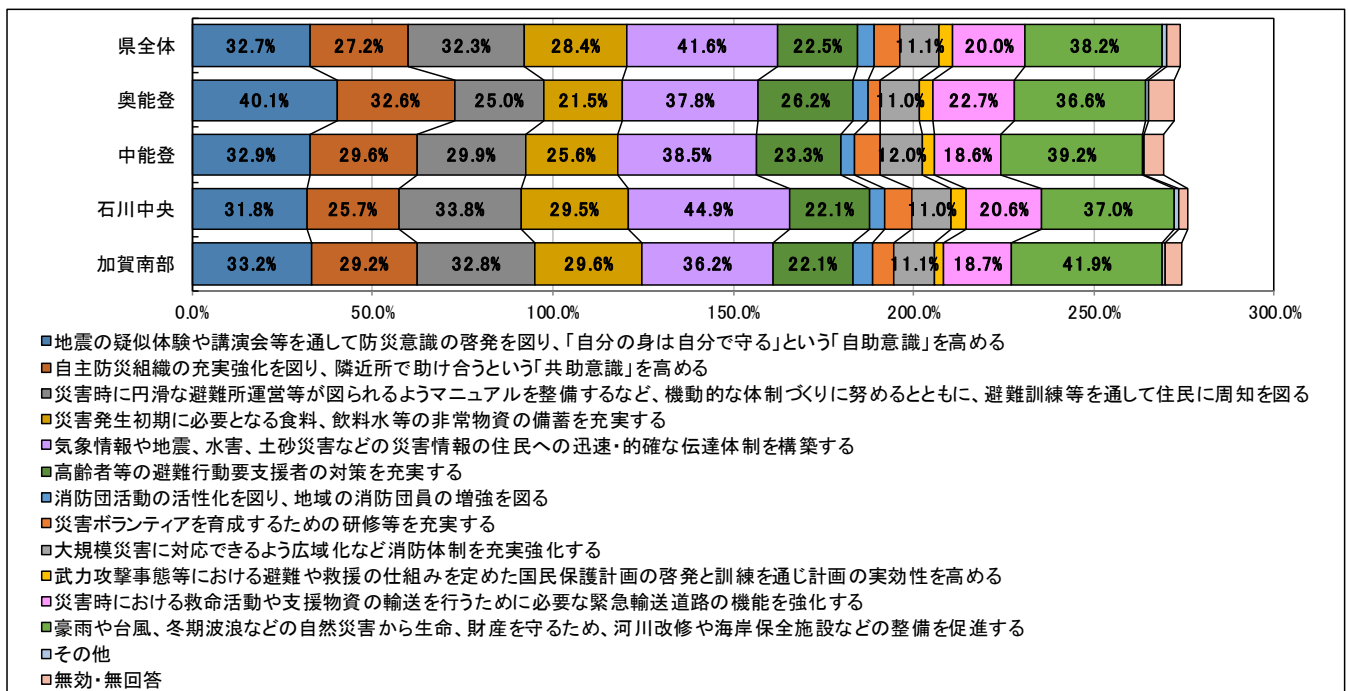
県全体で見ると、災害等への対応策としては、「気象情報や地震、水害、土砂災害などの災害情報の住民への迅速・的確な伝達体制を構築する」(41.6%)が最も高く、次いで、「豪雨や台風、冬期波浪などの自然災害から生命、財産を守るため、河川改修や海岸保全施設などの整備を促進する」(38.2%)、「地震の疑似体験や講演会等を通して防災意識の啓発を図り、『自分の身は自分で守る』という『自助意識』を高める」(32.7%)の順となっている。

地域別で見ると、奥能登では、他地域より「地震の疑似体験や講演会等を通して防災意識の啓発を図り、『自分の身は自分で守る』という『自助意識』を高める」(40.1%)の割合が高く、石川中央では「気象情報や地震、水害、土砂災害などの災害情報の住民への迅速・的確な伝達体制を構築する」(44.9%)の割合が他地域より高くなっている(図表 8-1)。

年齢・性別で見ると、20代女性では「災害時に円滑な避難所運営等が図られるようマニュアルを整備するなど、機動的な体制づくりに努めるとともに、避難訓練等を通して住民に周知を図る」が45.4%と他の世代と比較して高くなっている(図表 8-2)。

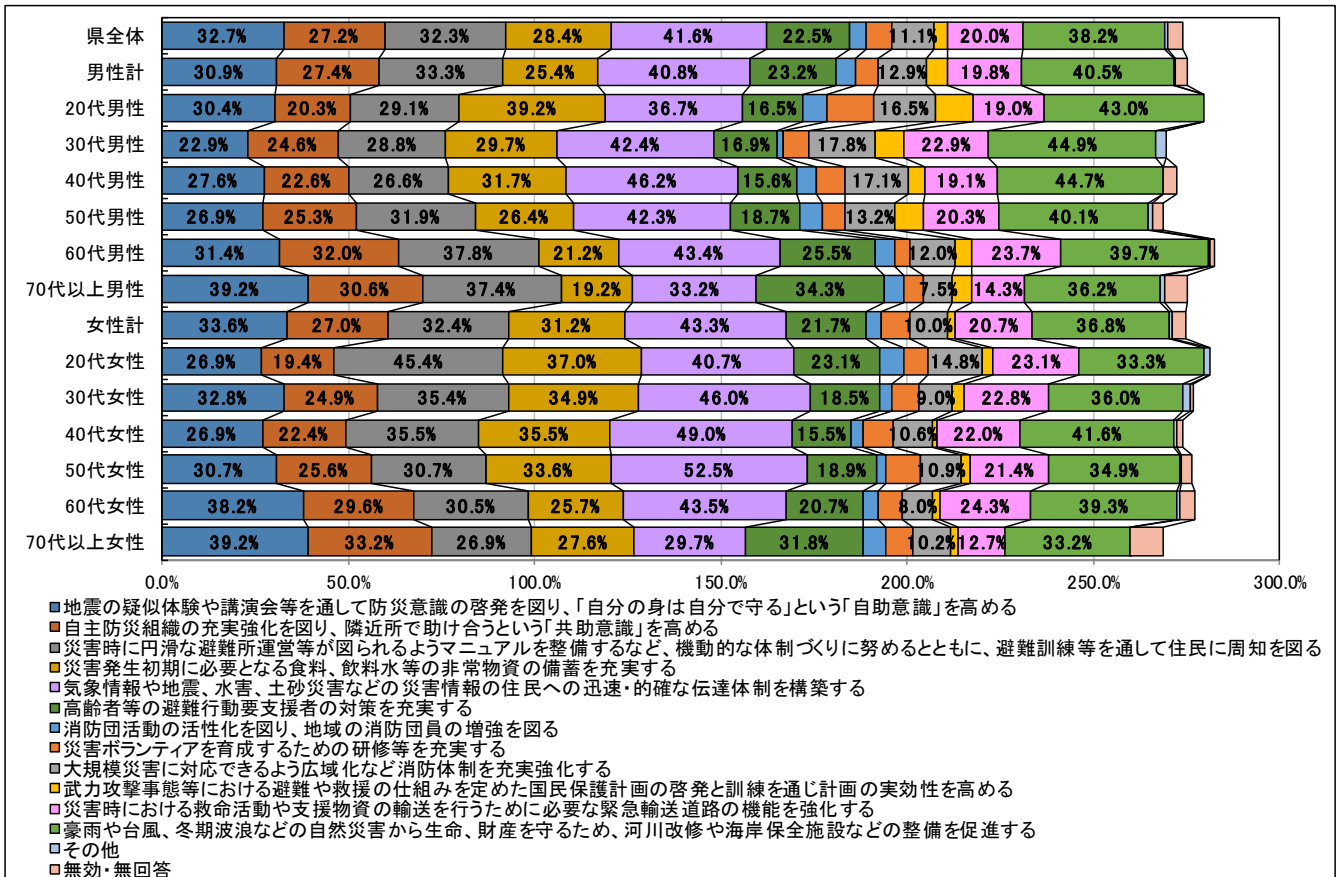
図表 8-1 災害に強い県をつくるために必要な施策(地域別)

「災害から生命、身体、財産を守るため、特に力を入れてほしい対策はどのようなことですか。」(3A)



図表 8-2 災害に強い県をつくるために必要な施策（年齢・性別）

「災害から生命、身体、財産を守るため、特に力を入れてほしい対策はどのようなことですか。」(3A)



(2) 犯罪被害から子どもを守るために必要な施策(問 21)

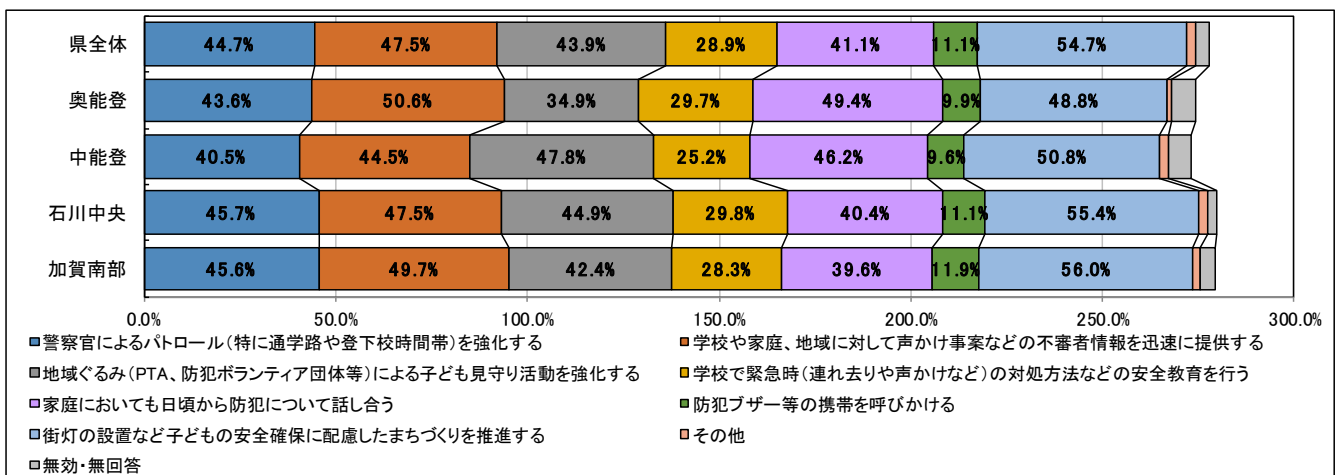
県全体で見ると、犯罪被害から子どもを守るための施策としては、「街灯の設置など子どもの安全確保に配慮したまちづくりを推進する」(54.7%)の割合が最も高く、次いで「学校や家庭、地域に対して声かけ事案などの不審者情報を迅速に提供する」(47.5%)となっている。

地域別で見ると、「学校や家庭、地域に対して声かけ事案などの不審者情報を迅速に提供する」が奥能登で50.6%と最も高くなっている(図表 8-3)。

年齢・性別で見ると、20代・30代の男女で「警察官によるパトロール(特に通学路や登下校時間帯)を強化する」が他の世代と比較して、高くなっている。60代女性で「学校や家庭、地域に対して声かけ事案などの不審者情報を迅速に提供する」が高くなっている(図表 8-4)。

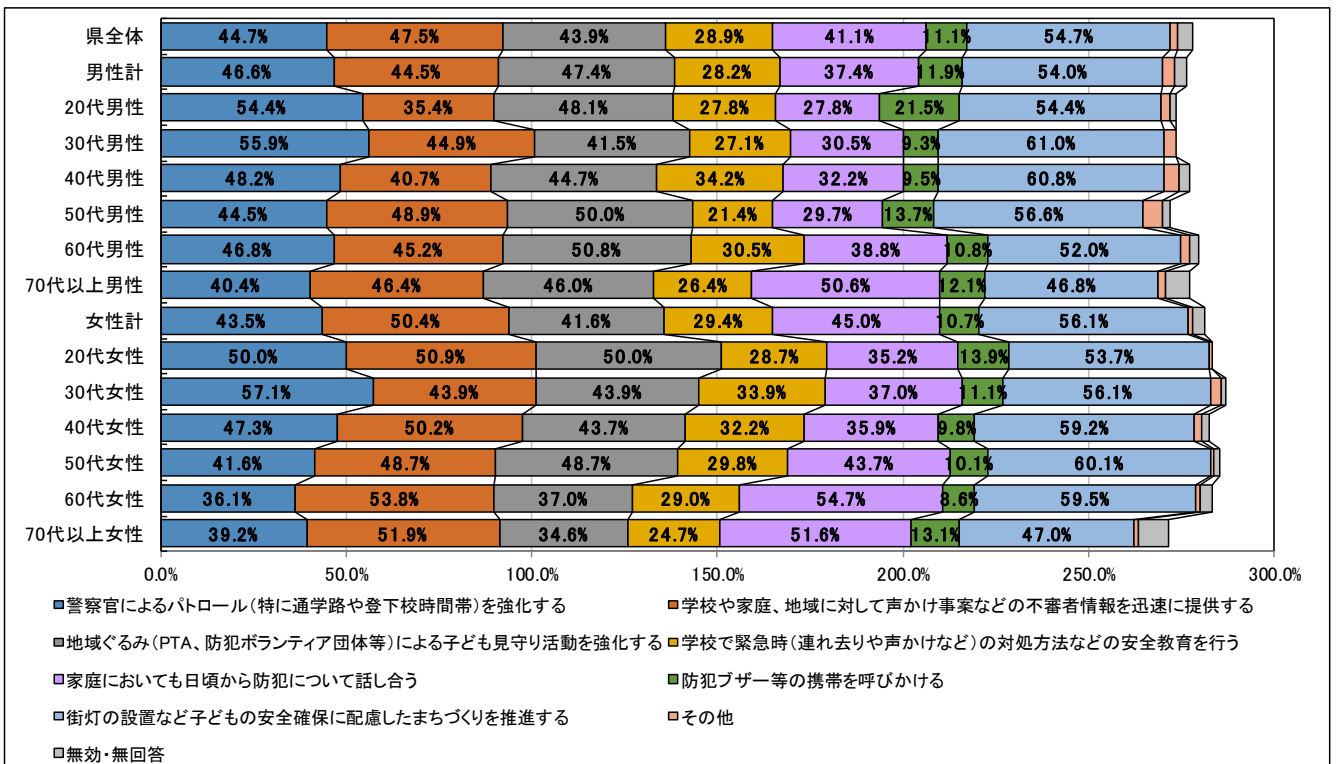
図表 8-3 犯罪被害から子どもを守るために必要な施策(地域別)

「犯罪被害から子どもを守るためにどのような取組みが必要だと思いますか。」(3A)



図表 8-4 犯罪被害から子どもを守るために必要な施策(年齢・性別)

「犯罪被害から子どもを守るためにどのような取組みが必要だと思いますか。」(3A)



9.安全・安心

(1) 高齢社会に必要な施策(サービスについて)(問 22)

高齢社会の到来を迎え、具体的な施策展開の参考とするため、「必要なサービス」と「高齢者の健康・生きがいづくり」について、調査した結果は以下のとおりである。

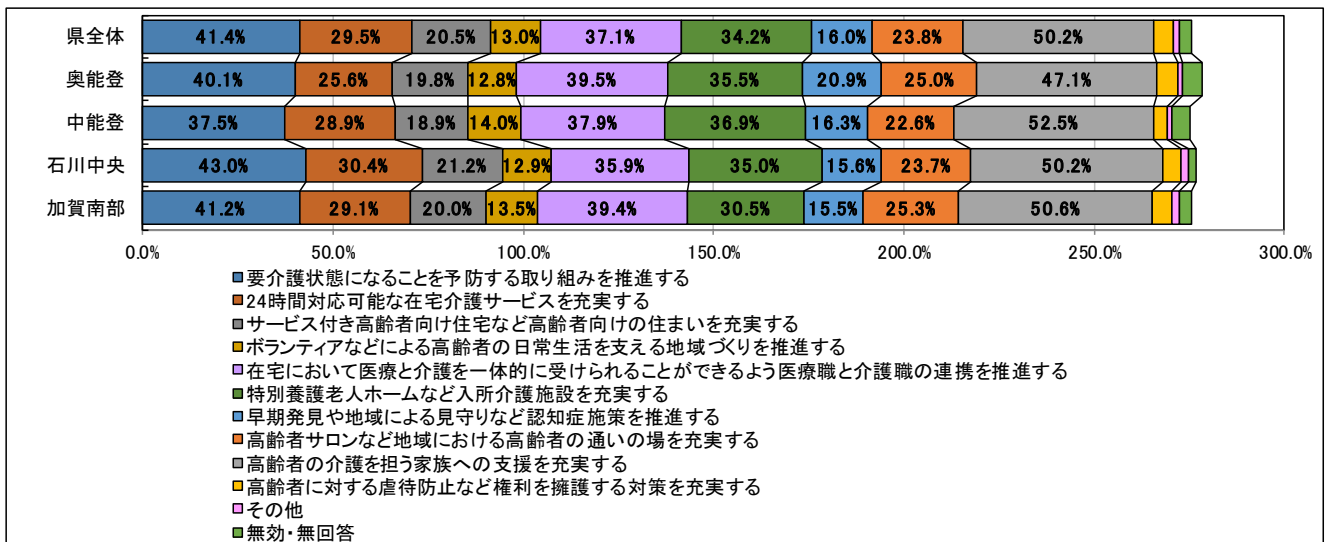
【サービスについて】

県全体で見ると、サービス面で必要な対策として、「高齢者の介護を担う家族への支援を充実する」(50.2%)が最も高くなっている。次いで、「要介護状態になることを予防する取り組みを推進する」(41.4%)となっている。前回調査では「高齢者の介護を担う家族への支援」が最も高く、次いで「入所介護施設の充実」、「在宅支援サービスの充実」、「高齢者を地域で世話する地域づくりの推進」であった。

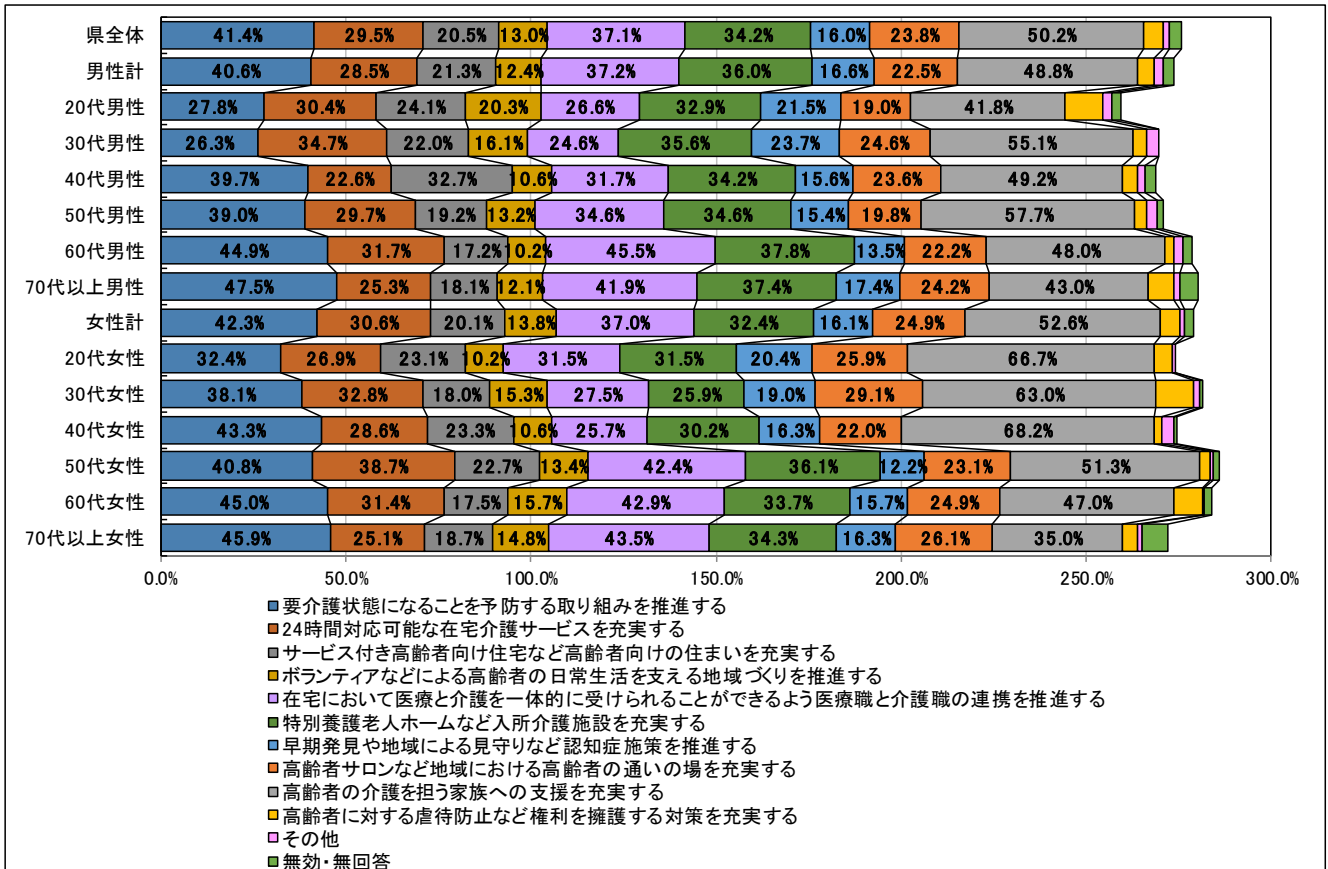
地域別で見ると、大きな差は見られない(図表 9-1)。

年齢・性別で見ると、大きな差は見られないが、「高齢者の介護を担う家族への支援を充実する」では20～40代女性と同世代の男性との間に若干の差が見られる(図表 9-2)。

図表 9-1 高齢社会に必要な施策(サービスについて)(地域別)
「高齢社会の到来を迎え、どのようなサービスが必要だと思いますか。」(3A)



図表 9-2 高齢社会に必要な施策(サービスについて) (年齢・性別)
 「高齢社会の到来を迎え、どのようなサービスが必要だと思いますか。」(3A)



(2) 高齢社会に必要な施策(健康・生きがいづくりについて)(問 22)

【健康・生きがいづくりについて】

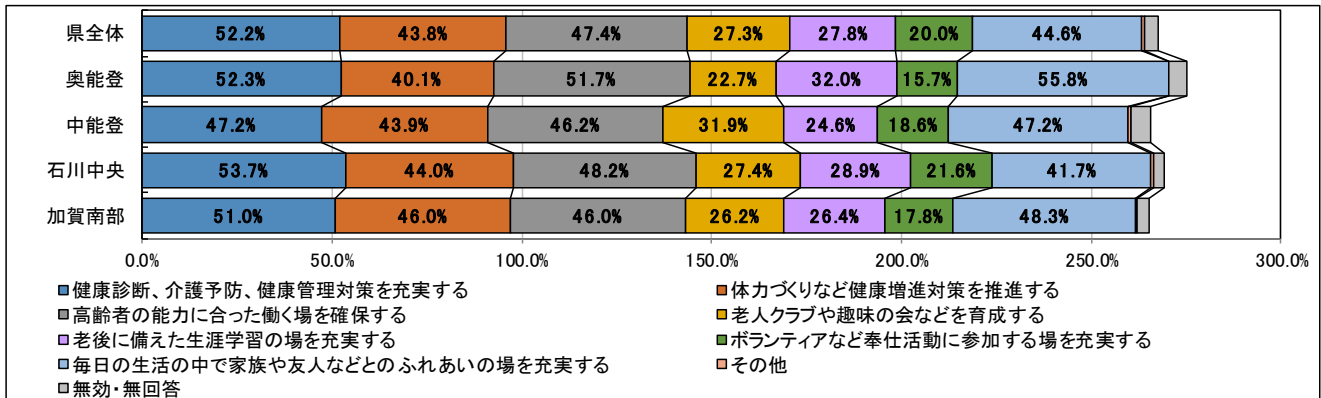
県全体で見ると、健康・生きがいづくりのために必要な施策としては、「健康診断、介護予防、健康管理対策を充実する」(52.2%)が最も高く、次いで、「高齢者の能力に合った働く場を確保する」(47.4%)、「毎日の生活の中で家族や友人などとのふれあいの場を充実する」(44.6%)となっている。前回調査では「高齢者の能力に合った働く場の確保」が最も高く、次いで「健康診断、リハビリテーション、健康管理対策の充実」、「家族や友人などとのふれあいの場の充実」であった。

地域別で見ると、「高齢者の能力に合った働く場を確保する」や「毎日の生活の中で家族や友人などとのふれあいの場を充実する」、「老後に備えた生涯学習の場を充実する」が奥能登で高くなっている(図表 9-3)。

年齢・性別で見ると、20代女性で「毎日の生活の中で家族や友人などとのふれあいの場を充実する」が5割を超えている。「健康診断、介護予防、健康管理対策を充実する」は20~40代女性で50~70代以上の女性と比較して高くなっている(図表 9-4)。

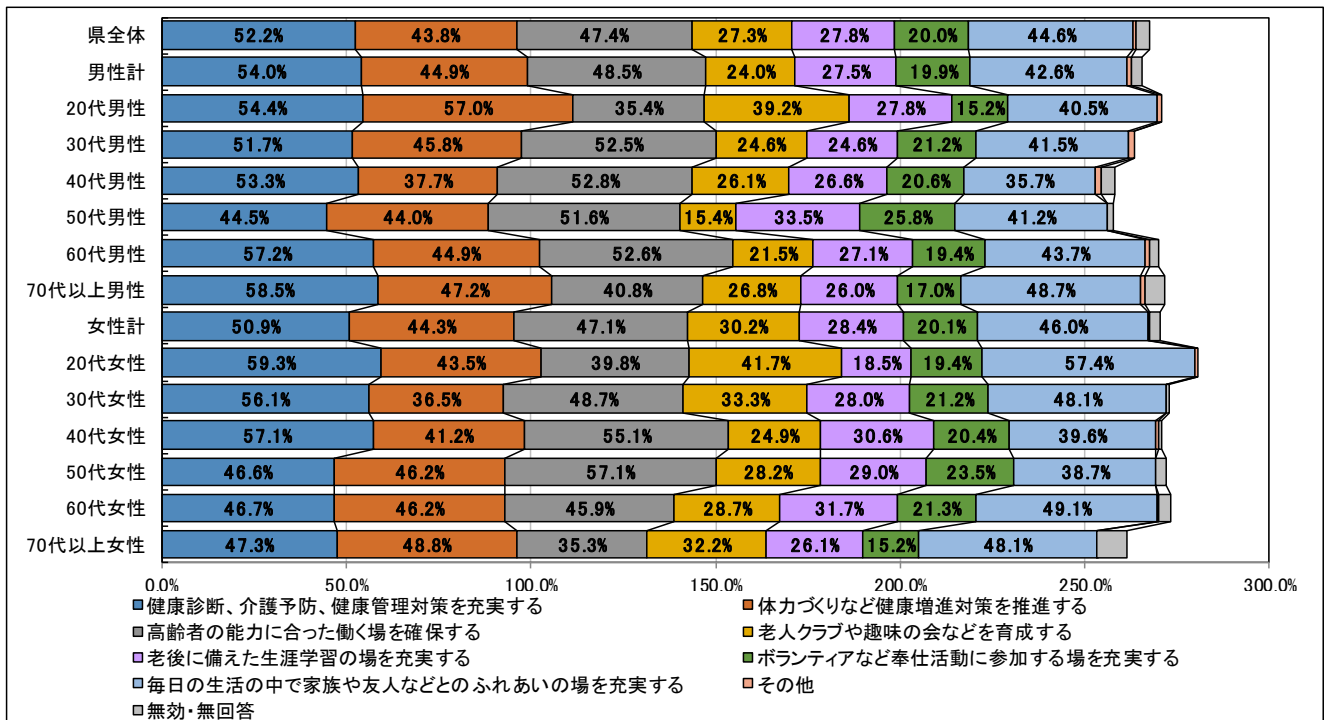
図表 9-3 高齢社会に必要な施策(健康・生きがいづくり) (地域別)

「高齢社会の到来を迎え、どのような健康・生きがいづくりの対策が必要だと思いますか。」(3A)



図表 9-4 高齢社会に必要な施策(健康・生きがいづくり) (年齢・性別)

「高齢社会の到来を迎え、どのような健康・生きがいづくりの対策が必要だと思いますか。」(3A)



(3) すこやかに子どもを産み育てていくために必要な施策(問 23-1)

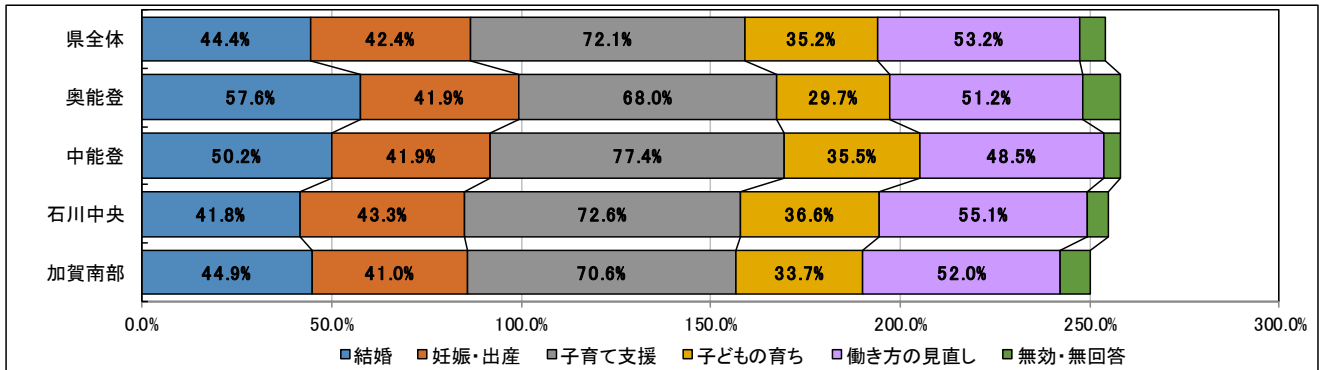
県全体で見ると、「子育て支援」(72.1%)が最も高く、次いで「働き方の見直し」(53.2%)、「結婚」(44.4%)となっている。

地域別で見ると、能登地域(奥能登、中能登)では「結婚」が他の地域と比較して高くなっている(図表9-5)。

年齢・性別で見ると「結婚」の割合は男性の方が高く、「子どもの育ち」の割合は女性の方が高くなっている(図表9-6)。

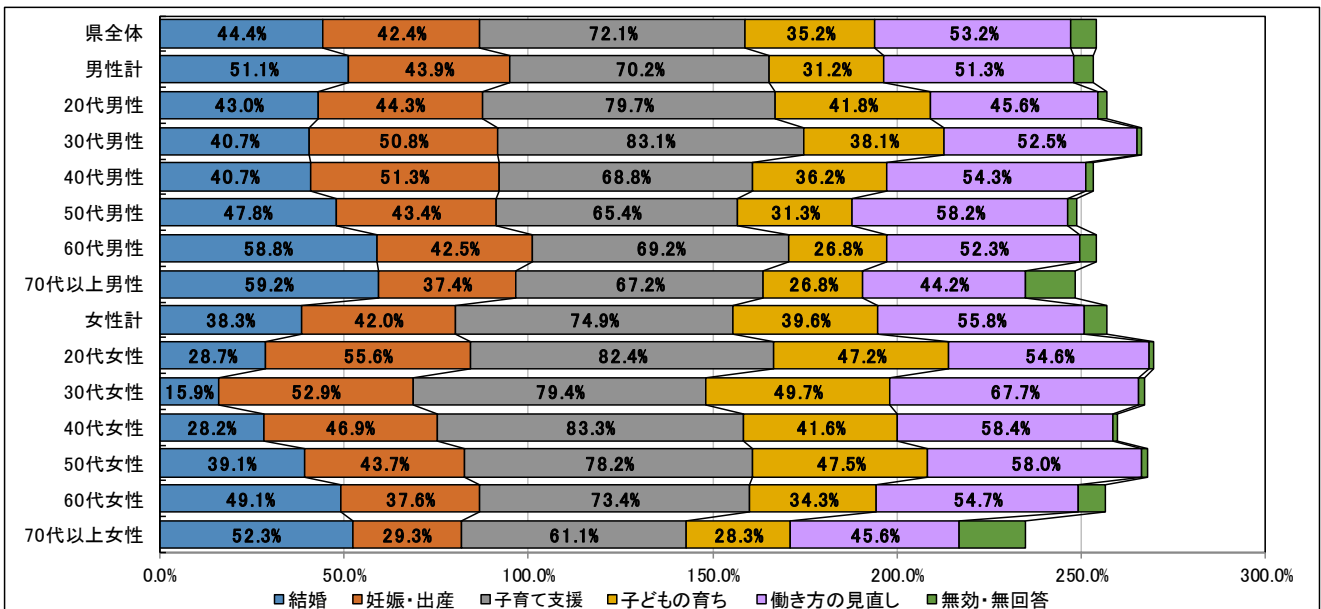
図表 9-5 すこやかに子どもを産み育てていくために必要な施策(地域別)

「すこやかに子どもを産み育てていくためにどのような施策が必要だと思いますか。」(3A)



図表 9-6 すこやかに子どもを産み育てていくために必要な施策(年齢・性別)

「すこやかに子どもを産み育てていくためにどのような施策が必要だと思いますか。」(3A)

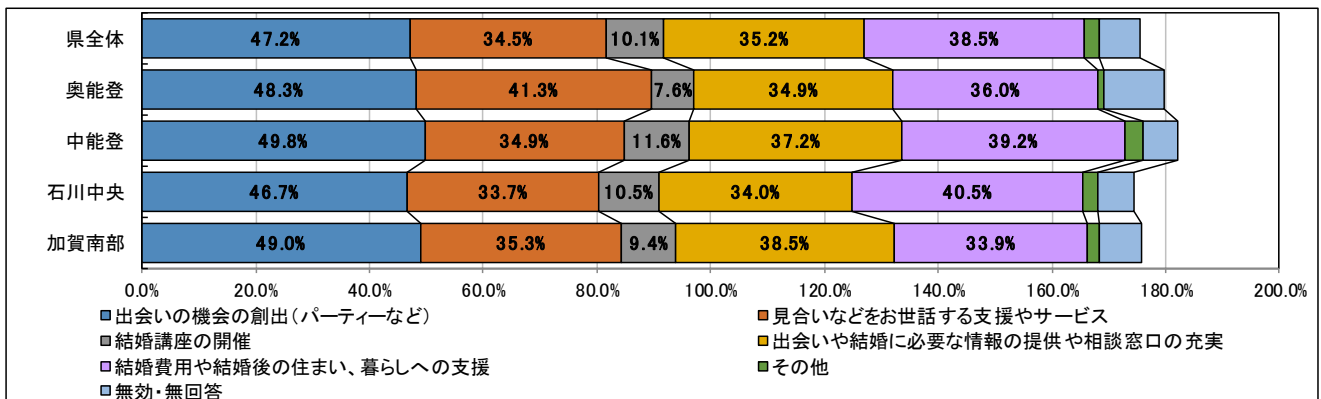


(4) 結婚支援に必要な施策(問 23-2)

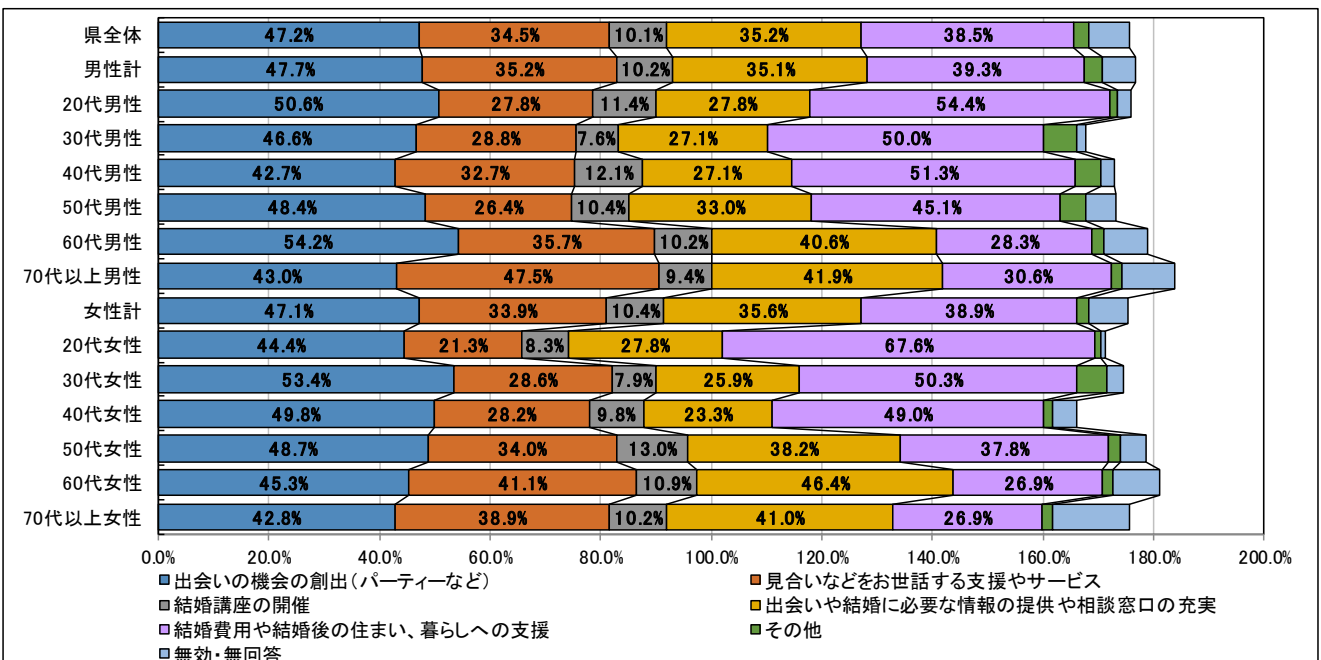
県全体で見ると、「出会いの機会の創出（パーティーなど）」(47.2%)が最も高く、次いで「結婚費用や結婚後の住まい、暮らしへの支援」(38.5%)、「出会いや結婚に必要な情報の提供や相談窓口の充実」(35.2%)となっている（図表 9-7）。

地域別で見ると、それほど差は見られないが、年齢・性別で見ると「結婚費用や結婚後の住まい、暮らしへの支援」が 67.6%と 20 代女性で際立って高くなっている（図表 9-8）。

図表 9-7 結婚に必要な施策（地域別）
「結婚支援としてどのような施策が必要だと思いますか。」(2A)



図表 9-8 結婚に必要な施策（年齢・性別）
「結婚支援としてどのような施策が必要だと思いますか。」(2A)



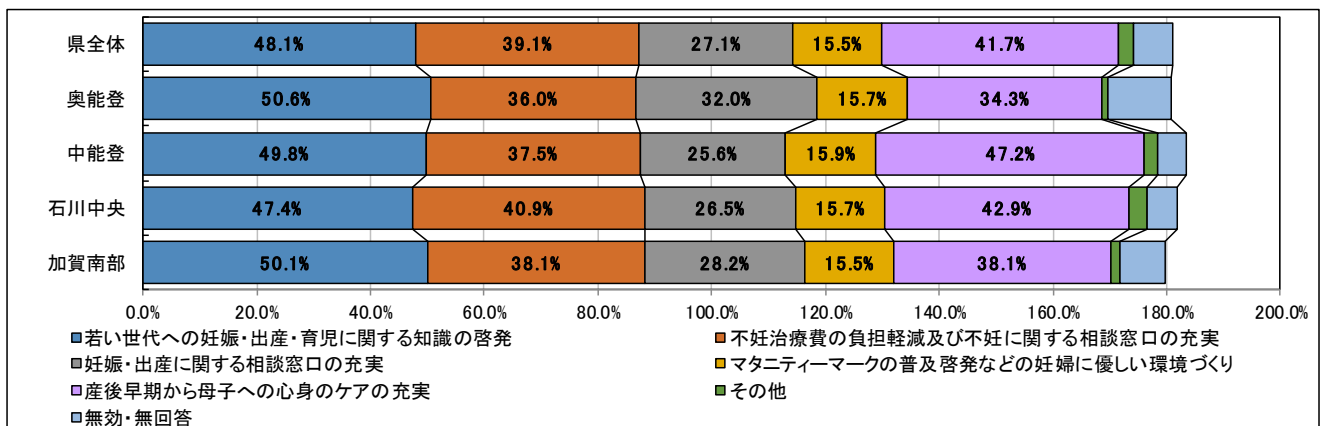
(5) 妊娠・出産支援に必要な施策(問 23-3)

県全体で見ると、「若い世代への妊娠・出産・育児に関する知識の啓発」(48.1%)が最も高く、次いで「産後早期から母子への心身のケアの充実」(41.7%)、「不妊治療費の負担軽減及び不妊に関する相談窓口の充実」(39.1%)となっている。

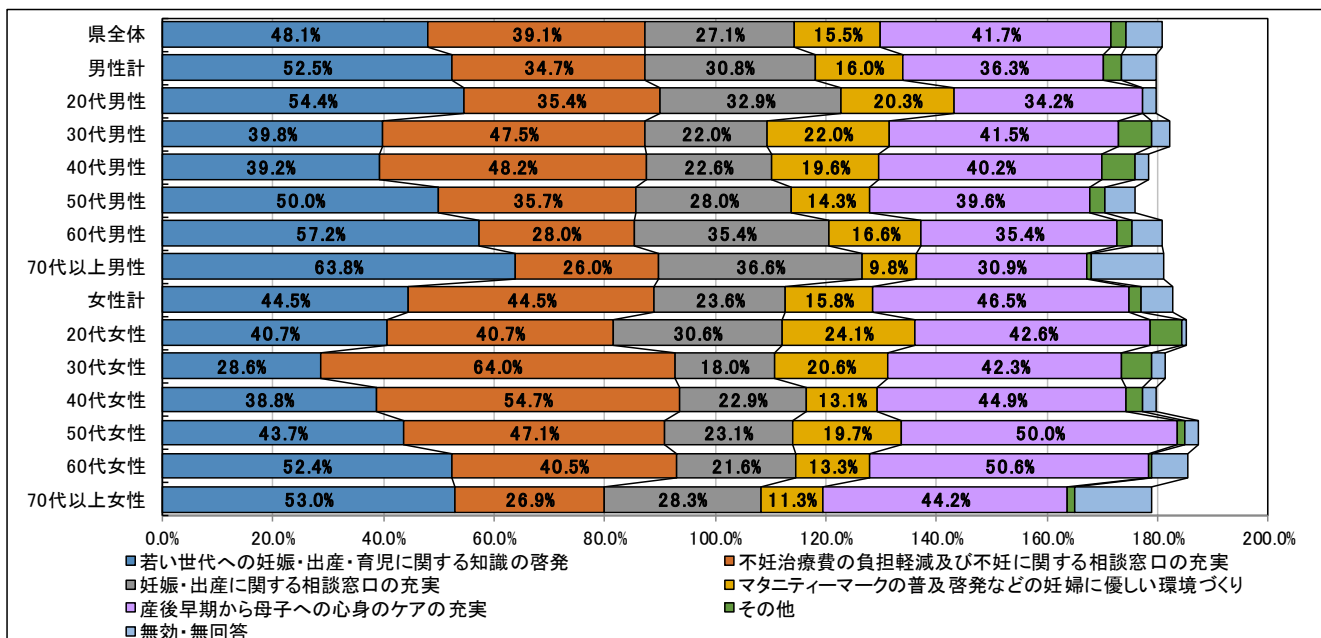
地域別で見ると、大きな差は見られない(図表 9-9)。

年齢・性別で見ると、30代女性で「不妊治療費の負担軽減及び不妊に関する相談窓口の充実」が他と比較して高くなっている(図表 9-10)。

図表 9-9 妊娠・出産支援に必要な施策(地域別)
「妊娠・出産支援としてどのような施策が必要だと思いますか。」(2A)



図表 9-10 妊娠・出産支援に必要な施策(年齢・性別)
「妊娠・出産支援としてどのような施策が必要だと思いますか。」(2A)



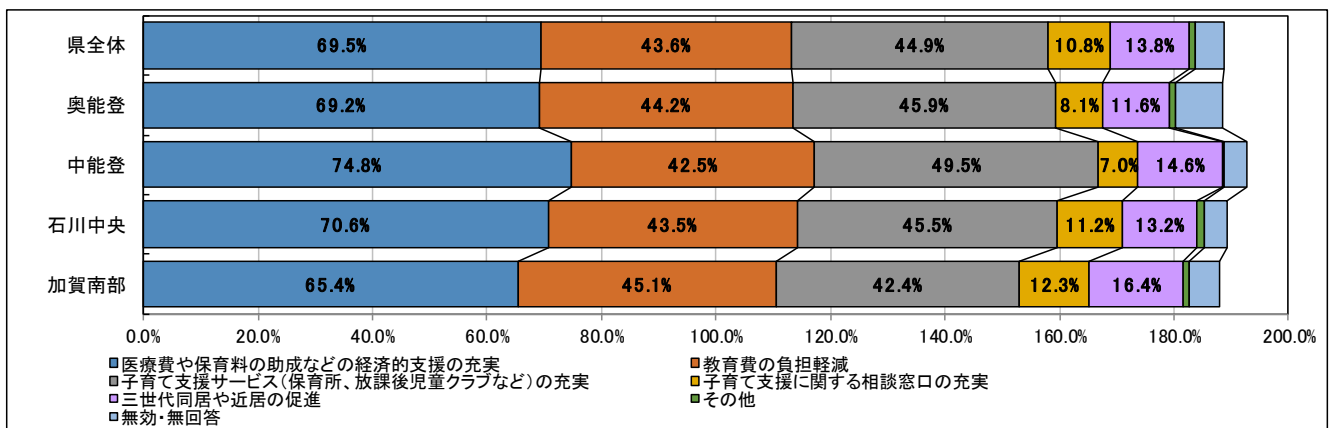
(6) 子育て支援に必要な施策(問 23-4)

県全体で見ると、「医療費や保育料の助成などの経済的支援の充実」(69.5%)が最も多く、次いで「子育て支援サービス(保育所、放課後児童クラブなど)の充実」(44.9%)、「教育費の負担軽減」(43.6%)となっている。

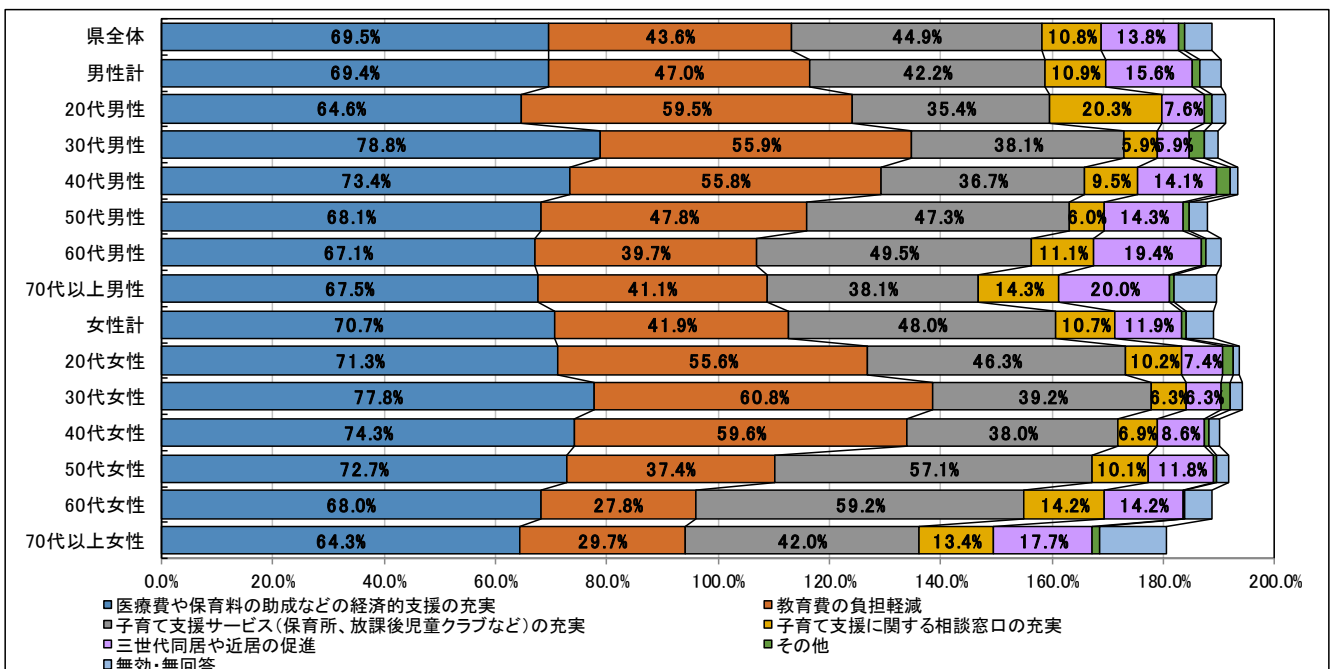
地域別で見ると、大きな差は見られない(図表 9-11)。

年齢・性別で見ると、20~40代の男女で「教育費の負担軽減」の割合が他の世代と比較して高くなっている(図表 9-12)。

図表 9-11 子育て支援に必要な施策(地域別)
「子育て支援としてどのような施策が必要だと思いますか。」(2A)



図表 9-12 子育て支援に必要な施策(年齢・性別)
「子育て支援としてどのような施策が必要だと思いますか。」(2A)



(7) 子どもの育ち支援に必要な施策(問 23-5)

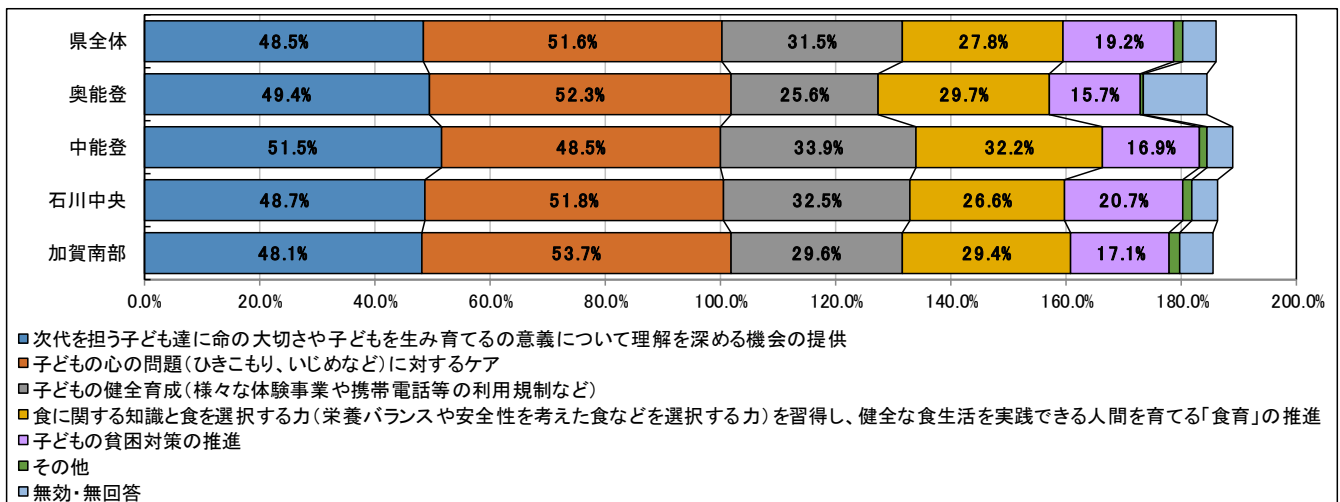
県全体で見ると、「子どもの心の問題（ひきこもり、いじめなど）に対するケア」（51.6%）が最も多く、次いで「次代を担う子ども達に命の大切さや子どもを生み育てるの意義について理解を深める機会の提供」（48.5%）となっている。

地域別で見ると、大きな差は見られない（図表 9-13）。

年齢・性別で見ると、「子どもの健全育成（様々な体験事業や携帯電話等の利用規制など）」の割合が 20～40 代男性で高く、「次代を担う子ども達に命の大切さや子どもを生み育てるの意義について理解を深める機会の提供」の割合は男性・女性ともに高齢になるにつれて高くなっている（図表 9-14）。

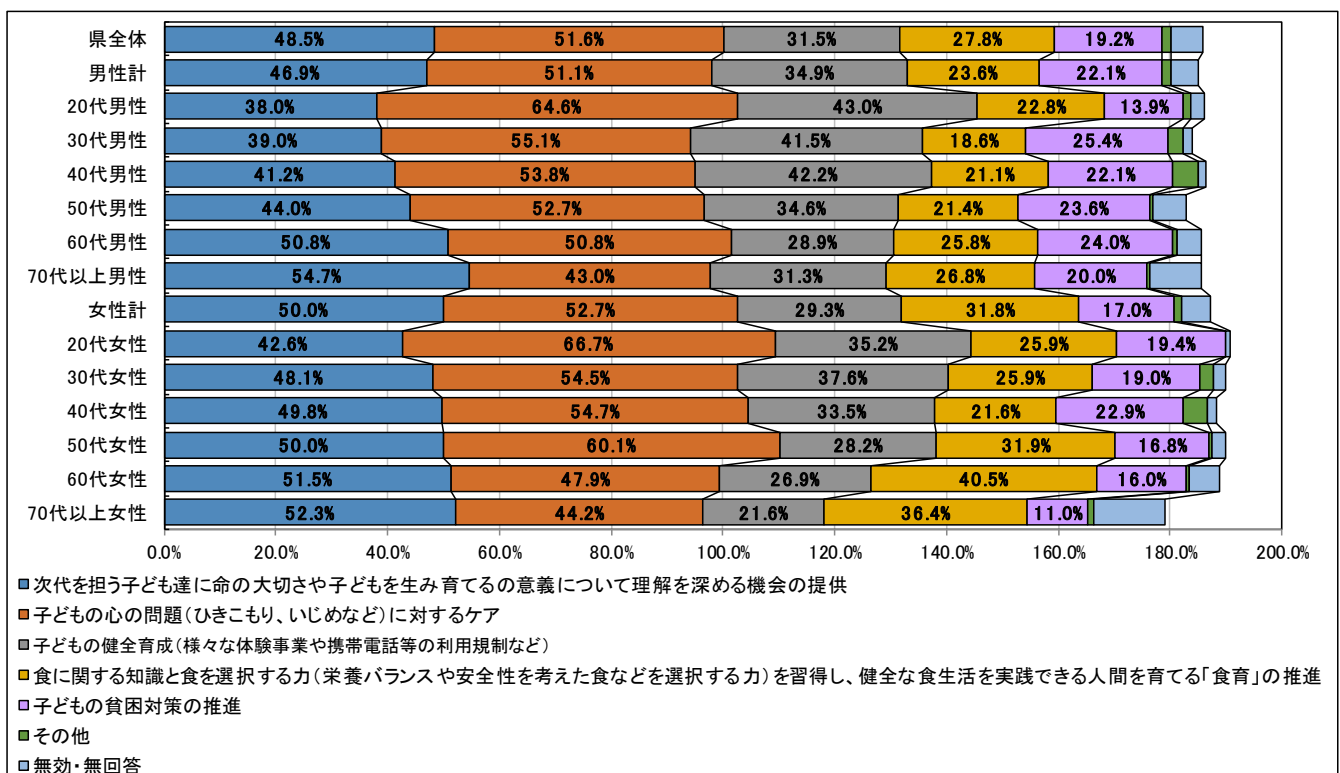
図表 9-13 子どもの育ち支援に必要な施策（地域別）

「子どもの育ち支援としてどのような施策が必要だと思いますか。」(2A)



図表 9-14 子どもの育ち支援に必要な施策（年齢・性別）

「子どもの育ち支援としてどのような施策が必要だと思いますか。」(2A)



(8) 働き方の見直しについて必要な施策(問 23-6)

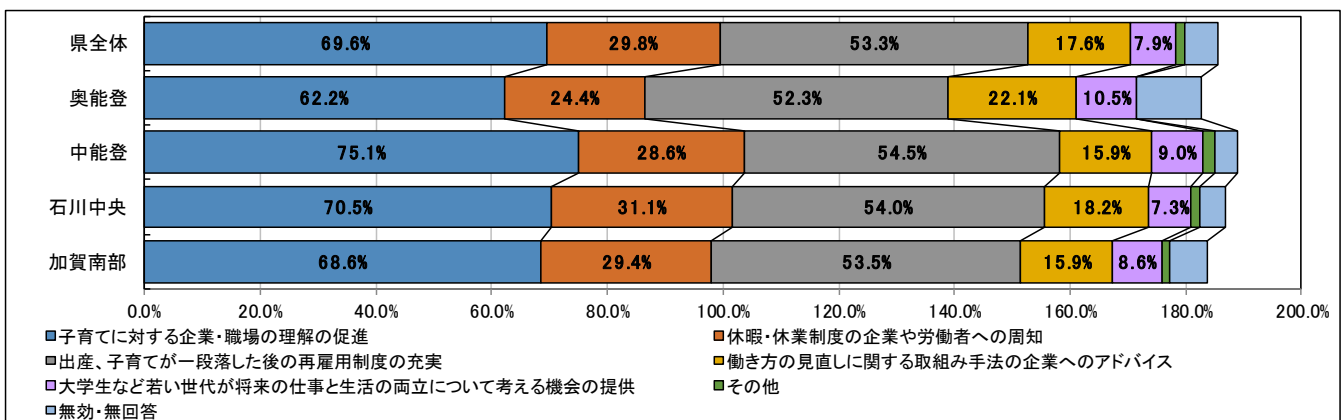
県全体で見ると、すこやかに子どもを産み育てていくために必要な施策としては、「子育てに対する企業・職場の理解の推進」(69.6%)が最も高く、次いで、「出産、子育てが一段落した後の再雇用制度の充実」(53.3%)となっている。

地域別で見ると、奥能登では「働き方の見直しに関する取組み手法の企業へのアドバイス」(22.1%)が他の地域と比較して高くなっている(図表 9-15)。

年齢・性別で見ると、全体として最も割合が高い「子育てに対する企業・職場の理解の推進」は、特に女性で高くなっている。20代男女ともに「休暇・休業制度の企業や労働者への周知」の割合が他の世代と比較して高くなっている(図表 9-16)。

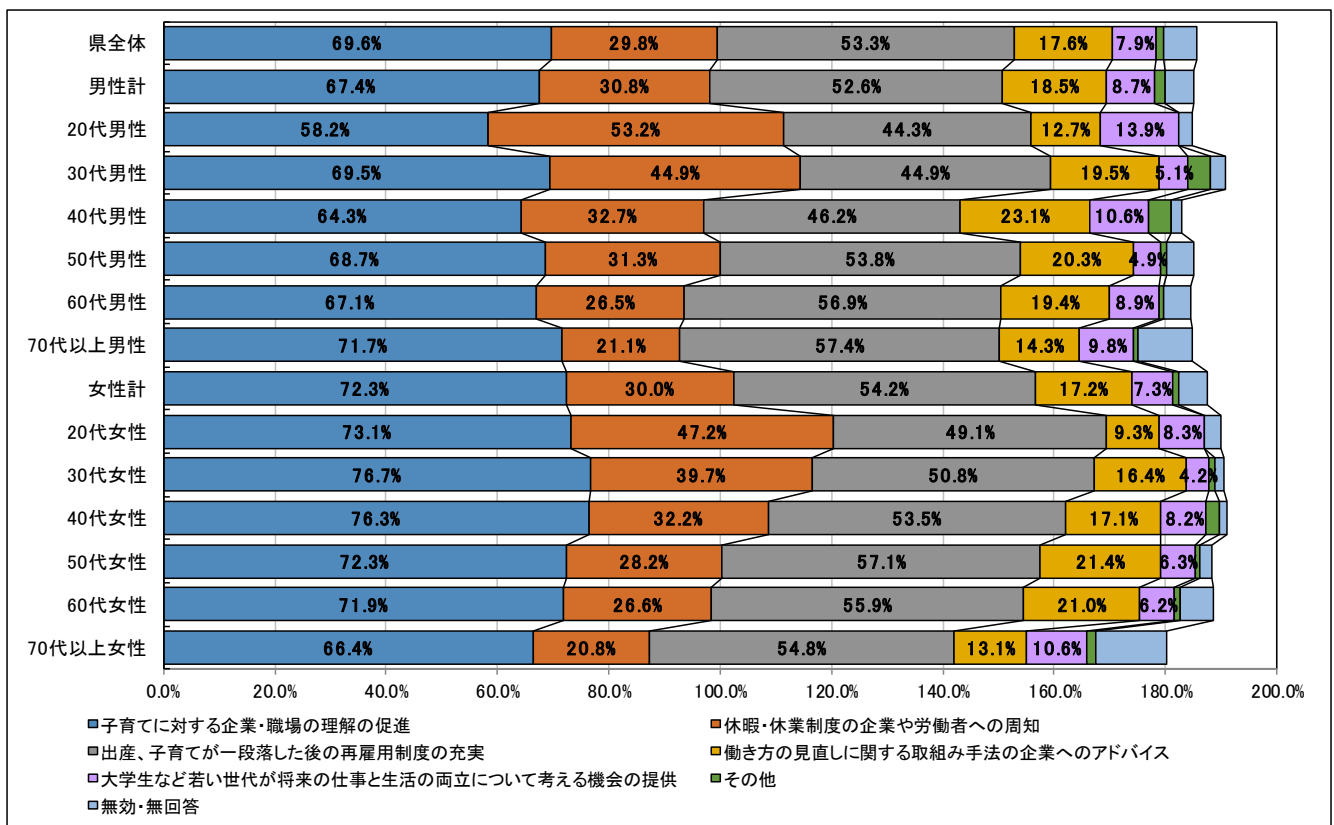
図表 9-15 働き方の見直しについて必要な施策(地域別)

「すこやかに子どもを産み育てていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。」(2A)



図表 9-16 働き方の見直しについて必要な施策(年齢・性別)

「すこやかに子どもを産み育てていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。」(2A)



10.人口減少対策

(1) 人口減少対策について重要な施策(問 24)

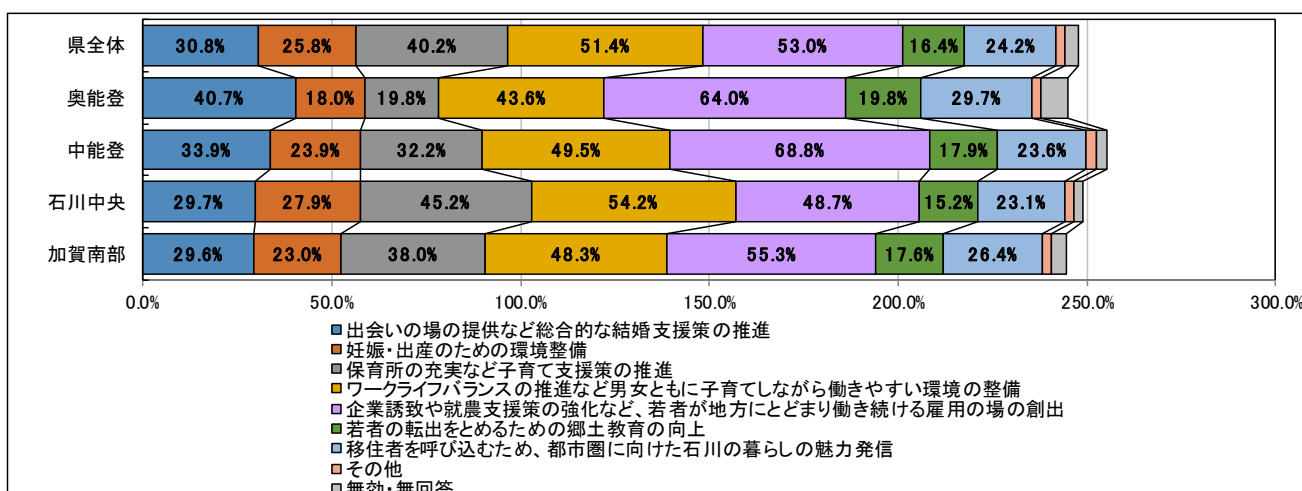
県全体で見ると「企業誘致や就農支援策の強化など、若者が地方にとどまり働き続ける雇用の場の創出」(53.0%)が最も多く、次いで「ワークライフバランスの推進など男女ともに子育てしながら働きやすい環境の整備」(51.4%)、「保育所の充実など子育て支援策の推進」(40.2%)となっている。

地域別で見ると、能登地域(奥能登、中能登)では「出会いの場の提供など総合的な結婚支援策の推進」、「企業誘致」、石川中央では「保育所の充実」や「ワークライフバランス」の項目が他の地域と比較して、高くなっている。(図表 10-1)。

年齢・性別で見ると、20代女性で「妊娠・出産のための環境整備」が他の世代と比較して高くなっている。20~50代女性で「ワークライフバランス」の項目が6割を超えている(図表 10-2)。

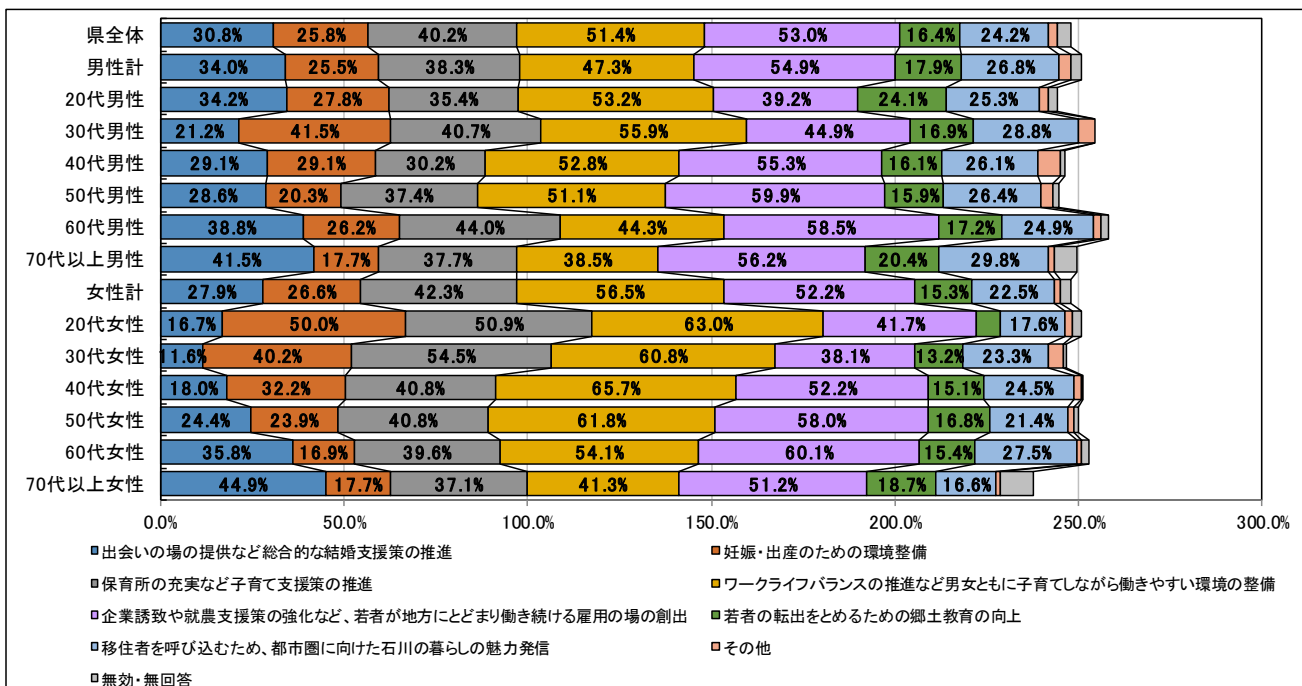
図表 10-1 人口減少対策について重要な施策(地域別)

「人口減少対策として、どのようなことが重要だと思いますか。」(3A)



図表 10-2 人口減少対策について重要な施策(年齢・性別)

「人口減少対策として、どのようなことが重要だと思いますか。」(3A)



(2) 県外から就職、移住をする決め手となった理由(問 25)

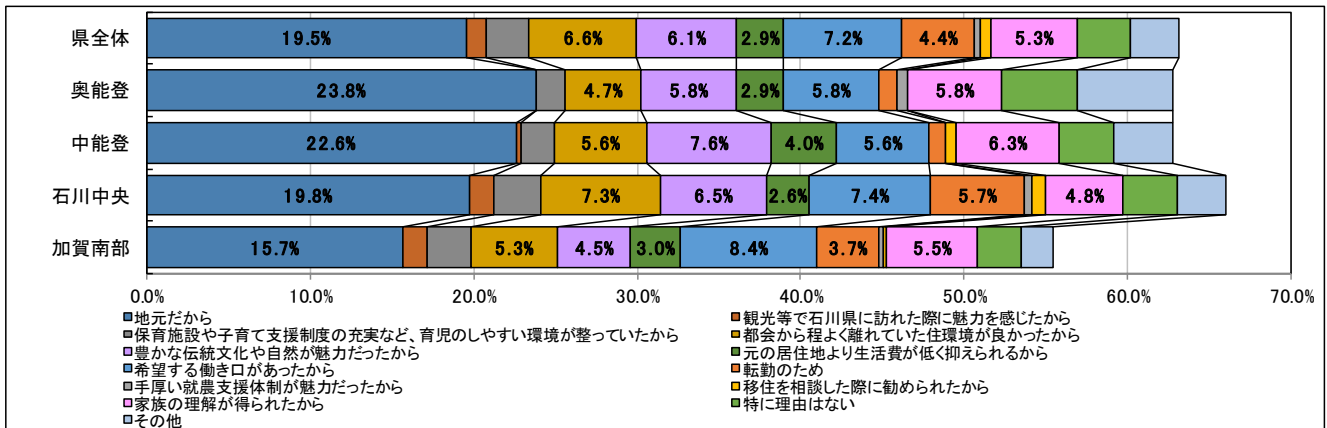
県全体で見ると、地域別、年齢・性別ともに「地元だから」の割合が最も高い。他の項目は 10%未満である。地域別で見ると、能登地域（奥能登、中能登）で「地元だから」の割合が 2 割を超えており、他の地域と比較して高くなっている（図表 10-3）。

年齢・性別で見ると、「地元だから」が女性より男性で高くなっている（図表 10-4）。

図表 10-3 県外から就職、移住をする決め手となった理由（地域別）

「県外から石川を選び就職、移住をする決め手となった理由はどれですか。」(3A)

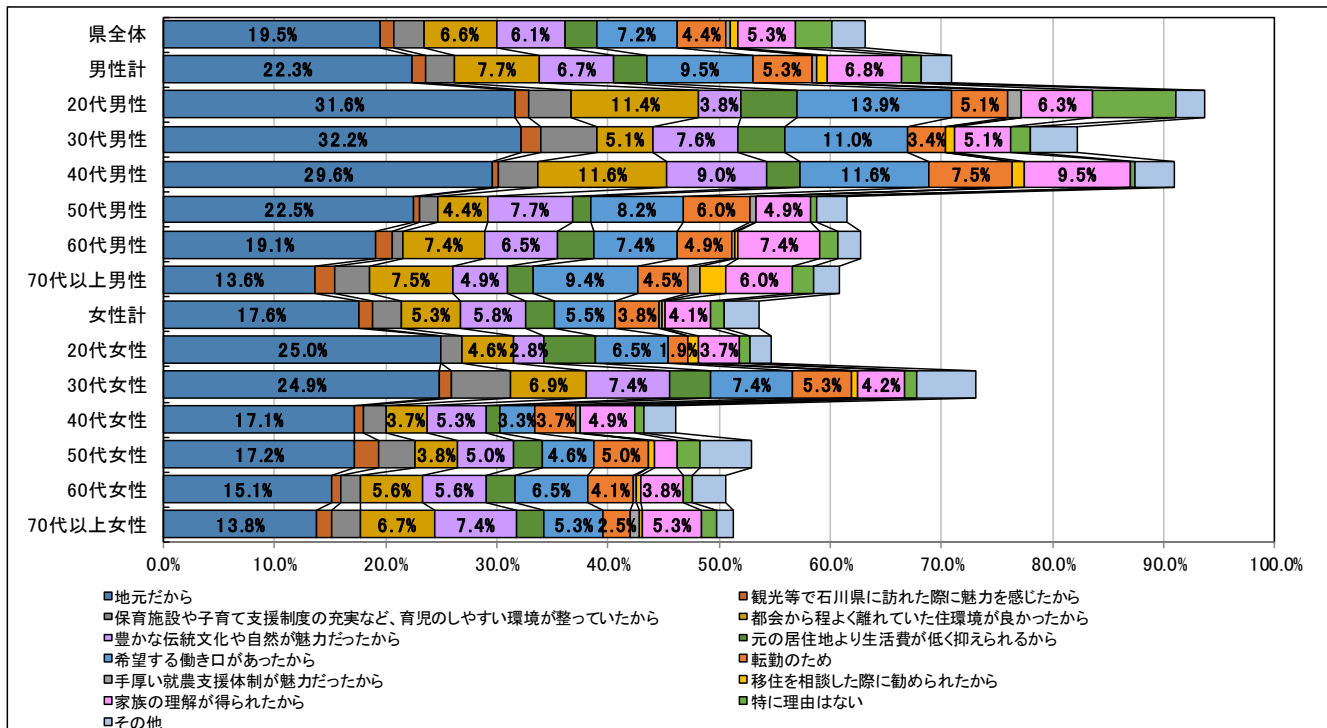
※無効・無回答の割合は省略。



図表 10-4 県外から就職、移住をする決め手となった理由（年齢・性別）

「県外から石川を選び就職、移住をする決め手となった理由はどれですか。」(3A)

※無効・無回答の割合は省略。



11.保健・医療・福祉

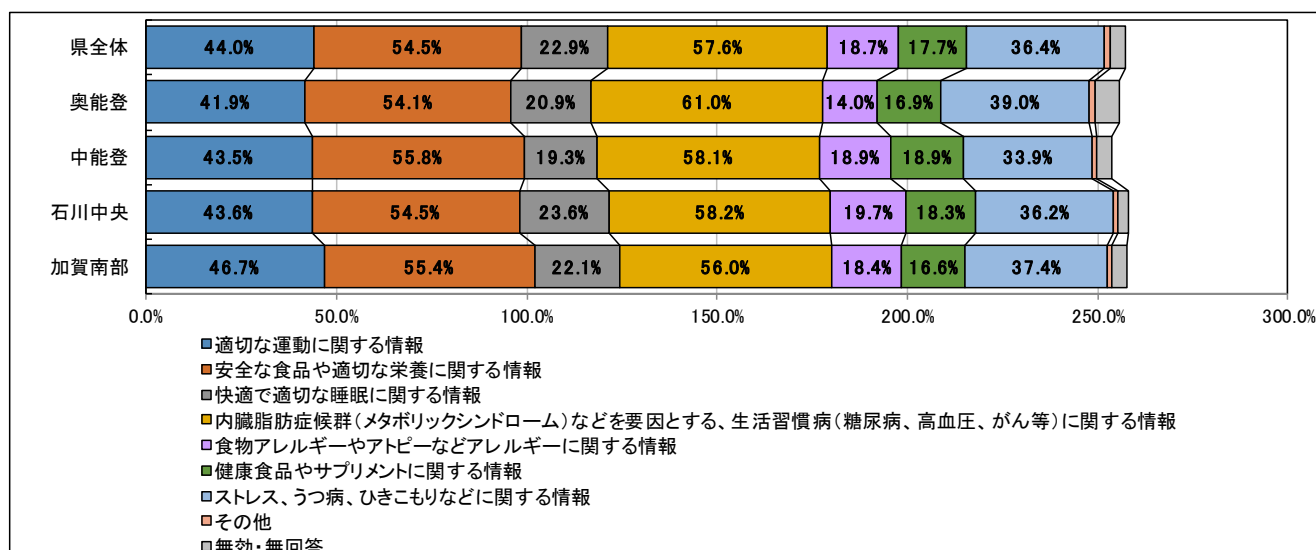
(1) 健康に関して興味のある情報(問 26)

県全体で見ると、健康に関して興味のある情報として、「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）などを要因とする、生活習慣病（糖尿病、高血圧、がん等）に関する情報」（57.6%）が最も高く、次いで「安全な食品や適切な栄養に関する情報」（54.5%）となっている。前回調査では「安全な食品や適切な栄養に関する情報」が最も高く、次いで「生活習慣病に関する情報」、「適切な運動に関する情報」であった。

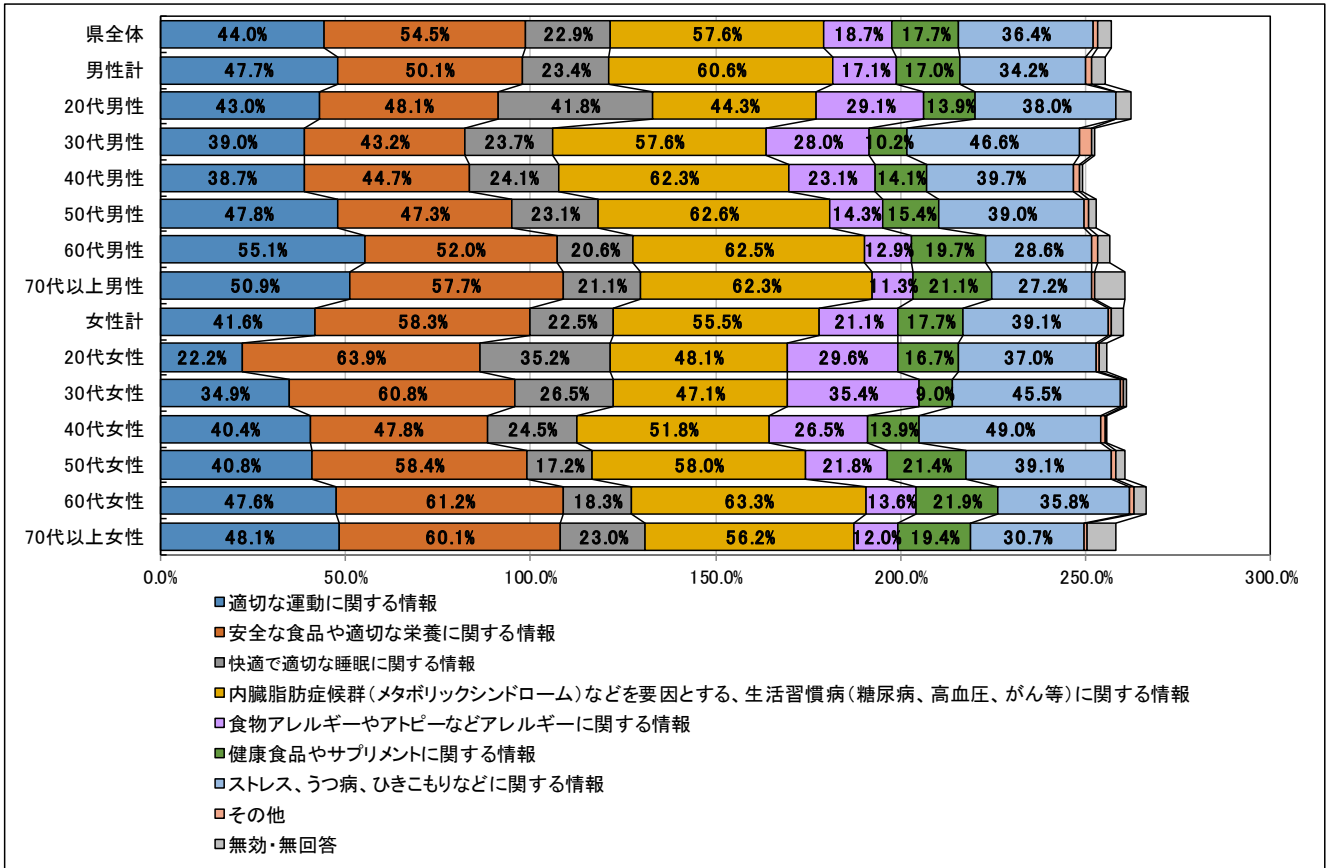
地域別で見ると、大きな差は見られない（図表 11-1）。

年齢・性別で見ると、女性のほうが「安全な食品や適切な栄養に関する情報」や「食物アレルギーやアトピーなどアレルギーに関する情報」、「健康食品やサプリメントに関する情報」、「ストレス、うつ病、ひきこもりなどに関する情報」が高くなっている（図表 11-2）。

図表 11-1 健康に関して興味のある情報（地域別）
「健康に関する情報で、今もっとも興味のあるものはなんですか。」(3A)



図表 11-2 健康に関して興味のある情報（年齢・性別）
 「健康に関する情報で、今もっとも興味のあるものはなんですか。」(3A)



(2) 症状別での医療機関の使い分け(問 27)

県全体で見ると、「脳卒中や心臓病、がんなど重い病気の場合」に利用する医療機関としては、前回調査と同様に「大学病院や県立病院」(72.9%)が最も高くなっている。

“風邪などの軽い病気の場合”は前回調査と同様に「近くの診療所」(49.6%)が最も多く、次いで「近くの病院」(36.0%)である。

“夜間や休日にけがをした場合”は前回調査と同様に「近くの病院」(54.6%)が過半数を占め、「大学病院や県立病院」(17.2%)との回答も2割近く見られる。“夜間や休日に子どもが急に高熱を発した場合”でも、ほぼ同様の傾向が見られる。

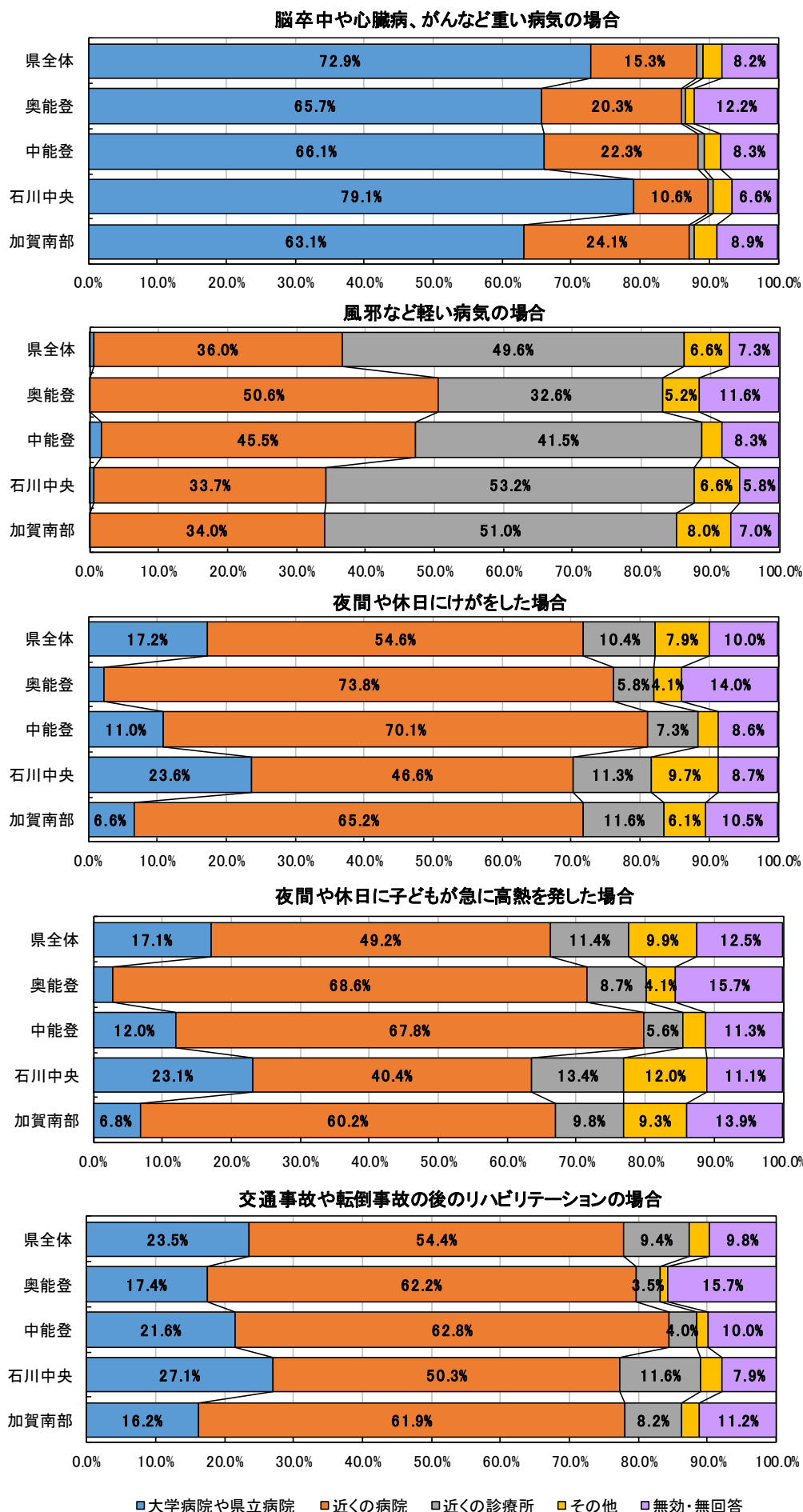
“交通事故や転倒事故の後のリハビリテーションの場合”は、前回調査と同様に「近くの病院」(54.4%)が過半数を占め、次いで「大学病院や県立病院」(23.5%)となっている。

地域別で見ると、石川中央では、他地域に比べ“風邪などの軽い病気の場合”を除き「大学病院や県立病院」を利用する割合が高くなっている。(図表 11-3)。

年代別で見ると、若い年代は「大学病院や県立病院」を利用する割合が比較的高くなっている(図表 11-4)。

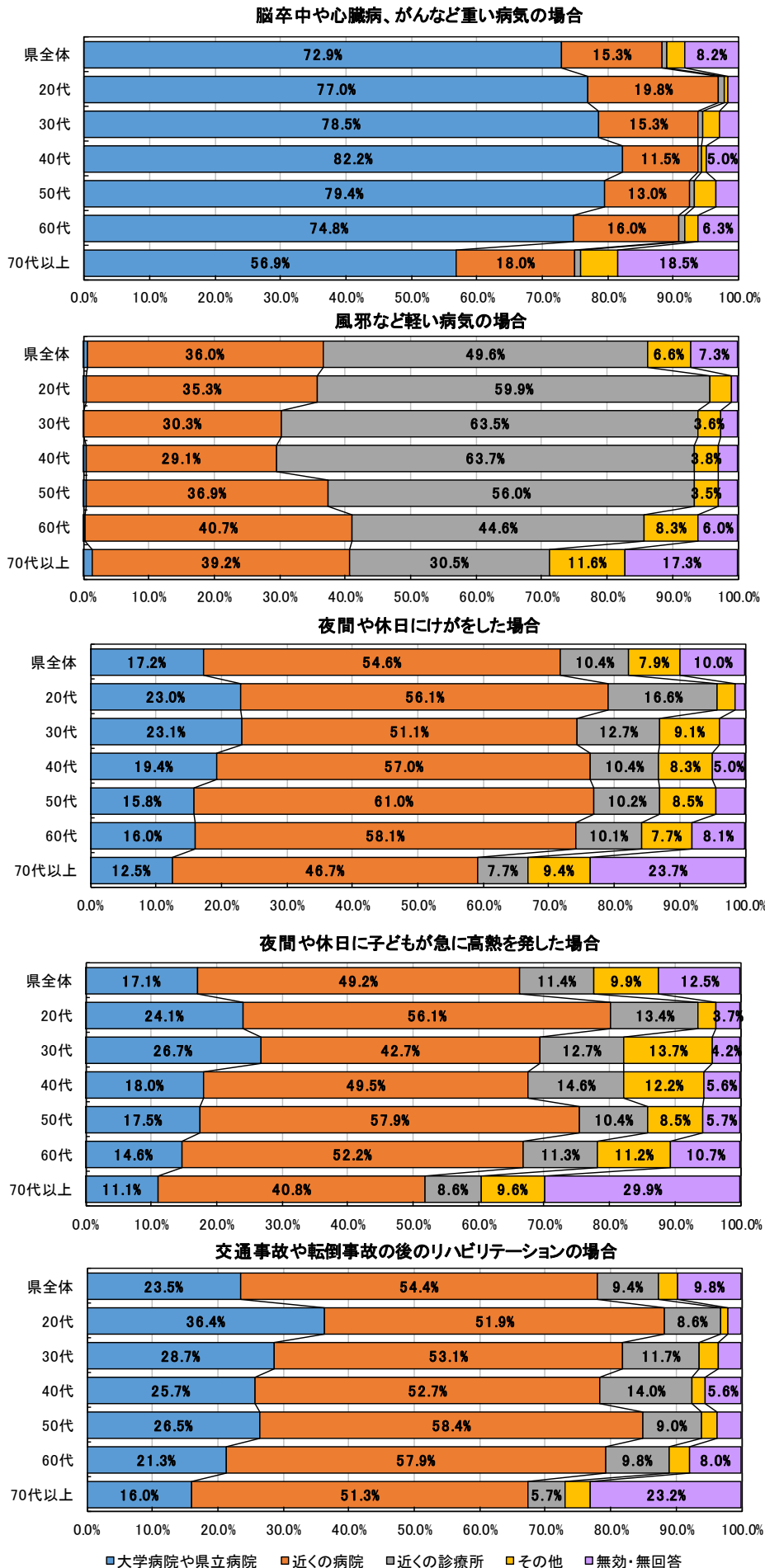
図表 11-3 症状別での医療機関の使い分け（地域別）

「以下の場合、どの医療機関を利用していますか。あるいは利用しようと思いませんか。」(SA)



図表 11-4 症状別での医療機関の使い分け（年代別）

「以下の場合、どの医療機関を利用していますか。あるいは利用しようと思いませんか。」(SA)



(3) 障害のある人の社会参加を進めるために必要な施策(問 28)

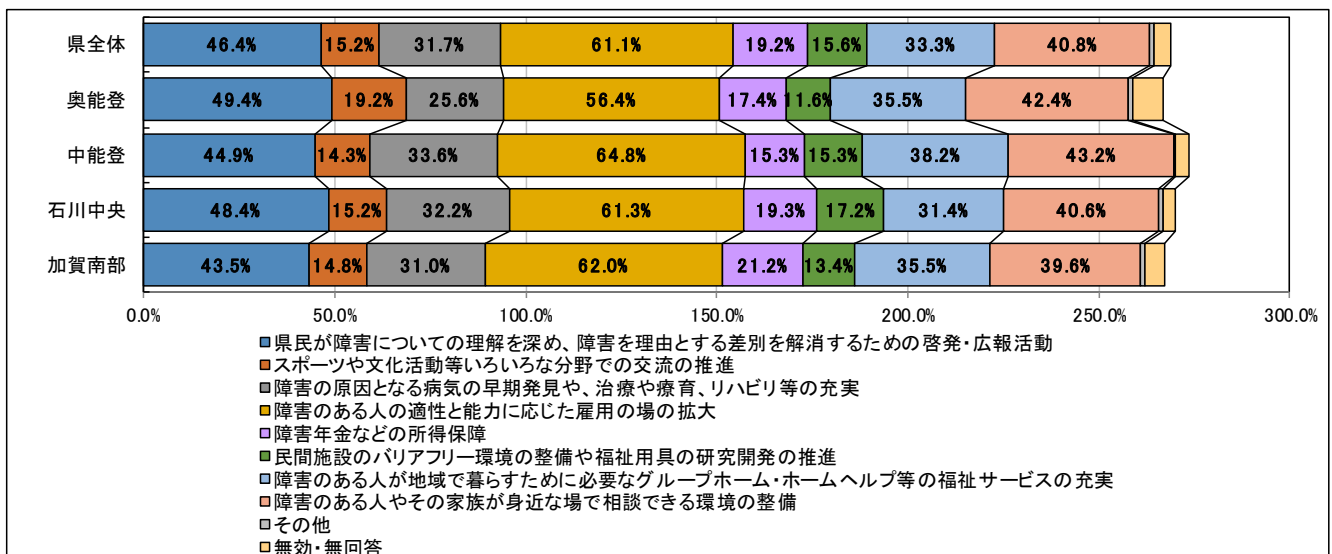
県全体で見ると、障害のある人の社会参加を進めるために必要な施策としては、「障害のある人の適性と能力に応じた雇用の場の拡大」(61.1%)が最も高く、次いで「県民が障害についての理解を深め、障害を理由とする差別を解消するための啓発・広報活動」(46.4%)となっている。上位2項目については前回調査と同じ結果であった。

地域別で見ると、際立って大きな特徴は見られない(図表 11-5)。

年齢・性別に見ると、20代男性で「スポーツや文化活動等いろいろな分野での交流の推進」が他の世代と比較して高くなっている(図表 11-6)。

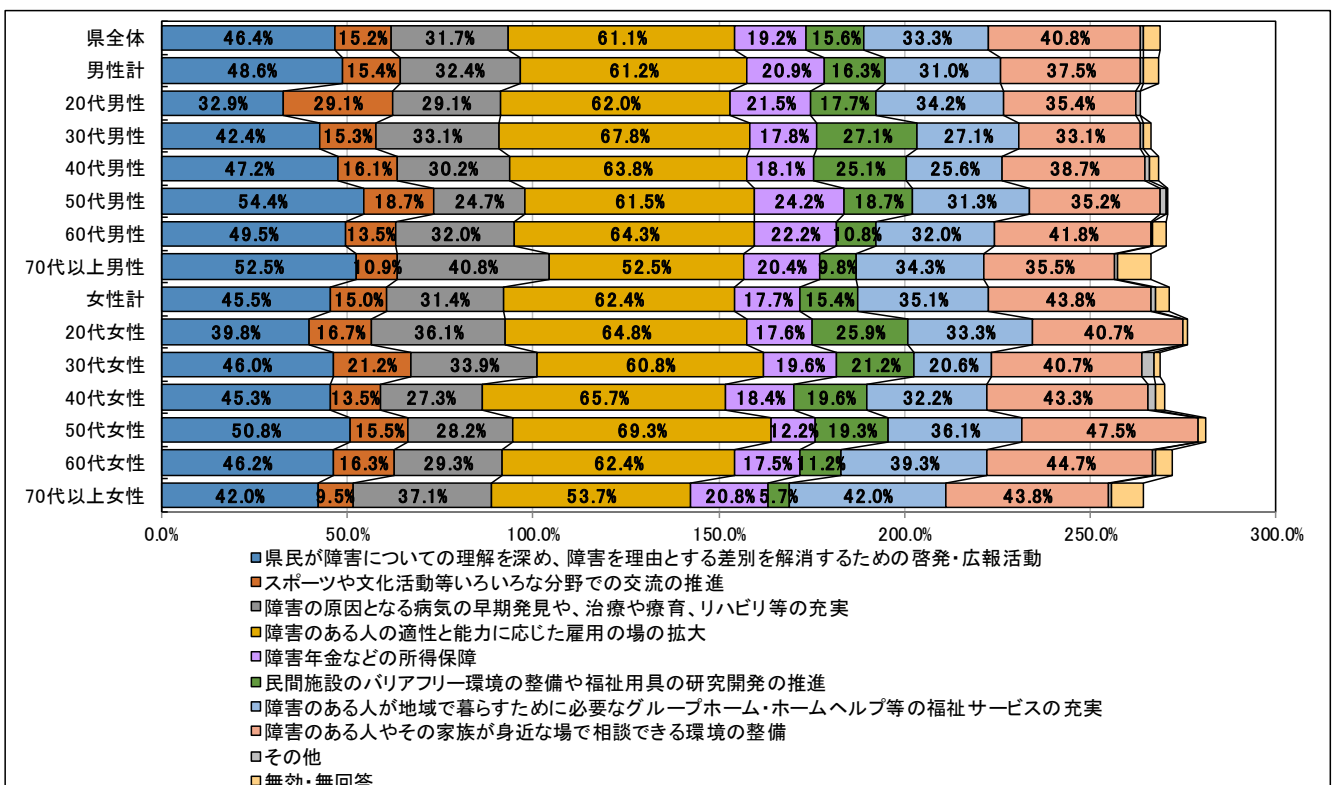
図表 11-5 障害のある人の社会参加を進めるために必要な施策(地域別)

「障害のある人の社会参加をすすめるためには、どのようなことが必要だと思いますか。」(3A)



図表 11-6 障害のある人の社会参加を進めるために必要な施策(年齢・性別)

「障害のある人の社会参加をすすめるためには、どのようなことが必要だと思いますか。」(3A)



12.教育関係

(1) 学校教育で力を入れるべき施策(問 29)

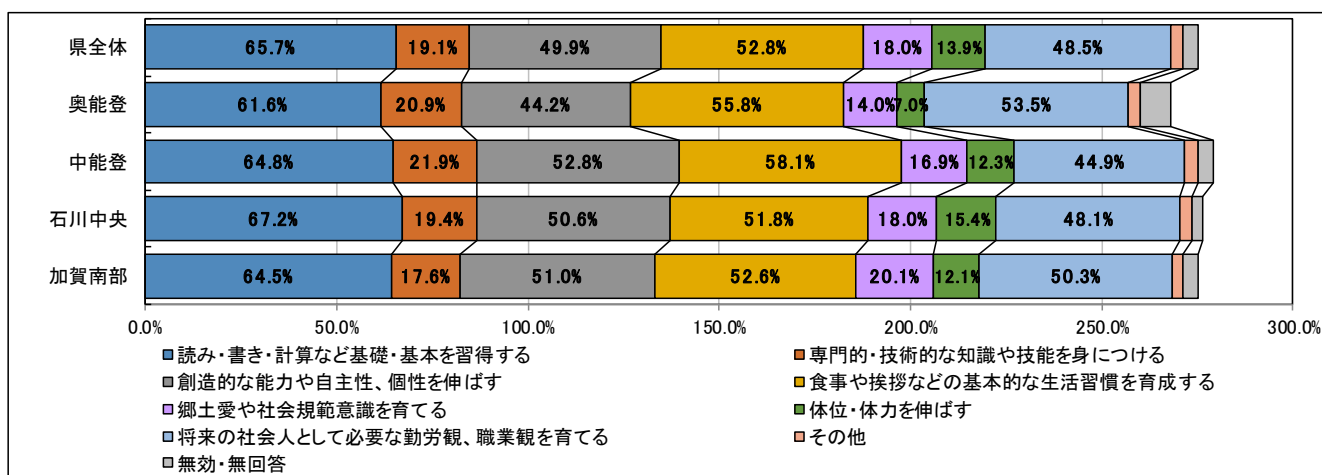
県全体で見ると、学校教育で力を入れてほしいこととしては、「読み・書き・計算など基礎・基本を習得する」(65.7%) (前回1位) が最も高く、次いで、「食事や挨拶などの基本的な生活習慣を育成する」(52.8%) (前回3位) となっている。

地域別で見ると、それほど大きな差は見られないが、奥能登で「創造的な能力や自主性、個性を伸ばす」(44.2%) が他地域と比べややその割合が低くなっている(図表12-1)。

年齢・性別で見ると、「読み・書き・計算など基礎・基本を習得する」は30代・40代女性が他と比較して高くなっている。20代女性で「食事や挨拶などの基本的な生活習慣を育成する」が7割を超えている。20代男性で「専門的・技術的な知識や技能を身につける」の割合が高くなっている(図表12-2)。

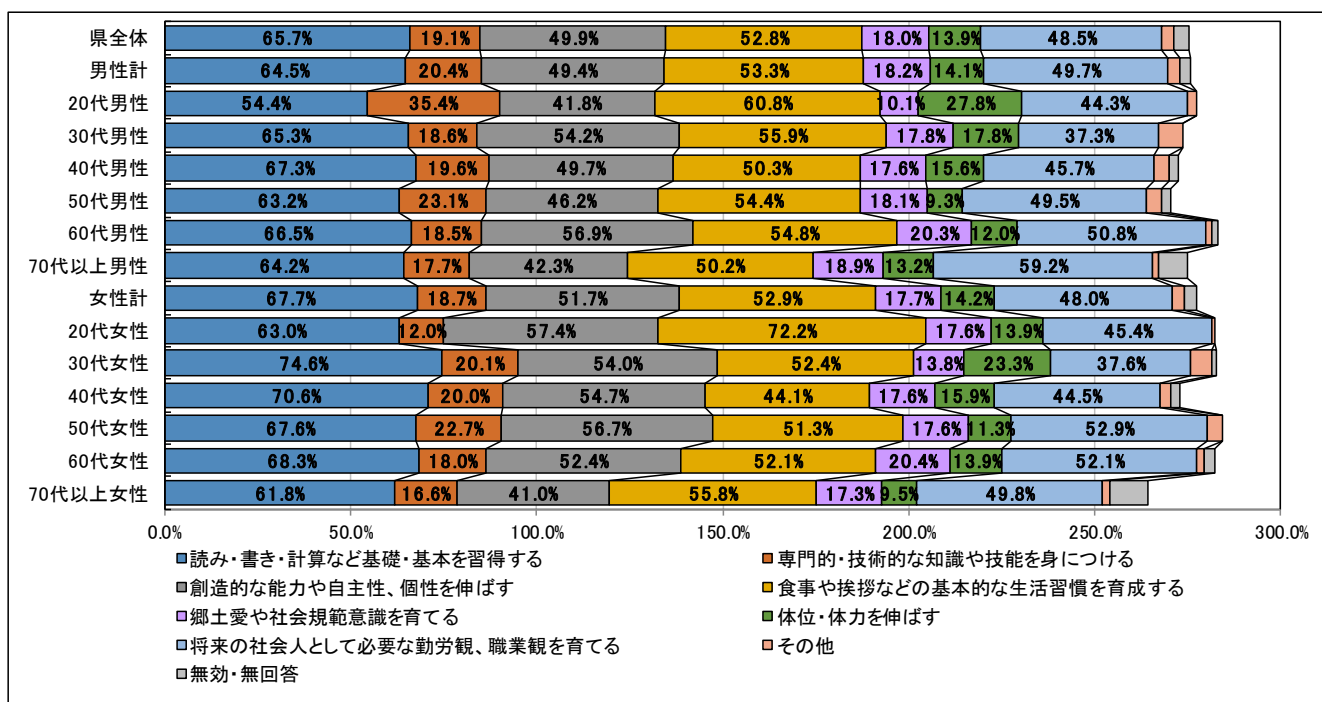
図表 12-1 学校教育で力を入れるべき施策(地域別)

「学校教育について、どのようなことに力を入れてほしいと思いますか。」(3A)



図表 12-2 学校教育で力を入れるべき施策(年齢・性別)

「学校教育について、どのようなことに力を入れてほしいと思いますか。」(3A)



(2) 高等教育機関の集積を生かすための施策(問 30)

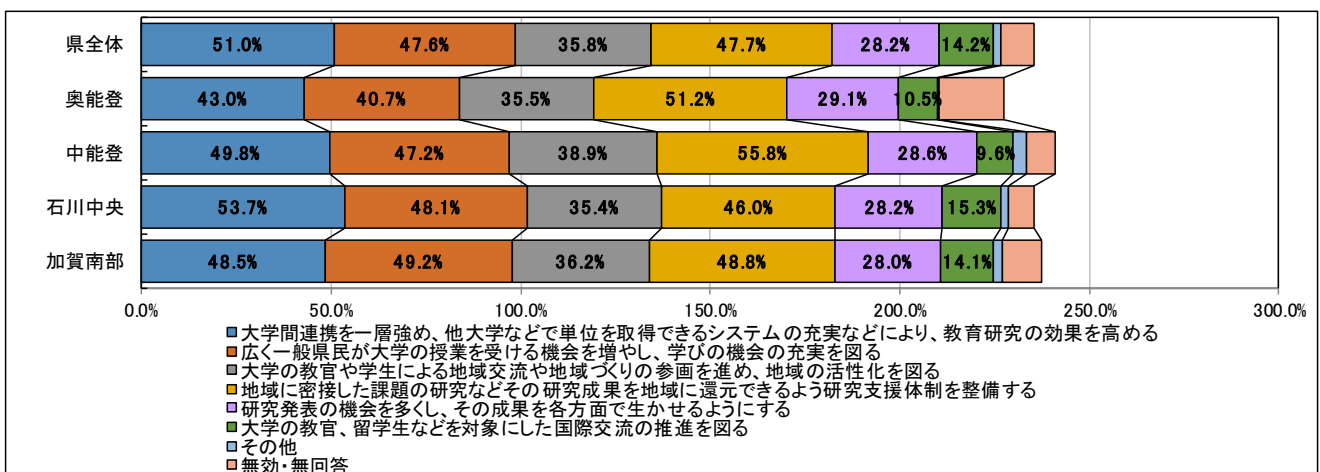
県全体で見ると、高等教育機関の集積を生かす施策としては、「大学間連携を一層強め、他大学などで単位を取得できるシステムの充実などにより、教育研究の効果を高める」(51.0%)が最も高い。前回調査では「広く一般県民が大学の授業を受ける機会の充実を図る」が最も高かった。

地域別で見ると、石川中央では「大学間連携を一層強め、他大学などで単位を取得できるシステムの充実などにより、教育研究の効果を高める」が53.7%と過半数を超えている(図表 12-3)。

年齢・性別で見ると、「大学間連携を一層強め、他大学などで単位を取得できるシステムの充実などにより、教育研究の効果を高める」は20代男女、50代女性で他の世代と比較して高くなっている。「大学の教官、留学生などを対象にした国際交流の推進を図る」は20代男性で他の世代と比較して高くなっている(図表 12-4)。

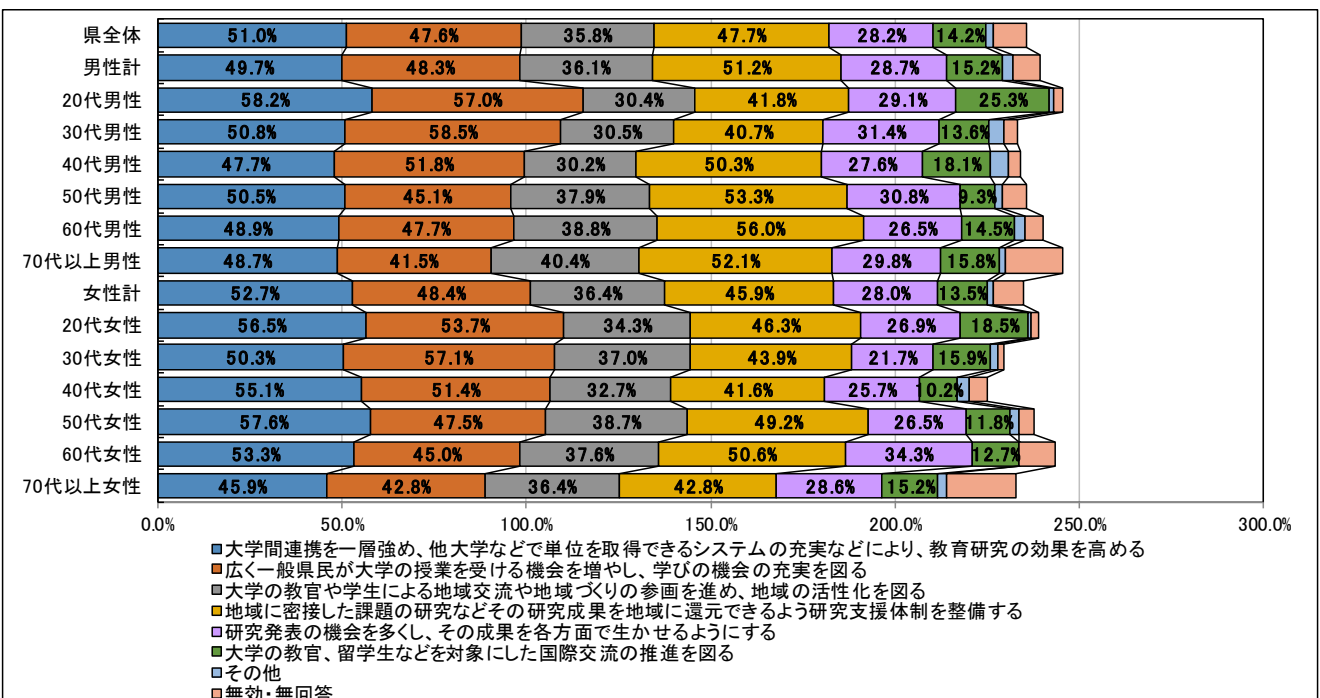
図表 12-3 高等教育機関の集積を生かすための施策(地域別)

「大学など高等教育機関の集積をさらに生かすためには、どのようなことが必要だと思いますか。」(3A)



図表 12-4 高等教育機関の集積を生かすための施策(年齢・性別)

「大学など高等教育機関の集積をさらに生かすためには、どのようなことが必要だと思いますか。」(3A)



(3) 生涯学習・社会教育で力を入れてほしい施策(問 31)

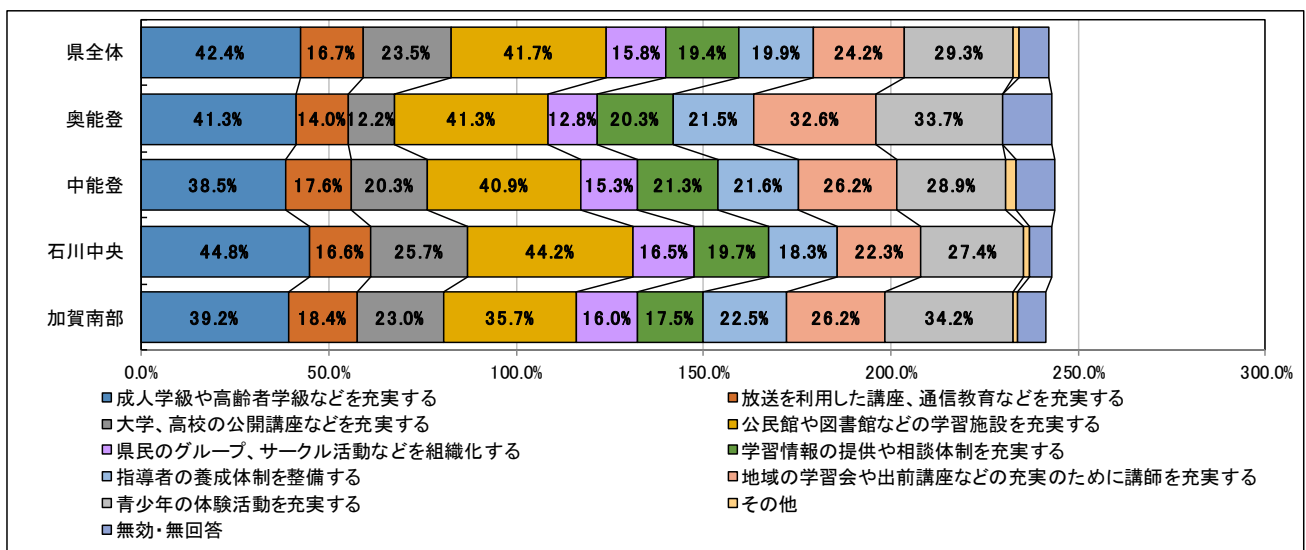
県全体で見ると、生涯学習・社会教育で力を入れてほしい施策としては、「成人学級や高齢者学級などを充実する」(42.4%)が最も高く、次いで、「公民館や図書館などの学習施設を充実する」(41.7%)となっている。前回調査でも同じ二項目の順であった。

地域別で見ると、奥能登では他地域と比較して「地域の学習会や出前講座などの充実のために講師を充実する」(32.6%)の割合が高く、「大学、高校の公開講座などを充実する」(12.2%)の割合が低くなっている(図表 12-5)。

年齢・性別で見ると、「公民館や図書館などの学習施設を充実する」は20代女性で55.6%とその割合が高くなっている。「県民のグループ、サークル活動などを組織化する」が20代の男性・女性ともに高くなっている(図表 12-6)。

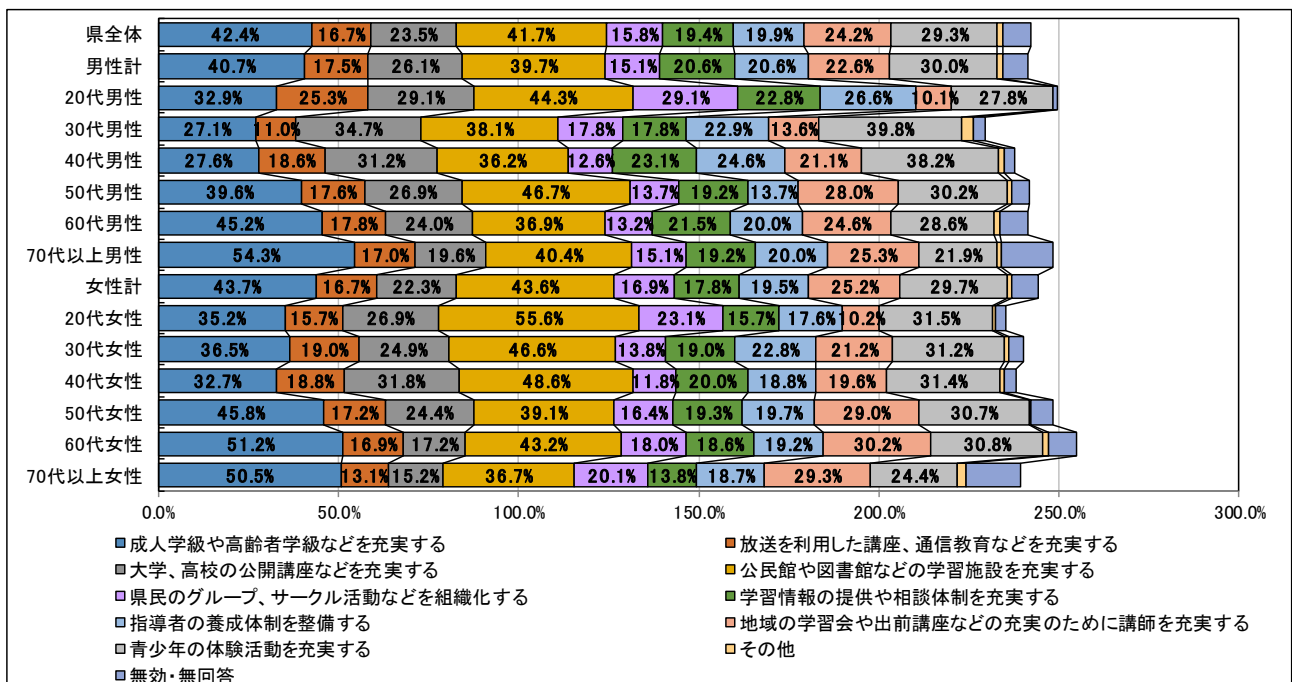
図表 12-5 生涯学習・社会教育で力を入れてほしい施策(地域別)

「生涯学習・社会教育について、どのようなことに力を入れてほしいと思いますか。」(3A)



図表 12-6 生涯学習・社会教育で力を入れてほしい施策(年齢・性別)

「生涯学習・社会教育について、どのようなことに力を入れてほしいと思いますか。」(3A)



13. 行財政運営

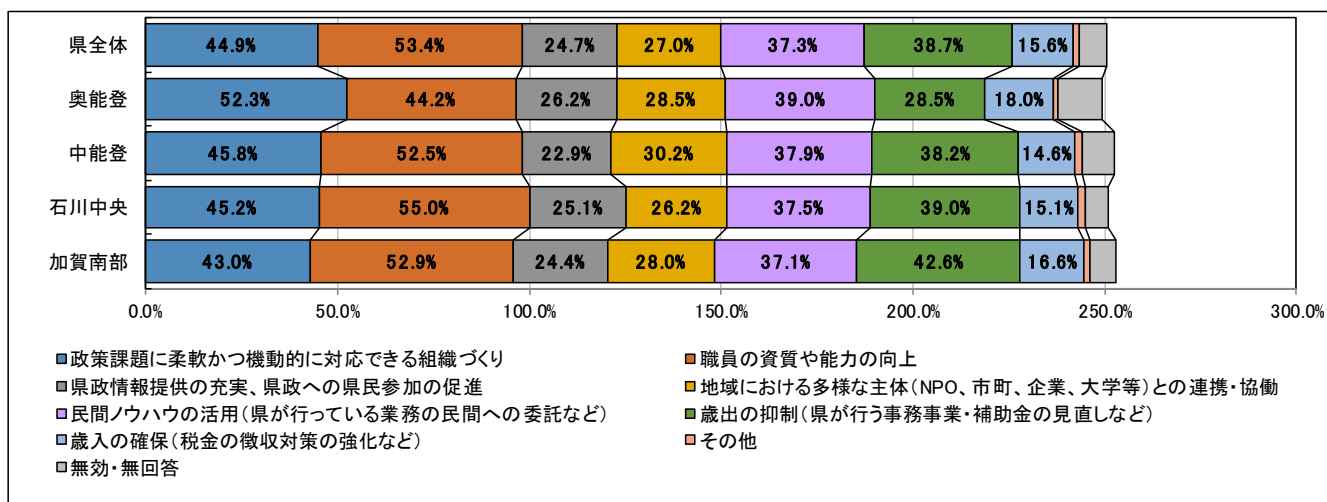
(1) 行財政改革に必要な取組み(問 32)

県全体で見ると、行財政改革に必要な取組みとしては、「職員の資質や能力の向上」(53.4%)が最も高く、次いで、「政策課題に柔軟かつ機動的に対応できる組織づくり」(44.9%)、「歳出の抑制(県が行う事務事業・補助金の見直しなど)」(38.7%)となっている。

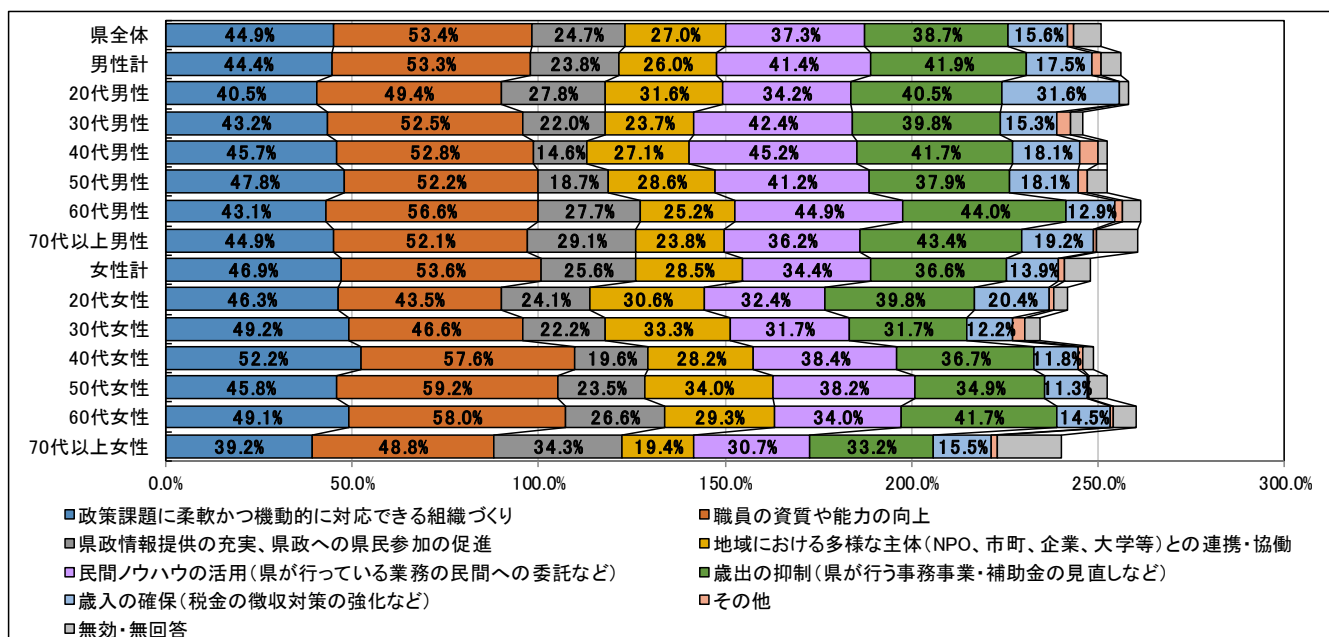
地域別で見ると、奥能登で「政策課題に柔軟かつ機動的に対応できる組織づくり」の割合が他地域よりやや高く、「歳出の抑制(県が行う事務事業・補助金の見直し)」が低くなっている(図表 13-1)。

年齢・性別で見ると、「民間ノウハウの活用(県が行っている業務の民間への委託など)」が女性より男性で高くなっている(図表 13-2)。

図表 13-1 行財政改革に必要な取組み(地域別)
「行財政改革について、どのような取組みが必要だと思いますか。」(3A)



図表 13-2 行財政改革に必要な取組み(年齢・性別)
「行財政改革について、どのような取組みが必要だと思いますか。」(3A)



14. まとめ

(1) 質問全般、その他に関するご意見(問 33)

自由回答は 503 件、全体の 18.4%寄せられた。詳細な内容は資料編に掲載した。

H26 年県民意識調査報告書グラフ一覧

No	分類	質問	グラフ	備考	回答数
1	住みやすさ	1	地域・年代/性別		SA
2		2-1	地域・年代/性別		SA
3		2-2	地域のみ	※問2-1で4または5を選択した人のみ回答	SA
4		3	地域のみ	※全19項目、地域内年代別区分あり	SA
5	北陸新幹線	4-1	地域のみ	※全6項目	SA
6		4-2	地域・年代	※全2項目	SA
7		4-3	地域・年代	※全2項目	SA
8		5-1	地域・年代/性別		SA
9		5-2	地域・年代/性別		SA
10		5-3	地域・年代/性別		SA
11		5-4	地域・年代/性別		SA
12	基盤整備	6	地域・年代/性別		3A
13	文化・スポーツ活動	7	地域・年代		3A
14		8	地域・年代/性別		3A
15		9	地域・年代/性別		3A
16	国際交流活動	10	全体のみ	※全10項目	SA
17		11	地域・年代/性別		3A
18	雇用や産業	12	地域・年代/性別		SA
19		13	地域・年代/性別		3A
20		14	地域・年代/性別		3A
21		15	地域・年代/性別		3A
22		16	地域・年代/性別	※前回との比較のため職業別あり(第一次産業従事者)	3A
23		17	地域・年代/性別	※前回との比較のため職業別あり(第一次産業従事者)	3A
24	循環型社会の形成 ・自然との共生	18	地域・年代/性別		3A
25		19	地域・年代/性別		3A
26		20	地域・年代/性別		3A
27	安全・安心	21	地域・年代/性別		3A
28	少子・高齢化	22(サービス)	地域・年代/性別		3A
29		22(健康)	地域・年代/性別		3A
30		23-1	地域・年代/性別		3A
31		23-2	地域・年代/性別		2A
32		23-3	地域・年代/性別		2A
33		23-4	地域・年代/性別		2A
34		23-5	地域・年代/性別		2A
35		23-6	地域・年代/性別		2A
36	人口減少対策	24	地域・年代/性別		3A
37		25	地域・年代/性別		3A
38	保健・医療・福祉	26	地域・年代/性別		3A
39		27	地域・年代	※全5項目	SA
40		28	地域・年代/性別		3A
41	教育関係	29	地域・年代/性別		3A
42		30	地域・年代/性別		3A
43		31	地域・年代/性別		3A
44	行財政運営	32	地域・年代/性別		3A
45	まとめ	33	全体のみ	※グラフなし	FA
46	性別	F1	全体のみ		SA
47	年齢	F2	全体のみ		SA
48	職業	F3	全体のみ		SA
49	住んでからの年数	F4	全体のみ		SA
50	同居人の数	F5	全体のみ		SA
51	同居人	F6	全体のみ		MA
52	同居人の属性、数	F7	全体のみ		MA
53	お住まいの市町	F8	全体のみ		SA

石川県民意識調査

～あなたのご意見をお聞かせください～

(調査の趣旨)

石川県では、平成 18 年に県政運営の基本方針となる「石川県新長期構想」を改定し、さまざまな施策を進めてきました。しかし、改定時の予想を上回る人口減少・少子高齢化の進行、厳しい財政状況、地方分権の進展など、時代は大きく変化しています。

石川県では、このような時代の大きな変化等を見据え、県民の立場に立ったより良い県政を推進するため、現行の構想が目標年次を迎える来年度中に新たな長期構想を策定することになりました。

本調査は、この構想策定に際して県民の皆様のご意見をお聞きし、参考とさせていただくためのものであり、無作為抽出によりあなたを回答者のお一人に選ばせていただきました。

お忙しい中、まことに恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただいてアンケートにお答えくださいますよう、お願い申し上げます。

(住みやすさについて)

問1 あなたが普段生活する上で、いま住んでいる地域（市町）の住み心地はどうですか。
次の項目から**1つだけ選び**、番号に○をつけてください。

- | |
|-----------------|
| 1 とても住みやすい |
| 2 どちらかといえば住みやすい |
| 3 どちらともいえない |
| 4 どちらかといえば住みにくい |
| 5 住みにくい |

問2-1 あなたがいま住んでいる地域（市町）にこれからも住みたいと思いますか。
次の項目から**1つだけ選び**、番号に○をつけてください。

- | |
|--------------------|
| 1 ずっと住み続けたい |
| 2 住み続けたいが、将来はわからない |
| 3 どちらともいえない |
| 4 良いところがあれば移りたい |
| 5 ぜひ、よそへ移りたい |



問2-2 問2-1で4または5を選んだ方にお聞きします。
どんな地域（場所）に移りたいと思いますか。以下の地域から
1つだけ選び、番号に○をつけてください。

	現在お住まい の市町の		県外
	内	外	
農村など自然環境の良い地域	1	2	3
都市部など生活に便利な地域	1	2	3
その他（具体的に)	1	2	3

問3 あなたは、普段生活する上で、いま住んでいる地域（市町）に満足していますか。

それぞれの項目について**1つだけ選び**、番号に○をつけてください。

〔 1～19それぞれの項目について
該当する番号に○をつけてください 〕

		満足している	どちらかといえば満足している	どちらかといえば不満である	どちらかといえば不満である	不満である
〔記入例〕	1 △△△……	1	②	3	4	5
1	交通の便利さ	1	2	3	4	5
2	買い物の便利さ	1	2	3	4	5
3	周辺の自然環境	1	2	3	4	5
4	食材の豊かさ、食べ物のおいしさ	1	2	3	4	5
5	地域の治安のよさ	1	2	3	4	5
6	働き口・就職先	1	2	3	4	5
7	街並みや景観の美しさ	1	2	3	4	5
8	病院、診療所などの医療施設	1	2	3	4	5
9	保育所や放課後児童クラブなどの子育て支援施設	1	2	3	4	5
10	デイサービスセンターなどの福祉施設	1	2	3	4	5
11	学校教育施設	1	2	3	4	5
12	公民館、図書館などの社会教育施設	1	2	3	4	5
13	美術館、博物館、ホールなどの文化施設	1	2	3	4	5
14	公園、広場、緑地などの施設	1	2	3	4	5
15	スポーツ、レジャーのための施設	1	2	3	4	5
16	道路の整備状況	1	2	3	4	5
17	し尿、下水、ゴミ処理などの整備状況	1	2	3	4	5
18	洪水や地震などの災害に対する安全性	1	2	3	4	5
19	総合的にみた住みよさ	1	2	3	4	5

(北陸新幹線について)

問 4-1 あなたが過去 1 年間に、3 大都市圏(東京圏、大阪圏、名古屋圏)に出かけた回数と、その際にもっとも多く利用した交通手段をご記入ください。お出かけの目的は、観光、買物、仕事、人との面会など問いません。

行 先	過 去 1 年 間 の 回 数	多く利用した交通手段 (あてはまるものに○を1つ)
東京圏	宿泊を伴うもの () 回程度	電車／飛行機 (小松空港) ／ 飛行機 (のと里山空港) ／バス／自家用車
	日 帰 り () 回程度	電車／飛行機 (小松空港) ／ 飛行機 (のと里山空港) ／バス／自家用車
大阪圏	宿泊を伴うもの () 回程度	電車／バス／自家用車
	日 帰 り () 回程度	電車／バス／自家用車
名古屋圏	宿泊を伴うもの () 回程度	電車／バス／自家用車
	日 帰 り () 回程度	電車／バス／自家用車

※参考データ：現在の3大都市圏との移動時間、運賃など(季節により違いあり)

区 間	時 間	正規の片道普通運賃	本数(片道)	備 考
金沢-東京(鉄道)	約 4 時間	13,050 円	約 13 本	越後湯沢経由
金沢-東京(鉄道)	約 4 時間 15 分	16,010 円	約 15 本	米原経由
小松-羽田(飛行機)	約 1 時間	24,600 円	約 12 便	
能登-羽田(飛行機)	約 1 時間	24,600 円	2 便	

※北陸新幹線の金沢開業後の運賃を以下のように仮定します。

区 間	時 間	正規の片道普通運賃 (仮定)	本数(往復)	
金沢-東京 (鉄道 (北陸新幹線))	2 時間 28 分 (最速)	13,050 円 (現状の越後湯沢経 由と同じと仮定)	かがやき (速達タイプ)	10 往復
			はくたか (停車タイプ)	14 往復 (他に金沢～長野 間 1 往復)

問 4-2 上記の参考データと推計のための仮定をもとに、ご想像ください。

来年 3 月 14 日の新幹線金沢開業後、東京圏に出かける回数は現在と比較して変わるとおもいますか。あてはまるものを、以下から 1 つだけ選んでご記入ください。

●宿泊を伴うお出かけ () / 日帰り ()

- | | |
|----------------------------------------|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1 現状と変わらない | <input type="checkbox"/> 2 現状より減る |
| ※現状より増える (問 4-1 の回数からどの程度増えますか?) | |
| <input type="checkbox"/> 3 1~2 回程度増える | <input type="checkbox"/> 4 3~4 回程度増える |
| <input type="checkbox"/> 5 5~10 回程度増える | <input type="checkbox"/> 6 11 回以上増える |

問 4-3 **新幹線金沢開業から 10 年強後の平成 37 年度とされている県内全線開業後、東京圏に出かける回数は現在と比較して変わるとおもいますか。あてはまるものを、以下から 1 つだけ選んでご記入ください。**

●宿泊を伴うお出かけ () / 日帰り ()

- | | |
|----------------------------------------|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1 現状と変わらない | <input type="checkbox"/> 2 現状より減る |
| ※現状より増える (問 4-1 の回数からどの程度増えますか?) | |
| <input type="checkbox"/> 3 1~2 回程度増える | <input type="checkbox"/> 4 3~4 回程度増える |
| <input type="checkbox"/> 5 5~10 回程度増える | <input type="checkbox"/> 6 11 回以上増える |

問 5-1 **来年 3 月 14 日の新幹線金沢開業後、東京圏へ出かける際に、もっとも多く利用する交通手段は何ですか。あてはまるものを 1 つ選び、番号に○をつけてください。**

- | |
|----------------|
| 1 新幹線 (電車) |
| 2 飛行機 (小松空港) |
| 3 飛行機 (のと里山空港) |
| 4 バス |
| 5 自家用車 |

問 5-2 問 5-1 の交通手段を選んだ理由は何ですか。(あてはまるものに○を 1 つ)

- | |
|-----------------------|
| 1 料金が安いと思われるから |
| 2 目的地まで早く到着できると思われるから |
| 3 乗っている時間が短いと思われるから |
| 4 その交通手段が快適だから |
| 5 その他 () |

問 5-3 新幹線金沢開業から 10 年強後の平成 37 年度とされている県内全線開業後、東京圏へ出かける際に、もっとも多く利用する交通手段は何だと思いますか。あてはまるものを **1 つ選び**、番号に○をつけてください。

- | |
|---------------|
| 1 新幹線（電車） |
| 2 飛行機（小松空港） |
| 3 飛行機（のと里山空港） |
| 4 バス |
| 5 自家用車 |

問 5-4 問 5-3 の交通手段を選んだ理由は何ですか。（あてはまるものに○を **1 つ**）

- | |
|-----------------------|
| 1 料金が安いと思われるから |
| 2 目的地まで早く到着できると思われるから |
| 3 乗っている時間が短いと思われるから |
| 4 その交通手段が快適だから |
| 5 その他（ ） |

（基盤整備について）

問 6 石川県の基盤整備について、何に重点をおいて進めればよいと思いますか。
次の項目から **3 つまで選び**、番号に○をつけてください。

- | |
|---------------------------------------------------------------------------------|
| 1 河川改修や海岸浸食対策、土砂災害対策、公共建物・民間住宅の耐震化、道路の消雪装置、緊急輸送道路の機能強化など豪雨や豪雪、地震等の自然災害に備えた施設の整備 |
| 2 幹線道路などの県内各地の時間距離を短縮し、人・モノの移動を円滑化する施設の整備 |
| 3 新幹線、空港、高速道路、港湾など県外との広域交流を拡大する施設の整備 |
| 4 観光地や温泉街の街並みや景観、道の駅や寄り道パーキングなど観光拠点の整備 |
| 5 すれ違い困難な道路の改善や歩道など安全な通行を確保する施設の整備 |
| 6 都市内の道路や公共交通の充実など渋滞解消に向けた整備や取り組み |
| 7 水や緑に親しめる公園など生活に潤いを与える空間の整備 |
| 8 インフラの機能を持続的に発揮させるため、老朽化が進む公共施設の長寿命化 |
| 9 上下水道など日常生活に密着した施設の整備 |
| 10 その他（具体的に ） |

(文化・スポーツ活動について)

問7 あなたは、どのような文化的活動（鑑賞、聴講などを含みます）を行っていますか。
次の項目から**3つまで選び**、番号に○をつけてください。

1 美術（絵画、彫刻）	7 能、謡曲	12 茶道
2 音楽	8 映像、写真	13 囲碁、将棋
3 手・工芸、陶芸	9 文学、文芸 （俳句、短歌など）	14 歴史的な建物や遺跡等の見学
4 邦楽、日舞	10 書道	15 その他 （具体的に ）
5 舞踊（ダンス・バレエなど）	11 華道	16 行っていない
6 演劇		

問8 石川県の文化活動のすそ野の拡大を図るためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の項目から**3つまで選び**、番号に○をつけてください。

1 青少年が文化活動に親しむ機会を充実する
2 文化ボランティアの育成と活動しやすい環境をつくる
3 洋楽と邦楽の共演など新たな文化の創造を進める
4 一流の音楽会や展覧会などの鑑賞機会を充実する
5 街並みや建造物、史跡など歴史的な遺産を積極的に保存・活用する
6 学校や公民館などを練習や発表など文化活動に気軽に利用できる
7 文化施設が連携して共通利用券を発行するなど利用しやすい環境をつくる
8 文化に関するいろいろな情報を提供する
9 地域の文化活動指導者や後継者を育てる
10 青少年が伝統芸能に親しむための体験活動や鑑賞機会を充実する
11 その他（具体的に ）

問9 スポーツをもっと振興させるためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の項目から**3つまで選び**、番号に○をつけてください。

1 県民が参加できる各種のスポーツ行事、大会、教室を開催する
2 スポーツ指導者を養成する
3 スポーツに関する情報を提供する
4 全国規模のスポーツ大会等を誘致・開催する
5 一流のスポーツ選手との交流の機会を設ける
6 スポーツでの国際交流を促進する
7 スポーツに関する医・科学的研究を推進する
8 学校体育施設を整備・充実し、一般に開放する
9 総合体育館や運動広場など、各種スポーツ施設を整備する
10 スポーツクラブやスポーツ団体を育成する
11 その他（具体的に ）

(国際交流活動について)

問 10 あなたは、以下の国際交流・協力活動にこれまで参加したことがありますか。

また、今後参加したいと思いますか。それぞれの項目について**1つだけ選び**、番号に○をつけてください。

		これまで参加したことがある		これまで参加したことがない	
		今後も参加したい	今後は参加したくない	今後は参加したい	今後も参加したくない
〔 1~10 それぞれの項目について 該当する番号に○をつけてください 〕					
〔記入例〕	1 △△△……	1	2	③	4
1	国際交流・協力団体などでの活動	1	2	3	4
2	外国人のホームステイの受け入れ	1	2	3	4
3	外国人研修生や留学生などとの交流	1	2	3	4
4	自治会・町会活動を通じての在住外国人との交流	1	2	3	4
5	海外旅行や留学などでのホームステイ・交流など	1	2	3	4
6	海外での技術協力活動など	1	2	3	4
7	被災地域への義援金支援など	1	2	3	4
8	発展途上国への資金や物資の援助	1	2	3	4
9	言葉や生活での外国人をサポートするボランティア	1	2	3	4
10	その他(具体的に)	1	2	3	4

問 11 在住外国人と県民の相互理解を深めるためには、どのようなことを行うべきだと思いますか。次の項目から**3つまで選び**、番号に○をつけてください。

- | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 在住外国人と県民が共に参加する国際交流イベントを開催する
2 町会や自治会活動を通して在住外国人と交流する機会を設ける
3 県民に対する外国語講座や国際理解に関する講座を開設する
4 在住外国人に対する日本語講座や生活習慣の勉強会を開設する
5 県民に対する在住外国人への偏見等をなくすための啓発活動を行う
6 在住外国人の視点からみた意見や提案をもらう機会を増やす
7 その他(具体的に) |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(雇用や産業について)

問 12 あなたは健康であったならば、何歳くらいまで仕事をしたいと思いますか。

次の中から**1つだけ選び**、番号に○をつけてください。

1 60歳くらいまで	4 75歳くらいまで
2 65歳くらいまで	5 何歳になっても働きたい
3 70歳くらいまで	6 その他 ()

問 13 あなたは60代以降に仕事を持つとすれば、どのようなことがらを重視して選びますか。次の項目か

ら**3つまで選び**、番号に○をつけてください。

1 自分の経験を活かす	7 収入
2 社会に貢献する	8 自宅でできる (自分で自由に切り盛りできる)
3 仕事時間が長くない	9 今の仕事を続けたい
4 通勤が楽である	10 その他 (具体的に)
5 あまり体力を必要としない	
6 趣味とつながる	

問 14 人口が減少すると労働人口も減り、経済の活力が衰えるおそれがあります。そのような中で、産業の担い手を確保・育成していくために、働く環境も含め、どのようなことに力を入れることが必要だと思いますか。次の項目から**3つまで選び**、番号に○をつけてください。

1 正規雇用以外のさまざまな就業形態の拡大
2 残業(所定外労働)の縮減に向けた取組みの促進
3 育児・介護を行う従業員に対する支援(育児や介護のための労働時間面での配慮等)
4 出産・育児を終えた女性の再就職への支援
5 UJIターン(※)への取組みの強化
6 若者の就職支援
7 障害者の就職支援
8 再就職支援の充実(4以外の場合)
9 職業能力開発への支援
10 専門的、技術的分野の外国人労働者の積極的活用
11 高年齢者雇用に向けた職場環境の整備(作業環境面、健康管理面など)
12 後継者育成や担い手育成確保が求められる産業への就業支援
13 その他(具体的に)

(※) Uターン、Jターン、Iターンを総称していいます。

Uターン：生活拠点を出身地へ戻すこと

Jターン：生活拠点を出身地に近い地方都市へ移すこと

Iターン：生活拠点を出身地以外の地方へ移すこと

問 15 中心市街地の空洞化に伴い、防犯・防災など地域のコミュニティ活動の縮小や商店街の賑わいの衰退といった様々な問題が生じています。中心市街地が本来有する機能を維持するためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の項目から**3つまで選び**、番号に○をつけてください。

- | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ol style="list-style-type: none">1 高齢者や子育て世代に対応した中心市街地の居住環境の整備を行う2 商店街の空き店舗、空き地の有効活用や店舗の魅力強化を図る3 公共施設（学校、図書館、病院等）等を郊外に分散させず、中心市街地に集積させる4 商店街においてイベントの工夫などを図り、集客力を高める5 まちづくりを担う人材育成を図る6 街並み景観の向上など行政、商業者、民間企業、地域住民等が連携してまちづくりを推進する7 バスや鉄道などの公共交通機関を便利にし、中心市街地に行きやすくする8 環状道路やバイパスの整備により、中心市街地の通過交通（※）をできるだけ減らし、歩きやすい環境の整備を行う9 中心市街地へのアクセス道路の整備を行い、自動車ですムーズに行けるようにする10 その他（具体的に) |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(※) 地域にとどまらず通り過ぎる車両のことをいいます。

問 16 農林水産業を魅力ある産業として活性化していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の項目から**3つまで選び**、番号に○をつけてください。

- | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ol style="list-style-type: none">1 食に関する正しい知識や農林水産業に対する理解を深める「食育」を進める2 地元でとれた農林水産物を地元で消費する「地産地消」を進める3 新商品開発や販売促進のため、食品企業や流通企業などとの連携を進める4 消費者などのニーズを反映した売れる農林水産物づくりを目指し、品質の向上や生産の拡大、ブランド化を支援する5 残留農薬の検査や食品表示の監視など、県産食材の安全・安心を確保するための仕組みを強化する6 規模拡大や経営改善など担い手の体質の強化や、安定した収入の確保、新規就農者や後継者の育成・確保を図る7 農林水産業への企業の参入を積極的に進める8 化学肥料や農薬の使用を削減するなど、環境にやさしい農林水産業への転換を進める9 世界農業遺産（※）の魅力を磨き上げ、その認定効果を高めていく10 その他（) |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(※) 近代化の中で失われつつあるその土地の環境を生かした伝統的な農業・農法、生物多様性が守られた土地利用、農業文化・農村景観を次世代へ継承していくという目的で開始されたプロジェクト。石川県では 2011 年に能登半島が、「能登の里山里海」として認定されました。

(循環を基調とした持続可能な社会、自然と人が共生する社会の実現)

問 17 農地や森林は、食料や木材を提供するだけでなく、人々の憩いの場となっているほか、地下水を豊かにしたり、洪水や山崩れを防ぐなど様々な機能を持っていますが、近年問題となっている耕作が放棄された農地の増加や森林の荒廃を防ぐため、具体的にどのような対応が必要だと思いますか。次の項目から**3つまで選び**、番号に○をつけてください。

- 1 農地や農道、林道などの農林業の生産基盤を整備する
- 2 道路や公園、下水道などを整備し、農山村の生活環境を改善する
- 3 農地や農業用水、森林などの管理を、農家や林家以外の人々も含めた地域全体で行う取組みを支援する
- 4 都市の人々が、自然とのふれあいを楽しみながら、農作業や森林の整備を行うボランティア活動を推進する
- 5 新規就農者や後継者を確保するため、地域の特産農作物の生産を拡大するなど、農業所得が増えるような経営づくりを支援する
- 6 伐採、利用から植林、育成まで一貫した林業の確立により、森林のもつ公益的機能の発揮を促進する。
- 7 農業分野への進出や、社会貢献のため農地や森林の整備を行おうとする企業の活動を支援する
- 8 その他 ()

問 18 自然と人との共生できる環境づくりを進めていくうえで、どのような方法がよいと思いますか。次の項目から**3つまで選び**、番号に○をつけてください。

- 1 里山里海の活性化を図るため住民や企業、NPOなど多様な主体の参画を進める
- 2 本来の自然の姿や変化の仕組みなどについて十分な調査研究を進める
- 3 希少な動植物が絶滅しないように、保護や復元の対策を講じる
- 4 生態系に影響を及ぼすブラックバスなどの外来種対策を講じる
- 5 鳥獣害が拡大しないように、適切な捕獲や被害防止対策を充実する
- 6 開発を行う事業主体が、十分な環境調査を実施し、保全対策を講じる
- 7 生物多様性や里山里海から得られる恵みやその価値をわかりやすく普及・啓発する
- 8 自然環境や生きものについて、実際にふれあい、親しみ、学習する機会を得られるよう環境整備を進める
- 9 本県の美しい海岸、砂浜などを保全する施設の整備を推進する
- 10 その他 (具体的に)

問 19 地球温暖化の防止をはじめ、環境にやさしい社会づくりを目指すうえで、どのような対策が必要だと思いますか。次の項目から特に重要だと思うものを**3つまで選び**、番号に○をつけてください。
 (※) 家庭のエアコン等を消して涼しい場所に出かけることにより、節電につなげる取組みのことをいいます。

- | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 学校や保育所、職場や地域での環境教育や環境保全活動を促進する 2 家庭での省エネ・節電、省資源活動を推進する（例、クールシェア（※）の実践、エアコンの設定温度など身近なことから始められるエコ活動など） 3 住宅の省エネ化を推進する（例、太陽光発電の導入、省エネ家電・設備の導入など） 4 省エネ・省資源など環境に配慮した産業活動の推進やリサイクル産業など環境ビジネスに対する支援策を講じる 5 廃棄物の排出抑制や分別排出の徹底、廃棄物の再利用、リサイクルを推進する 6 産業廃棄物の不法投棄の監視を強化する 7 公共交通機関の利用やエコドライブ、次世代自動車の普及などを推進する 8 河川、湖沼等の水質を保全するため、下水道などの生活排水処理施設の整備を促進する 9 県民、事業者、民間団体、行政等が協力した取組みを推進する
（地域において環境を守り育てる力を養い育てる） 10 商品価値が低いことを理由に、伐採後に運び出されていない間伐材の利用を促進する 11 その他（具体的に) |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(安全・安心について)

問 20 災害等から生命、身体、財産を守るため、特に力を入れてほしい対策はどのようなことですか。次の項目から**3つまで選び**、番号に○をつけてください。

- | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 地震の疑似体験や講演会等を通して防災意識の啓発を図り、「自分の身は自分で守る」という「自助意識」を高める 2 自主防災組織（※）の充実強化を図り、隣近所で助け合うという「共助意識」を高める 3 災害時に円滑な避難所運営等が図られるようマニュアルを整備するなど、機動的な体制づくりに努めるとともに、避難訓練等を通して住民に周知を図る 4 災害発生初期に必要な食料、飲料水等の非常物資の備蓄を充実する 5 気象情報や地震、水害、土砂災害などの災害情報の住民への迅速・的確な伝達体制を構築する 6 高齢者等の避難行動要支援者の対策を充実する 7 消防団活動の活性化を図り、地域の消防団員の増強を図る 8 災害ボランティアを育成するための研修等を充実する 9 大規模災害に対応できるよう広域化など消防体制を充実強化する 10 武力攻撃事態等における避難や救援の仕組みを定めた国民保護計画の啓発と訓練を通じ計画の実効性を高める 11 災害時における救命活動や支援物資の輸送を行うために必要な緊急輸送道路の機能を強化する 12 豪雨や台風、冬期波浪などの自然災害から生命、財産を守るため、河川改修や海岸保全施設などの整備を促進する 13 その他（具体的に) |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(※) 「自分たちの地域は自分たちで守る」ため、自主的に結成する組織です。町内会や自治会組織の単位で設置・運営しているケースが多くあります。

問 21 犯罪被害から子どもを守るため、どのような取組みが必要だと思いますか。特に必要だと思うものを次の項目から**3つまで選び**、番号に○をつけてください。

- 1 警察官によるパトロール（特に通学路や登下校時間帯）を強化する
- 2 学校や家庭、地域に対して声かけ事案などの不審者情報を迅速に提供する
- 3 地域ぐるみ(PTA、防犯ボランティア団体等)による子ども見守り活動を強化する
- 4 学校で緊急時（連れ去りや声かけなど）の対処方法などの安全教育を行う
- 5 家庭においても日頃から防犯について話し合う
- 6 防犯ブザー等の携帯を呼びかける
- 7 街灯の設置など子どもの安全確保に配慮したまちづくりを推進する
- 8 その他（具体的に)

（少子・高齢化について）

問 22 高齢社会の到来を迎え、どのような対策が必要だと思いますか。それぞれの枠の中から必要だと思う項目を**3つまで選び**、番号に○をつけてください。

サービスについて（3つまで選び、番号に○）

- 1 要介護状態になることを予防する取組みを推進する
- 2 24時間対応可能な在宅介護サービスを充実する
- 3 サービス付き高齢者向け住宅など高齢者向けの住まいを充実する
- 4 ボランティアなどによる高齢者の日常生活を支える地域づくりを推進する
- 5 在宅において医療と介護を一体的に受けられることができるよう医療職と介護職の連携を推進する
- 6 特別養護老人ホームなど入所介護施設を充実する
- 7 早期発見や地域による見守りなど認知症施策を推進する
- 8 高齢者サロンなど地域における高齢者の通いの場を充実する
- 9 高齢者の介護を担う家族への支援を充実する
- 10 高齢者に対する虐待防止など権利を擁護する対策を充実する
- 11 その他（具体的に)

健康・生きがいづくりについて（3つまで選び、番号に○）

- 1 健康診断、介護予防、健康管理対策を充実する
- 2 体力づくりなど健康増進対策を推進する
- 3 高齢者の能力に合った働く場を確保する
- 4 老人クラブや趣味の会などを育成する
- 5 老後に備えた生涯学習の場を充実する
- 6 ボランティアなど奉仕活動に参加する場を充実する
- 7 毎日の生活の中で家族や友人などとのふれあいの場を充実する
- 8 その他（具体的に)

問 23-1 すこやかに子どもを生き育てていくために支援していく分野として、大切だと思われる分野を次の項目から**3つまで選び**、番号に○をつけてください。

- | | | |
|---------------|-----------|--------------|
| 1 結婚 | 2 妊娠・出産 | 3 子育て支援 (※1) |
| 4 子どもの育ち (※2) | 5 働き方の見直し | |

(※1) 親が子どもをどう育てていくかに関することをいいます。

(※2) 子どもがどう育っていくかに関することをいいます。(具体的には問 23-5 をご覧ください。)

問 23-2 結婚支援として、どのような施策に力を入れていく必要があると思いますか。次の項目から**2つまで選び**、番号に○をつけてください。

(結婚)

- | |
|----------------------------------------|
| 1 出会いの機会の創出 (パーティーなど) |
| 2 見合いなどをお世話する支援やサービス |
| 3 結婚講座の開催 (異性とのコミュニケーション、ファッション、マナーなど) |
| 4 出会いや結婚に必要な情報の提供や相談窓口の充実 |
| 5 結婚費用や結婚後の住まい、暮らしへの支援 |
| 6 その他 (具体的に) |

問 23-3 妊娠・出産支援として、どのような施策に力を入れていく必要があると思いますか。次の項目から**2つまで選び**、番号に○をつけてください。

(妊娠・出産)

- | |
|-------------------------------|
| 1 若い世代への妊娠・出産・育児に関する知識の啓発 |
| 2 不妊治療費の負担軽減及び不妊に関する相談窓口の充実 |
| 3 妊娠・出産に関する相談窓口の充実 |
| 4 マタニティマークの普及啓発などの妊婦に優しい環境づくり |
| 5 産後早期からの母子への心身のケアの充実 |
| 6 その他 (具体的に) |

問 23-4 子育て支援として、どのような施策に力を入れていく必要があると思いますか。次の項目から **2 つまで選び**、番号に○をつけてください。

(子育て支援)

- 1 医療費や保育料の助成などの経済的支援の充実
- 2 教育費の負担軽減
- 3 子育て支援サービス（保育所、放課後児童クラブなど）の充実
- 4 子育て支援に関する相談窓口の充実
- 5 三世帯同居や近居の促進
- 6 その他（具体的に)

問 23-5 子どもの育ちを支援するために、どのような施策に力を入れていく必要があると思いますか。次の項目から **2 つまで選び**、番号に○をつけてください。

(子どもの育ち)

- 1 次代を担う子どもたちに命の大切さや子どもを生み育てることの意義について理解を深める機会の提供
- 2 子どもの心の問題（ひきこもり、いじめなど）に対するケア
- 3 子どもの健全育成（様々な体験事業や携帯電話等の利用規制など）
- 4 食に関する知識と食を選択する力（栄養バランスや安全性を考えた食などを選択する力）を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる「食育」の推進
- 5 子どもの貧困対策の推進
- 6 その他（具体的に)

問 23-6 仕事と子育ての両立に向けて、働き方の見直しを進めていくためには、どのような施策に力を入れていく必要があると思いますか。次の項目から **2 つまで選び**、番号に○をつけてください。

(働き方の見直し)

- 1 子育てに対する企業・職場の理解の促進
- 2 休暇・休業制度の企業や労働者への周知
- 3 出産、子育てが一段落した後の再雇用制度の充実
- 4 働き方の見直しに関する取組み手法の企業へのアドバイス
- 5 大学生など若い世代が将来の仕事と生活の両立について考える機会の提供
- 6 その他（具体的に)

(人口減少対策について)

問 24 人口減少対策として、どのようなことが重要だと思いますか。次の項目から **3 つまで選び**、番号に○をつけてください。

- 1 出合いの場の提供など総合的な結婚支援策の推進
- 2 妊娠・出産のための環境整備
- 3 保育所の充実など子育て支援策の推進
- 4 ワークライフバランスの推進など男女ともに子育てしながら働きやすい環境の整備
- 5 企業誘致や就農支援策の強化など、若者が地方にとどまり働き続ける雇用の場の創出
- 6 若者の転出をとめるための郷土教育の向上
- 7 移住者を呼び込むため、都市圏に向けた石川の暮らしの魅力発信
- 8 その他 ()

問 25 これまでに UIJ ターン (※) により石川で就職、定住した経験のある方にお聞きします。県外から石川を選び就職、移住をする決め手となった理由としてどれが当てはまりますか。次の項目から **3 つまで選び**、番号に○をつけてください。

- 1 地元だから
- 2 観光等で石川県に訪れた際に魅力を感じたから
- 3 保育施設や子育て支援制度の充実など、育児のしやすい環境が整っていたから
- 4 都会から程よく離れていて住環境が良かったから
- 5 豊かな伝統文化や自然が魅力だったから
- 6 元の居住地より生活費が低く抑えられるから
- 7 希望する働き口があったから
- 8 転勤のため
- 9 手厚い就農支援体制が魅力だったから
- 10 移住を相談した際に勧められたから
- 11 家族の理解が得られたから
- 12 特に理由はない
- 13 その他 ()

(※) Uターン、Jターン、Iターンを総称していいいます。

Uターン：生活拠点を出身地へ戻すこと

Jターン：生活拠点を出身地に近い地方都市へ移すこと

Iターン：生活拠点を出身地以外の地方へ移すこと

(保健・医療・福祉について)

問 26 健康に関する情報で、今もっとも興味のあるものはなんですか。次の項目から **3 つまで選び**、番号に○をつけてください。

- | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 適切な運動に関する情報
2 安全な食品や適切な栄養に関する情報
3 快適で適切な睡眠に関する情報
4 内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)(※)などを要因とする、生活習慣病(糖尿病、高血圧、がん等)に関する情報
5 食物アレルギーやアトピーなどアレルギーに関する情報
6 健康食品やサプリメントに関する情報
7 ストレス、うつ病、ひきこもりなどに関する情報
8 その他(具体的に) |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(※) 内臓脂肪の蓄積が、高血糖、高血圧、高脂血等を引き起こし、心筋梗塞や脳卒中などが起きやすくなる状態のことをいいます

問 27 以下の 1～5 の場合、どの医療機関を利用していますか、あるいは利用しようと思いませんか。それぞれの項目について **1 つだけ選び**、番号に○をつけてください。「その他」の場合には、() 内に具体的なあなたの行動等をお書きください。

[1～5それぞれの項目について 該当する番号に○をつけてください]	大学病院 や 県立病院 (※1)	近くの 病院	近くの 診療所 (※2)	その他 (具体的に)
	[記入例] 1 ΔΔΔ・・・	1	2	3
1 脳卒中や心臓病、がんなど 重い病気の場合	1	2	3	4 ()
2 風邪など軽い病気の場合	1	2	3	4 ()
3 夜間や休日にけがをした場合	1	2	3	4 ()
4 夜間や休日に子どもが 急に高熱を発した場合	1	2	3	4 ()
5 交通事故や転倒事故の後の リハビリテーションの場合	1	2	3	4 ()

(※1) 独立行政法人国立病院機構金沢医療センターを含みます。

(※2) ○○クリニックや○○医院などを含みます。

問 28 障害のある人の社会参加を進めるためには、どのようなことが必要だと思いますか。

次の項目から **3 つまで選び**、番号に○をつけてください。

- | |
|------------------------------------------------|
| 1 県民が障害についての理解を深め、障害を理由とする差別を解消するための啓発・広報活動 |
| 2 スポーツや文化活動等いろいろな分野での交流の推進 |
| 3 障害の原因となる病気の早期発見や、治療や療育、リハビリ等の充実 |
| 4 障害のある人の適性と能力に応じた雇用の場の拡大 |
| 5 障害年金などの所得保障 |
| 6 民間施設のバリアフリー環境の整備や福祉用具の研究開発の推進 |
| 7 障害のある人が地域で暮らすために必要なグループホーム・ホームヘルプ等の福祉サービスの充実 |
| 8 障害のある人やその家族が身近な場で相談できる環境の整備 |
| 9 その他（具体的に) |

(教育関係について)

問 29 学校教育について、どのようなことに力を入れてほしいと思いますか。

次の項目から **3 つまで選び**、番号に○をつけてください。

- | |
|---------------------------|
| 1 読み・書き・計算など基礎・基本を習得する |
| 2 専門的・技術的な知識や技能を身につける |
| 3 創造的な能力や自主性、個性を伸ばす |
| 4 食事や挨拶などの基本的な生活習慣を育成する |
| 5 郷土愛や社会規範意識を育てる |
| 6 体位・体力を伸ばす |
| 7 将来の社会人として必要な勤労観、職業観を育てる |
| 8 その他（具体的に) |

問 30 大学など高等教育機関の集積（※）をさらに生かすためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の項目から**3つまで選び**、番号に○をつけてください。

- 1 大学間連携を一層強め、他大学などで単位を取得できるシステムの充実などにより、教育研究の効果を高める
- 2 広く一般県民が大学の授業を受ける機会を増やし、学びの機会の充実を図る
- 3 大学の教官や学生による地域交流や地域づくりの参画を進め、地域の活性化を図る
- 4 地域に密接した課題の研究などその研究成果を地域に還元できるよう研究支援体制を整備する
- 5 研究発表の機会を多くし、その成果を各方面で生かせるようにする
- 6 大学の教官、留学生などを対象にした国際交流の推進を図る
- 7 その他（具体的に _____）

（※）石川県における大学・短大及び高等専門学校数は、全国第2位（人口10万人当たり）、学生数は全国第3位（人口千人当たり）となっています。

（平成25年5月現在 文部科学省学校基本調査及び総務省統計局の推計人口による）

問 31 生涯学習・社会教育について、どのようなことに力を入れてほしいと思いますか。

次の項目から**3つまで選び**、番号に○をつけてください。

- 1 成人学級や高齢者学級などを充実する
- 2 放送を利用した講座、通信教育などを充実する
- 3 大学、高校の公開講座などを充実する
- 4 公民館や図書館などの学習施設を充実する
- 5 県民のグループ、サークル活動などを組織化する
- 6 学習情報の提供や相談体制を充実する
- 7 指導者の養成体制を整備する
- 8 地域の学習会や出前講座などの充実のために講師を充実する
- 9 青少年の体験活動を充実する
- 10 その他（具体的に _____）

（効率的・効果的な行財政運営について）

問 32 より効率的・効果的な行財政運営に向け、どのような取組みが必要だと思いますか。次の項目から、特に重要だと思うものを**3つまで選び**、番号に○をつけてください。

- 1 政策課題に柔軟かつ機動的に対応できる組織づくり
- 2 職員の資質や能力の向上
- 3 県政情報提供の充実、県政への県民参加の促進
- 4 地域における多様な主体（NPO、市町、企業、大学等）との連携・協働
- 5 民間ノウハウの活用（県が行っている業務の民間への委託など）
- 6 歳出の抑制（県が行う事務事業・補助金の見直しなど）
- 7 歳入の確保（税金の徴収対策の強化など）
- 8 その他（具体的に _____）

(まとめ)

問 33 最後に、これまでお聞きした設問に関することや県政全般について、ご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

(記入欄)

これからお伺いする質問は、これまでのご意見、ご回答を統計としてまとめるために必要ですので、ぜひお答えください。

F1 あなた（回答者ご本人）の性別をお答えください。

1	男	2	女
---	---	---	---

F2 あなたの年齢は以下のどれに該当しますか。番号に○をつけてください。

1	20歳～24歳	7	50歳～54歳
2	25歳～29歳	8	55歳～59歳
3	30歳～34歳	9	60歳～64歳
4	35歳～39歳	10	65歳～69歳
5	40歳～44歳	11	70歳～74歳
6	45歳～49歳	12	75歳以上

F3 あなたの現在の職業は以下のどれに該当しますか。番号に○をつけてください。

1	会社員（事務系・技術系）
2	〃（労務・販売・サービス系）
3	管理職（部・課長、役員など）
4	商・工・サービス業（小売店・飲食店など）の自営業者・家族従事者
5	農・林・漁業の自営業者・家族従事者
6	自由業（開業医・弁護士・芸術家など）の自営業者・家族従事者
7	専業主婦（主夫）
8	学 生（予備校・専門学校含む）
9	無 職
10	その他（具体的に)

F4 現在の場所（市町）にお住まいになって何年になりますか。該当する番号に○をつけてください。

- | | |
|---|------------------------|
| 1 | 1年未満 |
| 2 | 1年以上5年未満 |
| 3 | 5年以上10年未満 |
| 4 | 10年以上20年未満 |
| 5 | 20年以上30年未満（生まれた時からずっと） |
| 6 | 〃（生まれた所は違う） |
| 7 | 30年以上（生まれた時からずっと） |
| 8 | 〃（生まれた所は違う） |

F5 現在あなたと一緒に住まいの方の人数は、あなたを含めて何人ですか。該当する番号に○をつけてください。

- | | | | |
|---|-----------|---|------|
| 1 | 1人（ご本人だけ） | 5 | 5人 |
| 2 | 2人 | 6 | 6人 |
| 3 | 3人 | 7 | 7人以上 |
| 4 | 4人 | | |

F6 現在あなたと一緒に住まいの方は、以下のどれに該当しますか。該当する番号すべてに○をつけてください。

- | | | | | | |
|---|---|---|---|---|--------|
| 1 | 妻 | 3 | 子 | 5 | 祖父母 |
| 2 | 夫 | 4 | 親 | 6 | 孫 |
| | | | | 7 | その他（ ） |

F7 あなたを含めて、いま一緒に住まいの方の中に、以下のような方はいらっしゃいますか。該当する番号すべてに○をつけるとともに、（ ）にその人数を記入ください。

- | | | | |
|---|----------------|---|--------------------------|
| 1 | 小学校入学前の乳幼児（ ）人 | 5 | 大学生（※）（ ）人 |
| 2 | 小学生（ ）人 | 6 | 65歳以上の方（ ）人 |
| 3 | 中学生（ ）人 | 7 | そのような人はいない |
| 4 | 高校生（ ）人 | | （※）大学生には予備校、専門学校、高専短大を含む |

F8 あなたが現在住まいの市町はどこですか。該当する番号に○をつけてください。

- | | | | |
|----|------|----|-------|
| 1 | 金沢市 | 11 | 野々市市 |
| 2 | 七尾市 | 12 | 川北町 |
| 3 | 小松市 | 13 | 津幡町 |
| 4 | 輪島市 | 14 | 内灘町 |
| 5 | 珠洲市 | 15 | 志賀町 |
| 6 | 加賀市 | 16 | 宝達志水町 |
| 7 | 羽咋市 | 17 | 中能登町 |
| 8 | かほく市 | 18 | 穴水町 |
| 9 | 白山市 | 19 | 能登町 |
| 10 | 能美市 | | |

ご協力ありがとうございました。同封の返信用封筒（切手不要）でご返送ください。

※ 調査結果については、見直しの貴重な資料として活用するとともに、今年度中にホームページ等にその概要を掲載する予定です。

石川県民意識調査

平成 27 年 3 月発行

石川県企画振興部企画課

〒920-8580 石川県金沢市鞍月 1 丁目 1 番地

電話 : 076-225-1323 FAX : 076-225-1315

kikakuka@pref.ishikawa.lg.jp